

**2024Jリーグ  
アカデミー活動助成金制度  
活動報告書**

2025年2月  
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

## ご挨拶

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 野々村 芳和



2025シーズンが開幕し、全国各地で熱い戦いが繰り広げられています。

開幕して30周年を経ましたが、次の30年で世界トップ水準のリーグになるために、シーズンの開催時期や選手の契約制度など、Jリーグの基盤を多角的に見直しているなか、今年は特に「オン・ザ・ピッチにおけるフットボールの改革」への取り組みに注力しています。

世界トップ水準のリーグでは、試合時間における「アクチュアルプレーイングタイム(プレー時間)」が長く、そのなかで強度の高いアグレッシブなサッカーが展開されています。世界トップの選手たちがJリーグでのプレーを望むような、強度の高いプレーが展開され、日本にいながら世界を体感できる。そのような景色を、次の30年という先のことではなく、遠からず見ることができるように、今シーズンからコンタクトが強く深い、強度の高い試合をJリーグで展開することに取り組んでいます。

Jリーグが目指す姿に近付くためには、トップカテゴリーだけでなく育成年代の成長を促すことも欠かせません。選手たちが若い頃から世界トップ水準を体験し、多感な時期に日常では体験できない異文化に触ることは、サッカー選手として、また、一人の人間としての可能性を大きく広げます。

そして、その選手達を支える指導者が育成に優れたクラブとじっくりと向き合って学び、育成環境に還元すること。各クラブのホームタウンで国内外のチームと対戦できる試合環境を作ることは、Jリーグが目指す姿に近付くための基礎作りといえます。

その基礎作りをJリーグの育成年代全体で取り組むために、昨年、「Jリーグアカデミー活動助成金制度」を設け、制度を利用して多くの事業が行われました。今年も継続し、さらに参加クラブや選手・指導者を増やし、彼らがJリーグの目指す景色を自らつくり出すような活躍をしてくれることを願っています。

最後に、海外への渡航や滞在に協力してくださった皆様や、現地で受け入れてくださった各クラブや大会主催者の皆様。文化交流や社会学習にご協力くださった皆様。そして、ホームタウンでの大会開催にご協力いただいた皆様をはじめ、活動にご協力くださった多くの皆様に心より感謝申し上げます。

## 2024Jリーグアカデミー活動助成金制度 活動報告書の制作にあたって

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ フットボールダイレクター 足立 修

「Jリーグアカデミー活動助成金制度」は、「Jリーグアカデミー全体の底上げ」、「特筆した才能を持つ若い選手の発掘と育成」のふたつを目的に据えて2024年にスタートし、初年度は本活動助成金を活用して、Jクラブ全60クラブのうち44クラブによる80件の事業が行われました。



活動の種類は、①チーム単位で行う「海外遠征」、②少人数で海外クラブのアカデミーチームで経験を積む「海外研修」、③日本国内での「国際大会主催」、④年間を通じてリーグ戦を行う「国内大会主催」、⑤その他制度の趣旨に沿った活動といった5つの活動に分けられ、各クラブのアカデミー活動の目的に沿って活動が計画されました。中でも海外での活動が最も多く、全80件の事業のうち「海外遠征」と「海外研修」が68件と、全体の9割を占めています。

海外遠征や海外研修はアジア、ヨーロッパを中心に行われました。「かわいい子には旅をさせろ」のことわざ通り、参加した選手たちは新たな経験や日本国内では得られない刺激受けることにより、フットボールプレイヤーとしてのモチベーションを高めて帰ってきました。遠征・研修先では、フットボールだけでなく、異国の文化に触れる機会や、食事の準備や洗濯などを通じて海外生活を疑似体験するなど、貴重な経験をすることができました。

活動実施後、実際に2024年のうちに活動が具体的に実を結んだ選手もいます。トップチームとプロ契約した選手、トップチームでの試合出場機会を得た選手、カテゴリーごとの日本代表に選ばれた選手、クラブ内で上のカテゴリーに昇格した選手がいるなど、この事業を通じて育成年代の選手のポテンシャルを再認識することができました。

また、育成にはよい指導者が必要不可欠ですが、彼らもまた海外で学ぶ機会をもった事例もありました。国際大会・国内大会を主催したクラブは、ホームタウンの皆様と連携しながら、地域の特徴を生かした大会や国内における国際交流の機会を作ることができました。

活動終了後は、全クラブのアカデミーダイレクターを集めた報告会などを通じて活動内容を共有しています。他のクラブの活動を自身の活動に生かし、クラブの垣根を越えて選手育成、指導者養成の環境を底上げすることができるのも、Jリーグならではのことだと思います。この報告書を通じて、Jクラブのみならず、選手育成にかかる多くの方々の活動材料となればと願っています。

一年間事業を行い、この事業にはメリットしかないと考えています。

二年目の2025年も本事業を継続しますが、さらに各クラブが可能性を追求するサポートをJリーグが全力で推進していきたいと考えています。

**目次** ※クラブ名をクリックすると各クラブの報告書にジャンプします

ご挨拶	2
活動報告書の制作にあたって	3
目次	4
<b>実施概要</b>	5
実施概要	6
活動一覧	8
<b>各クラブ報告書</b>	13
北海道コンサドーレ札幌	14
ベガルタ仙台	20
モンテディオ山形	24
いわきFC	28
鹿島アントラーズ	32
水戸ホーリーホック	34
ザスパ群馬	36
浦和レッズ	38
柏レイソル	42
FC東京	48
東京ヴェルディ	54
FC町田ゼルビア	56
川崎フロンターレ	60
横浜F・マリノス	64
横浜FC	68
Y. S. C. C. 横浜	70
湘南ベルマーレ	72
ヴァンフォーレ甲府	76
松本山雅FC	80
アルビレックス新潟	82
カターレ富山	86
ツエーゲン金沢	88
清水エスパルス	94
ジュビロ磐田	96
藤枝MYFC	100
アスルクラロ沼津	102
名古屋グランパス	106
FC岐阜	110
京都サンガF.C.	114
ガンバ大阪	118
セレッソ大阪	120
奈良クラブ	124
ファジアーノ岡山	126
サンフレッチェ広島	130
徳島ヴォルティス	134
愛媛FC	136
FC今治	142
アビスパ福岡	144
サガン鳥栖	154
V・ファーレン長崎	156
ロアッソ熊本	160
大分トリニータ	166
テゲバジヤ一口宮崎	170
FC琉球	172





# 2024Jリーグアカデミー活動助成金制度

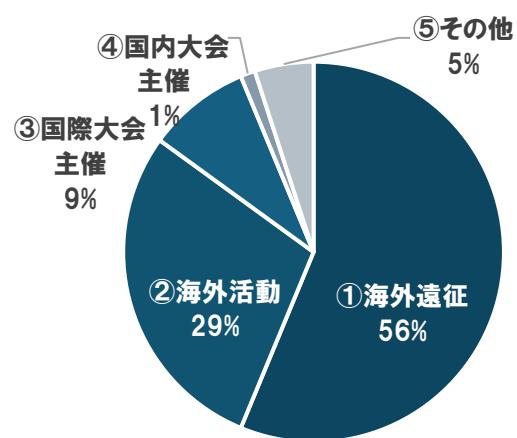
## 実施概要

## 2024Jリーグアカデミー活動助成金制度 実施概要

<b>■目的</b>	Jリーグアカデミー活動助成金(以下、「本助成金」)は、Jリーグアカデミーの3つの方針、「 <b>自クラブで活躍する選手の育成</b> 」、「 <b>移籍金収益を獲得するための選手育成</b> 」、「 <b>自クラブを応援する人の育成</b> 」を推進するため、クラブが取り組む施策のうち、「世界基準をクラブ内に構築するための選手や指導者の国際経験の機会創出」、「選手が定期的な試合経験を積むための国内における試合環境の構築」の事業を支援することで、「各クラブの育成戦略に基づいた追加的施策の企画、立案、実行を促進し、選手、指導者個々が成長すること」。また、「再現性のあるアカデミーの仕組みを構築し、持続的に発展すること」、そして、この活動を通して、Jリーグ・Jクラブでナレッジを共有することにより、Jリーグアカデミー全体の底上げを目的とする。
<b>■概要</b>	本助成金は、2024 年中に行われる選手、指導者の育成に紐づくクラブの活動のうち、特に、「国際経験の機会創出」と「定期的な試合環境の構築」を対象とする。助成金額は 1 クラブ 400 万円かつ総額の 50% を上限とする。ただし、7/30 以降、選手個人等の海外活動は追加で 100 万円活用可能とし、その場合は 1 クラブ 500 万円かつ総額の 50% が上限となる。
<b>■実施期間</b>	2024 年 1 月～2024 年 12 月末
<b>■参加クラブ数</b>	44 クラブ
<b>■実施件数</b>	80 件
<b>■参加人数</b>	約 4,000 名の選手、スタッフが助成金を活用した取り組みに参加
<b>■活動種別</b>	<ul style="list-style-type: none"><li><b>①海外遠征(チーム単位)</b><ul style="list-style-type: none"><li>→ チーム単位での海外遠征。現地での大会参加等。</li></ul></li><li><b>②海外活動(個人)</b><ul style="list-style-type: none"><li>→ 選手若干名の海外クラブへの練習参加、指導者の海外クラブ始動研修等。</li></ul></li><li><b>③国際大会主催</b><ul style="list-style-type: none"><li>→ ホームタウンにて海外クラブを招聘した国際大会を開催</li></ul></li><li><b>④国内大会主催(年間を通じたリーグ戦)</b><ul style="list-style-type: none"><li>→ 国内で年間を通じたリーグ戦の開催</li></ul></li><li><b>⑤その他(上記①～④を原則とするが、目的に沿っていると特別に認めた活動)</b></li></ul>

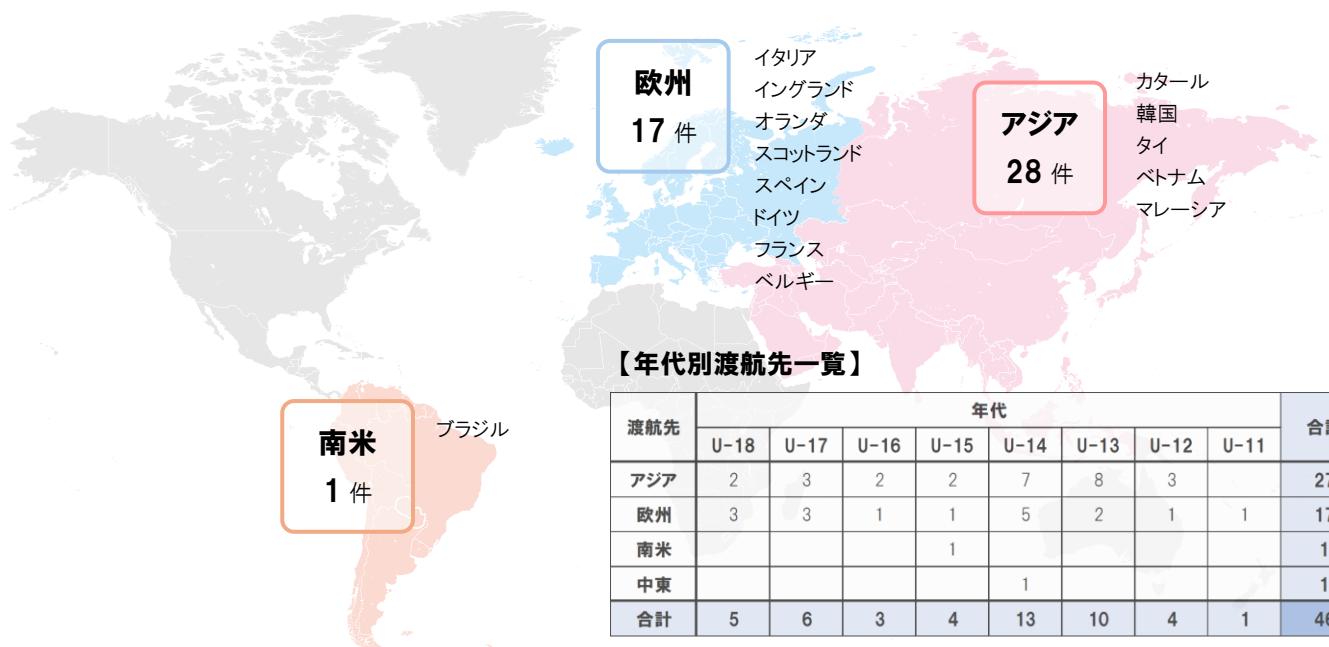
## ■活動の内訳

助成対象活動	件数	実施率
① 海外遠征 (チーム単位)	45	56%
② 海外活動 (個人)	23	29%
③ 国際大会主催	7	9%
④ 国内大会主催 (年間を通じたリーグ戦)	1	1%
⑤ その他	4	5%
<b>合計</b>	<b>80</b>	



## ■海外活動／活動別実施件数

### ①海外遠征(チーム) 全 45 件



### ②海外活動(個人) 選手:18 名、指導者:14 名

U-18	1								
U-17			8						
U-16		5							
U-15	2								
U-14	0								
U-13	1								
U-12	1								
指導者					14				

## 2024Jリーグアカデミー活動助成金制度 活動一覧

クラブ名	対象活動の名称 ※活動名をクリックすると、当該ページに移動します	期間	渡航先(海外)	対象年代	対象活動					
					活動分類	①	②	③	④	⑤
札幌	Jリーグ人材育成継続学習 CPD イベント 2024 Part2	6月2日～10日	フランス	U-21	②海外活動(個人)		■			
札幌	「2024 CONSADOLE SUMMER CUP in HOKKAIDO」開催	8月7日～9日	—	U-18、U-17、U-16	③国際大会主催			■		
札幌	北海道コンサドーレ札幌 石川直樹 アスレティック・ビルバオ研修	10月18日～29日	スペイン	指導者	②海外活動(個人)		■			
仙台	ベガルタ仙台 U-15 オランダ遠征	10月11日～21日	オランダ	U-15	②海外活動(個人)		■			
仙台	ベガルタ仙台 U-13 チームベトナム遠征	12月11日～17日	ベトナム	U-13	①海外遠征	■				
山形	指導者のスペイン研修	8月17日～24日	スペイン	指導者	②海外活動(個人)		■			
山形	モンテディオ山形ジュニアユース U-13 ベトナム遠征 「ABeam ASIA CHALLENGE CUP 2024」開催	12月4日～10日	ベトナム	U-13	①海外遠征		■			
いわき	いわき FC U-18 タイ強化遠征	8月9日～13日	タイ	U-18	①海外遠征		■			
いわき	いわき FC U-15 タイ強化遠征	12月6日～10日	タイ	U-15	①海外遠征		■			
鹿島	「第24回日伯友好カップ」参加	8月22日～9月3日	ブラジル	U-15	①海外遠征		■			
水戸	水戸ホーリーホックジュニアユース(U-14)スペイン遠征／「OVIEDO CUP」参加	3月25日～4月2日	スペイン	U-14	①海外遠征		■			
群馬	「ザスパ群馬 U-11 INTERNATIONAL CUP」開催	12月20日～24日	—	U-11	③国際大会主催			■		
浦和	浦和レッズ U-18 ドイツ遠征	3月9日～18日	ドイツ	U-18、U-17	①海外遠征	■				
浦和	フェイエノールトへ指導者と選手の短期留学	12月10日～24日	オランダ	U-16	②海外活動(個人)		■			
柏	柏レイソル U-14 サウジアラビア遠征	1月15日～20日	サウジアラビア	U-14	①海外遠征		■			
柏	柏レイソル U-12 スペイン／ポルトガル遠征 （「AROUSA FUTBOL 7」参加）	5月13日～21日	スペイン	U-12	①海外遠征		■			
柏	アカデミードイツ(フォルトナ・デュッセルドルフ/SC パーダーボルン 07)留学	8月4日～18日	ドイツ	U-17、指導者	②海外活動(個人)			■		
FC 東京	FC東京 U-18 ドイツ遠征	3月22日～30日	ドイツ	U-17	①海外遠征	■				
FC 東京	FC東京 U-15 むさしオランダ遠征	5月3日～12日	オランダ	U-14	①海外遠征		■			
FC 東京	FC東京 U-17 選手・指導者海外個人留学	12月12日～26日	スペイン	U-17、指導者	②海外活動(個人)			■		
東京 V	東京ヴェルディ U-14 スコットランド遠征	7月30日～8月8日	スコットランド	U-14	①海外遠征		■			
町田	FC町田ゼルビア U-17 リヨン遠征	8月12日～24日	フランス	U-17	①海外遠征		■			
町田	FC町田ゼルビア U-13、U-12 リヨン個人留学	12月1日～16日	フランス	U-13、U-12	②海外活動(個人)			■		
川崎 F	ビジャレアル探求の旅 in 2024	4月24日～5月1日	スペイン	指導者	②海外活動(個人)			■		
川崎 F	「第6回ベトナム日本国際ユースカップ U-13」参加	12月11日～16日	ベトナム	U-13、指導者	①海外遠征	■				

クラブ名	対象活動の名称 ※活動名をクリックすると、当該ページに移動します	期間	渡航先(海外)	対象年代	対象活動					
					活動分類	①	②	③	④	⑤
横浜 FM	横浜F・マリノス U-11 マンチェスター遠征	5月 6 日～14 日	イングランド	U-11	①海外遠征					
横浜 FM	横浜F・マリノス U-14 韓国遠征	10月 24 日～27 日	韓国	U-14	①海外遠征					
横浜 FC	横浜FCU-14 ポルトガル遠征／「IBRA CUP」参加、オリヴェirense訪問・交流試合実施	3月 24 日～4月 3 日	ポルトガル	U-14	①海外遠征					
YS 横浜	マルベーリヤFC(スペイン)へ選手および指導者の短期留学	8月 6 日～15 日	スペイン	U-18	②海外活動(個人)					
湘南	「コパベルマーレ U-11 パイロットインターナショナルトーナメント」開催	6月 22 日～23 日	—	U-11	③国際大会主催					
湘南	湘南ベルマーレ U-18 選手ウルブス短期留学	8月 16 日～27 日	イングランド	U-17、U-16、指導者	②海外活動(個人)					
甲府	ヴァンフォーレ甲府アカデミーエリート選手の海外(オランダ)留学	3月 21 日～4月 1 日	オランダ	U-17、U-16	②海外活動(個人)					
甲府	ヴァンフォーレ甲府 U-14 タイ遠征 「U-14 アセアンドリームフットボールトーナメント」参加	7月 20 日～28 日	タイ	U-14	①海外遠征					
松本	「U-17 RAZUSO インターナショナルカップ」開催	11月 23 日～24 日	—	U-17	③国際大会主催					
新潟	「U14 ASEAN Dream Football Championship 2024 タイ」参加	7月 21 日～28 日	タイ	U-14	①海外遠征					
新潟	CPD イベント Part2 第 50 回モーリスレベルトーナメント グループステージ観察、欧州クラブ/団体への訪問/観察	6月 2 日～10 日	フランス	指導者、その他	②海外活動(個人)					
富山	2024 カターレ富山 U-13 ベトナム遠征	12月 4 日～10 日	ベトナム	U-13	①海外遠征					
金沢	ツエーゲン金沢 U-12 韓国遠征	7月 29 日～8月 5 日	韓国	U-12	①海外遠征					
金沢	「ツエーゲンカップ U-13 2024」開催	7月 30 日～8月 1 日	—	U-13	③国際大会主催					
金沢	「第 2 回ツエーゲン金沢 J League U-11」開催	8月 6 日～8 日	—	U-11	③国際大会主催					
清水	2024 清水エスパルス U-14 海外遠征 「Glico チャレンジツアー」	8月 25 日～9月 3 日	スペイン	U-14	①海外遠征					
磐田	ジュビロ磐田 U-13 タイ遠征 「Chang U-13 INTERNATIONAL INVITATION 2024」参加	7月 30 日～8月 5 日	タイ	U-13	①海外遠征					
磐田	ジュビロ磐田 U-14 韓国遠征	12月 22 日～25 日	韓国	U-14	①海外遠征					
藤枝	藤枝MYFCU-18 韓国遠征	12月 21 日～24 日	韓国	U-17、U-16、指導者	①海外遠征					
沼津	「Teijin U17 New Generation Cup 2024 in Thailand」参加	8月 5 日～10 日	タイ	U-16、U-15	①海外遠征					
沼津	アスルクラロ沼津 U-15 國際交流&強化遠征	12月 20 日～24 日	韓国	U-15、U-14、U-13	①海外遠征					
名古屋	名古屋グランパス U-16 スペイン遠征 「Ramiro Carregal Soccer Cup」参加	3月 24 日～4月 2 日	スペイン	U-16	①海外遠征					
名古屋	AS ローマ U-18 への短期留学	8月 17 日～9月 3 日	イタリア	U-17、U-16、指導者	②海外活動(個人)					
岐阜	FC 岐阜アカデミー海外遠征 U-15	7月 21 日～26 日	韓国	U-14	①海外遠征					
岐阜	FC 岐阜アカデミー海外遠征 U-18	8月 4 日～8 日	韓国	U-17	①海外遠征					

## 2024Jリーグアカデミー活動助成金制度 活動報告書

クラブ名	対象活動の名称 ※活動名をクリックすると、当該ページに移動します	期間	渡航先(海外)	対象年代	対象活動					
					活動分類	①	②	③	④	⑤
京都	京都サンガF.C.U-13 タイ遠征	7月30日～8月5日	タイ	U-13	①海外遠征					
京都	京都サンガF.C.U-18 AFC ボーンマス短期個人留学	12月10日～25日	イングランド	U-17	②海外活動(個人)					
G大阪	ガンバ大阪 U-14 タイ遠征 「JINTAN U14 ASEAN Dream Football Tournament 2024」参加	7月20日～28日	タイ	U-14	①海外遠征					
C大阪	セレッソ大阪 U-13 選抜 スペイン遠征	9月2日～10日	スペイン	U-13	①海外遠征					
C大阪	セレッソ大阪 U-15 ブラジル個人留学	11月8日～12月4日	ブラジル	U-15、指導者	②海外活動(個人)					
奈良	奈良クラブ U-18 フランス遠征	5月14日～23日	フランス	U-18	①海外遠征					
岡山	ファジアーノ岡山 U-18 韓国遠征	8月13日～18日	韓国	U-18、U-17、U-16	①海外遠征					
岡山	ファジアーノ岡山 U-13 マレーシア遠征	11月13日～19日	マレーシア	U-13	①海外遠征					
広島	サンフレッチェ広島ユース FC ケルン選手・指導者短期留学	3月9日～17日	ドイツ	U-16、指導者	②海外活動(個人)					
広島	サンフレッチェ広島ジュニアユース U-13 ケルン遠征	8月4日～13日	ドイツ	U-13	①海外遠征					
徳島	徳島ヴォルティス U-17 スペイン遠征(レアル・ソシエダ)	8月17日～29日	スペイン	U-17、U-16	①海外遠征					
愛媛	愛媛FCヨーロッパのクラブ訪問	2月6日～20日	イングランド・ポルトガル・ドイツ	その他	⑤その他					
愛媛	愛媛FCU-19 フライブルク短期留学	8月10日～24日	ドイツ	U-17	②海外活動(個人)					
愛媛	SC フライブルクのアカデミースタッフ招聘	10月24日～11月2日	ドイツ	指導者	⑤その他					
今治	FC今治 U-18 スペイン遠征	3月13日～20日	スペイン	U-18	①海外遠征					
福岡	アビスパ福岡 U-16 タイ遠征	5月21日～27日	タイ	U-16、U-15	①海外遠征					
福岡	Jリーグ人材育成継続学習 CPD イベント パート2 海外大会視察・ロンドン クラブ訪問	6月2日～12日	イングランド	指導者	②海外活動(個人)					
福岡	アカデミーCPD プログラム ゲスト招聘について	8月20日～21日	—	指導者	⑤その他					
福岡	U-17 ワールドカップ AFC 予選カタール 海外大会視察、クラブ訪問	10月23日～29日	カタール	指導者	②海外活動(個人)					
福岡	アビスパ福岡 U-13 マレーシア遠征	11月12日～20日	マレーシア	U-13	①海外遠征					
鳥栖	サガン鳥栖 U-15 選抜 スペイン遠征 「サーフカップインターナショナル サロウ」参加	11月27日～12月3日	スペイン	U-15	①海外遠征					
長崎	「2024 V·VAREN Nagasaki Fes U-15」参加	2月10日～12日	—	U-15	④国内大会主催					
長崎	V·ファーレン長崎 U-12 韓国遠征	3月29日～4月1日	韓国	U-12	①海外遠征					
熊本	イングランド_チェルシーFC_短期留学研修(選手、スタッフ)	12月31日～1月18日	イングランド	U-17	②海外活動(個人)					
熊本	CPD イベント パート2 海外大会 モーリスレベローナメントグループステージ観察	6月1日～11日	フランス	指導者	②海外活動(個人)					

クラブ名	対象活動の名称 ※活動名をクリックすると、当該ページに移動します	期間	渡航先(海外)	対象年代	対象活動					
					活動分類	①	②	③	④	⑤
熊本	「K League Asian Youth Championship Jeju 2024」参加	10月20日～29日	韓国	U-17、指導者	①海外遠征					
大分	大分トリニータ U-12 韓国交流遠征 FC CANNON 交流戦	8月3日～7日	韓国	U-12	①海外遠征					
大分	ベルギーSTVV 研修	8月21日～9月3日	ベルギー	U-15	②海外活動(個人)					
宮崎	「宮崎国際サッカーフェスティバル」開催	8月15日～19日	—	U-18	③国際大会主催					
琉球	エラス・ヴェローナ FC カデミー指導者招聘	9月5日～8日	—	U-15、U-12、指導者	⑤その他					

2024Jリーグアカデミー活動助成金制度 活動報告書

---



# **2024Jリーグアカデミー活動助成金制度**

## **各クラブ報告書**



## 北海道コンサドーレ札幌

### 【基本情報】

■クラブ名	北海道コンサドーレ札幌
■活動タイトル	Jリーグ人材育成継続学習 CPD イベント 2024 Part2
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	マルセイユ他 / フランス
■協力先	Jリーグ、マルセイユ、FFF エリートアカデミー
■対象者	
●対象チーム・主な年代	倉持 卓史
●対象者詳細	北海道コンサドーレ札幌 U-18 スタッフ
■活動期間	2024年6月3日(月)～2024年6月9日(日)

### 【活動報告詳細】

#### ■活動目的

Jリーグが実施する CPD イベントに参加。

北海道内という狭い視野だけではなく、海外の育成システム等を学び知見を広げる目的として、活動に参加をいたしました。また他のクラブの方とも交流を深め、学びを持ち帰る機会になっております。

#### ■活動概要

「オリンピック・マルセイユ」のクラブ訪問。

フランスの育成期間である、FFF エリートアカデミーを視察。エクサンプロヴァンス校に出向き、選手の育成方針や教育方針を学んだ。

モーリスレベロトーナメントを視察。世界のアンダーカテゴリーの代表試合を 5 試合視察した。またアダム・テリ一さんによる講義もあり、あらためて育成で計画的に人材を育していくことが大切なことを学んだ。

#### ■実施報告・成果

広く多くの学びを得られる機会になりました。

あらためてアカデミーでは ROI を意識した戦略を成らなければいけない責任感も同時に覚えました。ダイレクターだけではなく、現場スタッフも広い視点と知識を持ち合わせながら仕事を行わなければ、生産性のない自己満足の繰り返しになる危険性もあるなど自クラブで置き換えた時に思いました。

とにかく学びの場を提供していただいたJリーグには感謝しております。ありがとうございました。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	北海道コンサドーレ札幌
■活動タイトル	「CONSADOLE SUMMER CUP in HOKKAIDO」開催
■活動種別 ※プルダウン選択	国際大会主催
■実施場所(都市／国)	北海道札幌市 / 日本
■協力先	・ブリーラム・ユナイテッド U-19、静岡学園高等学校、日章学園高等学校 ・MIZUNO、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、大和ハウスプレミストドーム(旧札幌ドーム)、松尾ジンギスカン
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18 U-19
●対象者詳細	北海道コンサドーレ札幌 U-18 選手
■活動期間	2024年8月7日(水)～2024年8月9日(金)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.consadole-sapporo.jp/news/2024/07/10577/">https://www.consadole-sapporo.jp/news/2024/07/10577/</a>

## 【活動報告詳細】

### ■活動目的

北海道コンサドーレ札幌アカデミーの活動において、非常に重要なことの一つに道外遠征があります。(道外に出て、普段経験できない同等もしくは同等以上の相手と試合をする。)  
それを道内で、高いレベルの試合を実施できる環境を作り出すことにより、クラブの遠征費用を抑えかつ、選手に素晴らしい経験をさせたい思いで今回の活動を実施しました。

### ■活動概要

8月の夏場ではあるが、札幌の気候を生かし大会を実行。ブリーラム・ユナイテッド U-19・静岡学園・日章学園を招聘し、コンサドーレを含めた4チームでリーグ戦を実施しました。(3日間)  
大会2日目の夜には、全チームを招待し「松尾ジンギスカン」にてレセプションを実施。食事だけではなく、各チーム選手同士でコミュニケーションを取る素晴らしい時間も過ごせました。またブリーラムの札幌観光やbingo大会なども実施し、会社全体でブリーラムの渡航期間をサポートしました。

### ■実施報告・成果

現場スタッフ・アカデミースタッフとしては、実施でき大変満足に感じております。  
U-18年代では、主催でフェスティバルを実施したことがありませんでした。  
近年の猛暑を考慮し、可能であれば北海道でフェスティバルを実施したいと話していた矢先に、Jリーグ助成金の話題があがつたのです。  
とにかく、この助成金がなければ第1回目を踏み出すことはできませんでした。本当にありがとうございます。  
北海道コンサドーレ札幌アカデミー選手たちにとっても、北海道のサッカー関係者(選手・スタッフ)にとっても素晴らしい機会に今後なっていく大会になると確信しております。  
どうか引き続き、助成金の対応を継続していただけますと幸いです。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	北海道コンサドーレ札幌
■活動タイトル	北海道コンサドーレ札幌 石川直樹 アスレティック・ビルバオ研修
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	スペイン・ビルバオ／スペイン
■協力先	アスレティック・ビルバオ、
■対象者	
●対象チーム・主な年代	北海道コンサドーレ札幌アカデミー
●対象者詳細	石川直樹
■活動期間	2024年10月18日(金)～2024年10月28日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

コンサドーレ札幌とラ・リーガ1部の強豪アスレティック・ビルバオの両クラブの歴史・中長期的展望をクラブフィロソフィーから読み解き、パイス・バスクの地域を巻き込んだトップチームからアカデミーまでの一貫した選手育成メソッドや、それに付随する強化・育成の取り組みについて研修すること

## ■活動概要

- アスレティック・ビルバオ研修 3日間
  - Lezama トレーニングセンターツアー
  - Athleticスポーツモデルプレゼンテーション
  - Athleticマスタークラス 4セッション
  - トレーニングメソッド
  - ヴァスクネットワークシステム(地域クラブとの連携)
  - スポーツ心理学
  - パーソナルトレーニング & ディヴェロップメント
  - 指導者スカウティング
- スポーツ部門Q & Aセッション
- ユースチームトレーニング見学(トップチーム応相談)
- ユースチーム試合観戦
- アスレチックコース受講証
- ハイパフォーマンスレジデンス 3泊食事込み
- AC museum & スタジアムツア―
- 地元クラブトレーニング見学 1-2日間 Arenas Getxo / Sestao River ext.
  - トレーニング見学
  - ダイレクターインタビュー③ ラ・リーガ試合観戦（チケット費用は別途）2日間

- Athletic Bilbao vs Espanyol
- Real Sociedad vs Osasuna etc.
- Athletic B

## ■実施報告・成果

### ● コンサドーレアカデミーの今後の指針と課題

今回の研修を通じて、具体的なメソッド(ハウツー)だけでなく、「なぜそれが必要なのか」をコンテクストから深く学ぶことができた。その結果、クラブ全体の共通理念が明確になり、選手からスタッフまで一体感を感じることができた。一方で、コンサドーレが現在の世界のサッカーの表面だけを模倣していることに対し、危機感を抱くことができたことも大きな収穫だった。

現代のネット社会では、膨大な情報があふれ、表面的なメソッドを無批判に信用し、模倣することで「理解したつもり」になってしまうリスクがある。これを防ぐためにも、コンサドーレの歴史、フィロソフィー、アイデンティティを土台とし、「北海道コンサドーレ札幌として選手にどうあってほしいのか」を明確にし、それを具体的な指針へと落とし込む必要がある。現状の指針はまだ不十分であり、より明確なものにすることが求められる。

### ● アカデミーのメソッド構築における重要な視点

今後、コンサドーレアカデミーとして一貫したメソッドを構築するにあたり、立ち戻るべきポイントは以下の 2 点である。

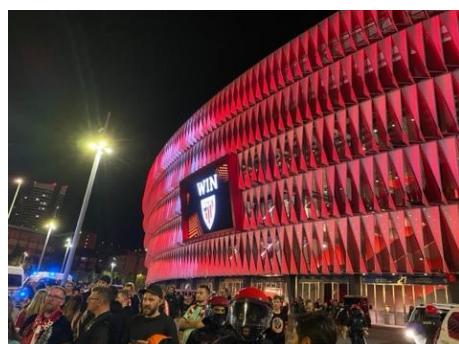
- すべての活動において「選手が中心にいるかどうか」
- 「自律した選手の育成」につながっているかどうか

この 2 点を常に軸とすることで、CS 札幌だけでなく、旭川・室蘭・釧路の 3 拠点においても、地域の特性を生かしながら統一されたメソッドを構築できると考える。

### ● ビルバオでの学びと今後の展望

今回の研修で得た知識をすべて再現することは現実的ではない。クラブの歴史、状況、アイデンティティが異なるため、単純な模倣では意味がない。しかし、カンテラ(アスレティック・ビルバオの育成組織)との連携を通じて、海外遠征や研修を継続しながら、コンサドーレアカデミーに適した形での成長を目指していった。

## ■活動写真





ベガルタ仙台

## 【基本情報】

■クラブ名	ベガルタ仙台
■活動タイトル	ベガルタ仙台 U-13 チームベトナム遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ビンズン新都市/ベトナム
■協力先	ベガメックス・ビンズン FC、川崎フロンターレ、ベカメックス IDC、ベカメックス 東急、ブレイングループ
■対象者	ベガルタ仙台 U-13 18 名 スタッフ3名
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	U-13 選手 18 名、スタッフ3名
■活動期間	2024年12月11日(水)～2024年12月17日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.vegalta.co.jp/news-academy-school/2025/01/post-750.html">https://www.vegalta.co.jp/news-academy-school/2025/01/post-750.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 本遠征におけるチームスローガン  
“ピッチ内外で主体的に！違いを楽しもう！”
- ゲーム中は、攻守において自分が主語になって、チームメイトとつながり続けながら勝ちを目指す
- ベトナムの社会、文化、慣例等の差異を感じて理解する
- 受身にならず、こなににからず、自ら意思疎通を図る

## ■活動概要

「第6回ベトナム日本国際ユースカップ U-13」への大会参加

## ■実施報告・成果

新型コロナウイルス禍を経て、久々であったアカデミーチームの海外遠征。

海外渡航が初という選手が大半でしたが、物怖じせずに主体的にピッチ内外に臨んでくれたと思います。

ゲーム中は、受け身にならざるを得ない時間も当然あります。ですが、ハイレベルなゲームの中で、攻守において主導権を握ろうと何度もトライしてくれました。怪我でピッチに立てない選手もベンチから共に戦い、この大会で感じたことは少なくなかったようです。

ベトナムのチームもレベルが高く(優勝、3位はベトナムチーム)、技術・戦術、フィジカルの基盤がしっかりとしている選手が多い印象を受けました。ピッチ外でも異国に触れ、外国の同年代の選手とコミュニケーションを取ることを選手たちは楽しんでいるようでした。

同時に、プロサッカー選手になるためのライバルは日本人選手だけではないと実感してくれたと思います。数年後に、クラブや国を背負った国際大会で、本大会の仲間と再会できれば素晴らしいことだと思います。

最後になりますが、大会関係者の皆様、本遠征にサポートいただいた皆様、選手所属学校の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました！(xin cảm ơn！)

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ベガルタ仙台
■活動タイトル	ベガルタ仙台 U-15 オランダ遠征
■活動種別	海外活動(選手・指導者個人・小グループ)
■実施場所(都市／国)	ロッテルダム/オランダ、シントロイデン/ベルギー
■協力先	スバルタ・ロッテルダム(オランダ)、シントロイデン VV(ベルギー)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	選手: 鎌水桜雅、高久遼成、安部嶺尋、阿部青空、和久侑矢 スタッフ: 笹氣理敬、嶺岸佳介
■活動期間	2024年10月11日(金)～2024年10月21日(月)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.vegalta.co.jp/backnumber/2024/news-academy-school/2024/11/post-559.html">https://www.vegalta.co.jp/backnumber/2024/news-academy-school/2024/11/post-559.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

オランダ、ベルギーのクラブで環境を変えてトレーニングに参加し、選手自身の課題を見つけることとオフザピッチでの体験で人間性の成長と現地スタッフとスタッフ間のコミュニケーションを通じてスタッフの成長を目的とする。

## ■活動概要

- オランダのスバルタ・ロッテルダム U-16 とベルギーのシントロイデン VV の U-18 への練習参加
- オランダ1部リーグとネーションズリーグ(ベルギーVSフランス)のトップカテゴリー公式戦観察、スタジアム観察、美術館見学、スタッフ間ディスカッション等

## ■実施報告・成果

選手たちは、コロナの影響もあり、海外での機会に乏しい年代でもあったため、大変貴重な機会となった。各々が、自分自身の何が通用し、何が足りないのかという課題を理解し、帰国後の成長につなげてほしい。スバルタについては、U-9 からトップチームまでのすべてのカテゴリーのトレーニングまたは試合を観察した。また、各カテゴリーのスタッフとのコミュニケーションを通じて、何を重要視して取り組んでいるのかを学ぶことができた。

各クラブのスタッフの方々が非常にオープンマインドで、質問したことに関して非常に丁寧に対応いただき、大変感謝している。

非常に学びの多い機会となったが、学びだけで終えることのないよう、クラブ内での具体的なアクションにつなげていきたい。

## ■活動写真





## モンティオ山形

## 【基本情報】

■クラブ名	モンティオ山形
■活動タイトル	指導者のスペイン研修
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	スペイン/バルセロナ
■協力先	FCバルセロナ、ジローナFC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	指導者
●対象者詳細	・都 修一(ダイレクター補佐、U-13 村山コーチ) ・前田 玄(ダイレクター補佐、ジュニア庄内監督) ・在原正明(フットボールコーディネーター) ・秋葉 勝(ユース監督) ・岩村祐人(ジュニアユース庄内監督)
■活動期間	2024年8月17日(土)～2024年8月24日(土)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="#">アカデミー 海外指導者研修報告   モンティオ山形 オフィシャルサイト</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- ・スペインの育成(指導方法、施設、マネジメントなど)の観察、レクチャーから指導者自身のスキル向上および将来的にアカデミーをリードする人材を育成すること
  - コーチ、アカデミーとして「目線を上げる・視野を広げる」きっかけとすること世界で活躍することを夢・目標としている選手たちが将来要求されるスタンダードを再認識する。
  - アウトプット(結果や目の前の事象)だけではなく、そこへ至った「過程」や「構造」を理解することものごとを理解するための物差しを増やすこと
- ・最先端のサッカー事情をアカデミーおよび地域に浸透させ、山形からトップで活躍するタレント輩出に寄与すること。

## ■活動概要

## ●バルセロナ観察

世界中のアカデミー組織の中でも取り組むべき多くの領域にアプローチができているクラブのアカデミー構造や現在の形に至るまでのプロセス、リソースの配分やピッチ内外での要求を知る。

## ●ジローナ観察

いくつかの条件においてモンティオ山形に近い環境にあるクラブであり、メガクラブと地方クラブの両方に触れることで、本研修での学びをより立体的なものとする。

## ●特別講師による講義(バルセロナおよびジローナ)

## ■実施報告・成果

- 講義:育成マネジメント育成メソッド、メソッド論、実践・個別育成
- トレーニング視察:FC バルセロナ(U-16、15)、FC バルセロナ(U-19A)、FC バルセロナ(U1-3)、ジローナFC(U-19B、C、U-16、14、13)
- 試合視察:Damm FC U-19A vs UE Tona

## ●成果

スペインでのコーチ研修では、「クラブとコーチのあり方、関係性」について考えるきっかけと時間をいただきました。今回の研修で理論と実践の両面から「卓越した現実世界」の一つに直に触れることで、私たちが想像できる範囲が広がったことが最も大きな成果であったと考えています。

今回引き上げられた目線、広げることができたビジョン、共有することができたイメージを、モンティディオ山形アカデミーがフットボールの質また育成力において、求心力を高め、存在感を増していくためのエネルギーとして活用していくこと。それによって生じる今後の変化を期待していただければと思います。

アカデミーの目的として「指導者のスキル向上」「山形からトップで活躍するタレントを輩出」を掲げ活動している中で、今回の海外研修は、世界的に有名なクラブであるFC バルセロナとジローナの取り組みやトレーニング・環境を見学することができいろいろなヒントとアイデアがイメージしやすいものとなりました。

研修には、アカデミーの各カテゴリーのスタッフに 参加してもらいましたが、今後、山形として発展するために、また目的を達成するために何に重点を置いて取り組んでいくべきかを検討し、アカデミー内に共有し、スタッフ全員で行動に移していきたいと考えています。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	モンテディオ山形
■活動タイトル	モンテディオ山形ジュニアユース U-13 ベトナム遠征 『ABeam ASIA CHALLENGE CUP 2024』開催
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ハノイ／ベトナム
■協力先	海外クラブ:HANOI FC、VIETTEL FC、PVF FA 大会運営組織:3A THUMBS UP VIETNAM CO.,LTD スポンサー:アビームコンサルティング株式会社、マイコー株式会社 ICHIGU 株式会社、株式会社太平堂不動産、ダイユー株式会社、 株式会社矢萩商店
■対象者	ジュニアユース
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	ジュニアユース U-13 選抜
■活動期間	2024年12月4日(水)～2024年13月10日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	近日中に掲載いたします。

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

クラブトップパートナーでもあるアビームコンサルティング株式会社と共に、クラブのアジアマーケット進出の第一歩として、アカデミーU-13選抜によるベトナム遠征を行うことを目的とする。またアカデミーの選手たちには、さまざまな分野での異文化との交流を通して、選手としても人間としても成長する機会を提供し、その他、クラブの今後のアジアマーケットへの進出に向けて、現地企業への企業訪問や現地の方との交流会を実施する。本活動を通して、モンテディオ山形の存在をアジアへと拡げ、また日本とベトナム、山形とベトナムのより一層の関係構築の一途につながることを目的とし活動を行う。

## ■活動概要

- 『ABeam ASIA CHALLENGE CUP 2024』現地3チーム、カターレ富山を含め5チームでの大会実施  
【大会参加チーム】  
①モンテディオ山形 U-13 選抜、②カターレ富山 U-13、③PVF Academy U-13  
④Thể Công Viettel U-13、⑤Công An Hà Nội U-13
- チーム交流:ガラバーティー
- 企業訪問:アビームコンサルティング株式会社、マイコー株式会社
- 観光

## ■実施報告・成果

大会を通じてベトナムサッカーの基準(判断の早さ、フィジカル的な強度)の高さを実感した。ベトナムの選手は、スムーズに体が動き、球際での戦い、攻撃においてはボールを丁寧に運ぶスタイルであった。昨年は、タイに遠征したが、タイの選手もボールを大事に運ぶプレーをしており、育成年代で習得しておきたいことを日本同様に指導されていることが伺えた。

### ● 成果

- オンザピッチ

試合を重ねるごとに相手のプレースピードや球際の強さ切り替えの速さにも少しずつ慣れ、自分たちがボールを握れる時間やボールを奪える場面が増えてきた。特に「ボールを受ける前の準備」「ゴールを守るためにの準備」「ボールを奪いに行くための準備」を考えながらプレーをしている選手が見られた。

3日間でも成長がみられる選手も多くいた。また今回レベルの高いチーム・選手と本気の戦いができたことも選手たちにとっては成果でした。

- オフザピッチ

同世代の選手交流が沢山ありU-13年代ならではの、すぐに友達になれコミュニケーションを取ることができた。ベトナムの文化や環境にも触れることができ、海外での生活の大変さを知ることができた。みんなで協力する場面が多く見られた。

### ● 課題

- オンザピッチ

技術不足、天然芝もあったが、「ボールが蹴れない選手が多くいた」インサイドパスが強く蹴れないことや、20~30mミドルパスがしっかりと蹴れない、GKに当ててしまう、枠に行かないシュートが多い、スピードに乗った中でのクロス etc。また相手を剥がす「1STコントロール」ボールを奪いに来ている中で逆を突くコントロールや動きながらのコントロールができない。全体的にスピードが上がるとミスが目立っていた。今後は相手を意識したコントロールや動きながらのコントロールとキックの精度を上げていくこと。

今回の経験を日常の練習から意識を変えることが必要だと感じた。

- オフザピッチ

異国の方で自分からアクションが取れず消極的になる選手もいた。現地の食事を完全に食べない選手もいた。スケジュール→もう少し選手の自由時間を増やす。※自分で考えて行動する時間が少なかった。

## ■活動写真





## 【基本情報】

■クラブ名	いわき FC
■活動タイトル	いわき FC U-18 タイ強化遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	バンコク/タイ
■協力先	Cilie Sports Club
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18
●対象者詳細	選手 23 名、スタッフ 3 名
■活動期間	2024 年 8 月 9 日(金)～2024 年 8 月 14 日(水)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://iwakifc.com/2024/09/04/report_u-18/">https://iwakifc.com/2024/09/04/report_u-18/</a>

## 【活動報告詳細】

### ■活動目的

いわき FC アカデミーでは、クラブが掲げる理念「文武不岐、人格陶冶」に基づき、【THE SMART ATHLETE】世界に通用する人材・選手の育成を目指して日々活動しております。今回のタイ強化遠征では、サッカー選手としての成長だけでなく、選手たちが新たな経験や知識を得ること、そして日常生活では出会うことのない環境や課題に直面し、それに対する問題解決能力や適応力を培うことを最も重要な目的としました。

### ■活動概要

2024 年 8 月 9 日から 14 日にかけて、いわき FC U-18 はタイでの強化遠征を実施しました。サッカー選手としての成長だけでなく、選手たちが新しい環境での問題解決能力や適応力を養うことを目的としました。遠征中、Cilie Sports Club の現地選手 5 名と共に過ごし、共に練習や試合を行い、サッカーを通じて異文化交流を深めました。選手たちは異なる文化の中でもサッカーを通じてコミュニケーションを取ることを学び、言葉の壁を越えてコミュニケーションを図り、大きく成長する姿が見られました。本遠征を通じて得た経験は、選手たちの人間的成长にも大きく寄与したと確信しております。

### ■実施報告・成果

いわき FC は、育成のフィロソフィーとして 【THE SMART ATHLETE】 を掲げており、世界でも活躍できる人材の育成を目指しております。その点で今回、コーディネーターの方が所有している Cilie Sports Club から 5 名のタイ人選手を私たちのチームに招き入れ、活動しました。

最初はお互いどのように接すればいいのか少し様子を見ているように見えましたが、サッカーを通じ少しづつ打ち解けていく様子が見えました。また、普段いわき FC アカデミーの選手たちは、週に一度必ず英語の授業を受けております。その成果のおかげか、英語を使いタイの選手たちと積極的にコミュニケーションを取る姿が見えました。最終日には、Cilie Sports Club の現地選手 5 名といわき FC アカデミーの選手たちが本当のチーム

メイドのように過ごしている姿を見ることができ、異国の選手たちと積極的にコミュニケーションを取る姿を見て、とても頼もしく感じました。

また、現地の食べ物や現地にしかないさまざまなものと触れ合い、選手たちは最初少し戸惑いが見えましたが、その置かれている環境に自分を適応させ、積極的に楽しむ姿を見せてくれました。日本以外の国でもタフに明るく過ごす選手たちを見た時、私たちが掲げている【THE SMART ATHLETE】世界でも活躍できる人材を育てようというフィロソフィーにおいて、本当に意味があったタイ遠征だと感じました。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	いわき FC
■活動タイトル	いわき FC U-15 タイ強化遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	バンコク／タイ
■協力先	Cilie Sports Club
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	選手 17 名、スタッフ 3 名
■活動期間	2024 年 12 月 6 日(金)～2024 年 12 月 10 日(火)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://iwakifc.com/2024/12/23/reportu15/">https://iwakifc.com/2024/12/23/reportu15/</a>

## 【活動報告詳細】

### ■活動目的

いわき FC アカデミーでは、クラブが掲げる理念「文武不岐、人格陶冶」に基づき、【THE SMART ATHLETE】世界に通用する人材・選手の育成を目指して日々活動しています。

今回のタイ強化遠征では、サッカー選手としての向上だけでなく、選手たちが新たな経験や知識を得ること、そして日常生活では出会うことのない環境や課題に直面し、それに対する問題解決能力や適応力を培うことを最も重要な目的としました。

### ■活動概要

異文化交流を通じた人間性とサッカー選手としての向上を目的とし、現地の選手と共同生活を送りながらトレーニングや試合に臨みました。カンボジア代表やタイの強豪チームと対戦し、異なるスタイルに挑む中で、連携力や環境適応力を磨き、試合にも勝利することができました。さらに観光や文化体験を通じて異文化に触れる機会を得ることで、世界の広さを実感する貴重な時間となりました。

この遠征を通じて、選手たちはサッカーだけでなく人間としても大きく成長し、新たな気づきや学びを得る充実した経験となりました。世界の広さを実感し、選手一人ひとりが大きく成長する遠征となりました。

### ■実施報告・成果

2024 年 12 月 6 日から 10 日にかけて、いわき FC U-15 はタイでの強化遠征を実施しました。いわき FC アカデミーでは「文武不岐」「人格陶冶」を重視し、【THE SMART ATHLETE】世界に通用する人材・選手の育成を目指しております。このタイ遠征では、異文化交流を通じた選手たちの人間性とサッカー技術の向上を目的として行われました。

遠征では、Cilie Sports Club に所属している、タイ人選手 3 名と日本人選手 4 名がいわき FC U-15 の選手たちと共に宿泊や試合を行い、国籍や言語の壁を超えた交流を深めました。日本とは異なる環境の中でのトレーニングや試合、異なるプレースタイルを持つタイやカンボジアのチームとの対戦は、選手たちにとって大きな刺激となりました。このようなさまざまな素晴らしい経験により、選手たちは適応力と精神力を大きく伸ばすことができました。

サッカー面だけでなく、タイの文化に触れる活動も充実していました。現地のエンターテインメントショー観覧や動物園訪問を通じて、選手たちは日本とは異なる文化や生活に対する理解を深めました。また、言語やジェスチャーを駆使して現地の選手たちと積極的にコミュニケーションを取り合う姿勢が見られ、サッカーを通じた国際的な交流の可能性を実感しました。

今回の遠征で得た経験は、選手たちの成長を促し、チーム全体の結束を強める貴重な機会となりました。日本では決して経験することができない環境、文化の中でも積極的にコミュニケーションを取り、楽しんでいる選手たちを見ることができ、この短期間においても選手たちの成長を感じました。

異国の方で築いた経験と自信を糧に、選手たちのさらなる成長を目指して活動していきます。この遠征にご協力いただいたすべての方々に感謝いたします。

## ■活動写真





## 鹿島アントラーズ

## 【基本情報】

■クラブ名	鹿島アントラーズ
■活動タイトル	「第 24 回日伯友好カップ」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ブラジル/リオデジャネイロ
■協力先	ジーコサッカーセンター
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	
■活動期間	2024 年8月22日(木)～2024 年9月3日(火)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://zico.cocolog-nifty.com/blog/friendship_cup/archives.html">https://zico.cocolog-nifty.com/blog/friendship_cup/archives.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

世界的な選手を輩出し続けるブラジルの育成年代の強豪チームと試合を行うことでトップレベルを体感し、選手の成長につなげること。 フラメンゴ、フルミネンセ等のブラジルトップレベルのチームと試合を行うことで、その強度や戦術、また個の力を体感し、選手の基準を上げることで今後の選手の成長スピードを上げることを目的とする。

また食事や生活習慣等の異国の文化に触れることで人間的な成長を促し、今後の人生に生かすこと。

## ■活動概要

ブラジル、リオデジャネイロのジーコサッカーセンターで開催された第 24 回日伯友好カップに鹿島アントラーズ、鹿島アントラーズつくば、鹿島アントラーズノルテの 3 チームが参加した。

ブラジルからの参加クラブは CR フラメンゴ、フルミネンセ FC、CR ヴァスコ・ダ・ガマ、ボタフォゴ、SC コリンチャス、サントス FC、クルゼイロ EC、アトレチコ・ミネイロ、EC ヴィトーリアの 9 チームが参加し、日伯合計 12 チームが 4 チームの 3 グループでのリーグ戦を戦い、各グループの上位 2 チームと 3 位の上位 2 チームの 8 チームが決勝トーナメントを戦った。

## ■実施報告・成果

日伯友好カップに参加して、ブラジルのサッカーを体感できたことは、選手たちのサッカー人生において、一つの分岐点になることは間違いない。競技面では、ブラジルトップレベルの選手たちと真剣勝負できたことで、本質である『ゴールを奪う』『ゴールを守る』部分、特に攻守におけるゴール前の質の差を痛感することとなった。ベースの部分に関しては向上していることは間違いない、攻守においてゲームコントロールできる時間が増えてきたことは成果としてあるが、結局はゴールを奪って、ゴールを守ることができなければ勝つことはできないし、個人の評価を高めることはできない。今大会でもゴール前まで迫る回数多く、シュートを打つ場面も多かったが、結果はカシマ、ノルテは Round8 敗退、つくばはグループリーグ敗退となった。攻撃におけるフィニッシュや

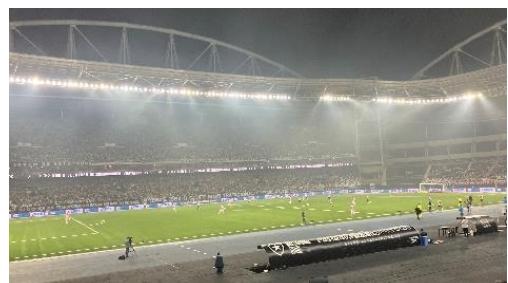
ラストパスの質、守備におけるゴールを守るための迫力や駆け引き等、最後の質の部分の重要性を攻守において体感できたことは、プロ選手を目指す選手たちの基準を上げることにつながっていくに違いない。

1試合にかける熱量の部分でも選手たちは感じることが多かったはず。生活をかけてサッカーをしているブラジル人選手と、何となくサッカーをしている日本人選手の意思の強さの差は大きかった。決勝を観戦したが優勝したコリンチャンスは喜びを爆発させ、負けたフラメンゴは悔しさを露わにしていた。この経験を1回のトレーニングや1試合に対する取り組みを見直すことにつなげてほしい。その意識を継続して持ち続けることができれば、選手の成長スピードが上がっていくことは間違いない。

遠征期間中にはカンピオナート・ブラジレイロ・セリエAの2試合を観戦し、サッカーワールドの情熱を感じることができた。スタジアムの熱狂を体験して、プロサッカー選手になるという確固たる意思を再確認した選手も多かったのではないだろうか。競技面以外ではコルコバードの丘やレストラン、ホテルでの生活を含め、異文化に触れることができた。日本語が通じない中でホテルやお店の店員と、ジェスチャーや英語を使いながらコミュニケーションを取る経験も今後の人生に役立ててほしい。

今回の遠征ではサッカ一面での成果はもちろん、人間的な部分の成長も見込まれ、選手にとって非常に有意義なものとなった。今後の選手たちの成長に期待したい。

## ■活動写真





## 水戸ホーリーホック

### 【基本情報】

■クラブ名	水戸ホーリーホック
■活動タイトル	水戸ホーリーホックジュニアユース(U-14)スペイン遠征 「OVIEDO CUP」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	スペイン・アストゥリアス州 オビエド
■協力先	Action Pro・いすゞ自動車・日本旅行
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
■活動期間	2024年3月25日(月)～2024年4月2日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.mito-hollyhock.net/news/p=34501/">https://www.mito-hollyhock.net/news/p=34501/</a> <a href="https://www2.targma.jp/hollyhock/2024/06/19/post45057/">https://www2.targma.jp/hollyhock/2024/06/19/post45057/</a>

### 【活動報告詳細】

#### ■活動目的

- ・世界TOPレベルのチーム・選手を体感する。
- ・世界の中での自分を知り、自身の強みや課題を明確にし、目標に向かって成長する機会にする。
- ・スペインの文化、習慣、生活を学びかじることにより、人間的にも成長する機会とする。

#### ■活動概要

##### ●OVIEDO CUP

2005年からスペイン・アストゥリアス州で毎年開催されている育成年代の国際大会、OVIEDOCUP。世界中から数多くのクラブ・ファン・サポーターが集まる、注目度の高い大会。1試合、25分ハーフ。予選リーグは5チーム×8グループ(4試合)。その後、予選リーグの順位により、順位決定トーナメントに進む。負けた時点で大会は終了。

#### ■実施報告・成果

このスペイン遠征にあたり、クラブやJリーグ、アカデミーアシストのいすゞ自動車様、Action Pro の近藤様、日本旅行様、そして保護者の皆様などたくさんの方のご協力がありスペイン遠征を実施できましたことに感謝申し上げます。スペインというサッカー大国の地でサッカーができたこと、異国の文化に触れることができたことは選手・スタッフにとって非常に貴重な経験になりました。選手たちは2回目の海外遠征となりましたが、前回の中国遠征との違いが多くあり、たくさんの学びがあったように感じます。まず、トランジットを含む約22時間の飛行機での移動や8時間の時差の中で、より良いコンディションでサッカーに臨むことの難しさを痛感したと思います。スペインに到着した翌日のトレーニングマッチでは全く体が動かずモチベーションも高く保てない、いつものプレーができていない選手がほとんどでした。日本代表や海外でプレーする選手はこういった環境の中でも日本という国を背負って試合をしていて、移動や時差を言い訳にできるわけではありません。その凄さや難しさことができ、準備の大切さや自分の体と向き合うきっかけになったのではないかと思います。我々も時差対策として、日本にいる前日からスペイン時刻に合わせるため少し夜更かしするよう指示しましたが、スペインでの過密日程を考慮すると疲労を溜めずに臨むべきであったと感じております。このスペイン遠征で特に衝撃を受けたのはサッカー文化の違いです。今回、アトレティコ・マドリードとスポルティング・ビセンセのホームスタジアムの見学やサンティアゴ・ベルナベウで国際試合を観戦した中で、スタジアムの規模はもちろん、観客のリアクションや雰囲気は日本と大きく違うものがありました。スタジアムでは試合日でないにも関わらず、人

が集まるようなレストランやカフェなどの施設があり日常からサッカーに触れる環境がありました。我々が試合を行った育成年代が使用するようなグランドにも必ずカフェなどが併設されており、保護者含め街の人が集まりサポーターとなってチームを応援する姿が見られました。我々が行ったどの街にもサッカーが溢れていたように感じます。また、今回はサッカーだけでなく、スペインの文化や生活に触れ、学ぶ機会も多くありました。今回はマドリード、オビエド、ヒホンの街を観光しましたが、古くからある建造物や教会などが多く見られ、スペインならではの街の雰囲気を感じることができました。生活リズムや習慣にも違いがあり、食事のタイミングが日本より2時間ほど遅いことやスーパーなどのお店も比較的早く閉店していること、日曜日はほとんどのお店が休業していました。日本では24時間営業のコンビニがあったり、年中無休のお店も多くあります。イースターの時期ということもあったかもしれませんが「働く」という感覚も少し日本とは違うのではないかと思います。そしてスペイン人の人柄にも選手たちには好印象であったようです。

遠征に帯同していただいたセルヒオさんはもちろん、大会に参加していた各年代の選手やコーチ、関係者、また店員さんや街で出会う人のノリの良さや自然と挨拶を交わす習慣に選手たちは刺激になっていたようです。

サッカ一面では、スペインのチームと対戦し戦術（個人・グループ・チーム）の部分は課題であると強く感じました。高い強度の中で相手を見てプレーすることや技術的な部分をもっとこだわる必要があると強く感じました。ただ、戦う気持ちや相手に向かっていく姿勢や攻撃での個々での仕掛け、守備での球際や対人の部分の良さを出せた選手もいました。スペイン人選手たちの表現力や振る舞いにも見習うべき部分はたくさんあったように思います。この遠征で日常ではないことがたくさんありましたがさまざまな場面で「挑戦」している姿を見ることができました。その挑戦は必ず今後に役に立つと思います。そしてこのような経験ができたことは当たり前ではないということを選手にはしっかりと伝えていきたいと思います。個人面談を行い自らの現状や今後の進路についても話をしました。今回の遠征での自身の成果や課題としっかり向き合うことができたと思います。この経験を日々の活動・生活に生かし、さらに成長してくれることに期待します。我々スタッフも、スペインでの活動で貴重な時間を過ごすことができました。これらをクラブや選手たちに還元し、彼らの成長をサポートしていくよう、これからも精進して参りたいと思います。素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。

スペイン遠征後、振り返りとして各選手にレポートの提出、チームとして振り返りのミーティングを行いました。遠征を通してスペインの文化やサッカーに触れ、日本との違いや自らの課題など知ることができ、サッカー選手としても人としても幅が広がったように思います。この遠征が自分自身の目標やこれから的人生に生かせるように、今後どういう意識で、何に取り組むかを具体的に考えアクションして欲しいと思います。この遠征がきっかけとなり彼らの日常を変え、さらに成長してくることに期待します。

スペイン遠征後、振り返りとして各選手にレポートの提出、チームとして振り返りのミーティングを行いました。

遠征を通してスペインの文化やサッカーに触れ、日本との違いや自らの課題など知ることができ、サッカー選手としても人としても幅が広がったように思います。

この遠征が自分自身の目標やこれから的人生に生かせるように、今後どういう意識で、何に取り組むかを具体的に考えアクションして欲しいと思います。

この遠征がきっかけとなり彼らの日常を変え、さらに成長してくることに期待します。



## ■活動写真





ザスパ群馬

## 【基本情報】

■クラブ名	ザスパ群馬
■活動タイトル	「ザスパ群馬 U-11 INTERNATIONAL CUP」開催
■活動種別	国際大会主催
■実施場所(都市／国)	GCCザスパーク 群馬県前橋市／日本
■協力先	海外招聘チーム:SFBダナンFC 前橋市・安中市・秋間梅林観光協会・群馬県ベトナム人協会・株式会社カインズ・株式会社ベイシア・株式会社群馬綜合スタッフ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-11 以下
●対象者詳細	・ザスパ群馬 U-11、SHBダナン FC(ベトナム)、FC 東京サッカースクール アドバンスクラス、ファナティコス(群馬)、ブラウブリッツ秋田 U-11(秋田)、アルティスタ浅間(長野)、美九里 FC(群馬)、高崎 FC イーグル(群馬)
■活動期間	2024年12月20日(金)～2024年12月22日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 国内だけでなく、海外のU-11世代の少年たちを招き、お互いの文化を知り、試合や人的交流を通じて、幅広い人格形成のための機会を提供する
- 競技を通じて、選手個人とチーム力の向上を目指す
- 大会を通して、ベトナムのクラブとの交流を図るだけなく、ベトナム産の商品を提供することで、ベトナム産商品の魅力を広く伝え、生産国が抱える課題解決の支援を目指す

## ■活動概要

## ●異文化体験

- 2024年12月20日(金) SHB ダナンFC異文化体験

## ●サッカー大会

- 2024年12月21日(土)～22日(日)
- ザスパ群馬 U-11 INTERNATIONAL CUP 2024
- 対象カテゴリー:U-11(2013年1月1日生まれ以降)

## ■実施報告・成果

ザスパ群馬アカデミーでは初めてとなる、全 8 チーム約 100 名が参加した U-11 の国際大会「ザスパ群馬 U-11 INTERNATIONAL CUP 2024」(以下「本大会」)を 12 月 21 日(土)から 12 月 22 日(日)に GCC ザスパークで開催しました。

また同時開催で、2 日目には、社会人の国際草サッカー大会も実施し、2 日間で延べ約 500 名の皆様に GCC ザスパークへお越しいただきました。

本大会開催の背景には、群馬県内に暮らすベトナムの方が 1 万 4,012 人(2023 年 12 月末時点)となり、県内外外国人住民数において 1 位となっております。群馬県内において親交の深い国です。そのような方々と共にスポーツを楽しみ、つながり、支え合い、お互いの国の文化を理解する、そのような社会を目指すため、SHB ダナン FC U-11(ベトナム)のチームを招待し大会を開催することになりました。

サッカー大会の結果としては、「FC 東京 サッカースクール アドヴァンスクラス」が優勝をおさめました。普段試合をすることがない相手と試合をすることで、大会を通じ、子どもたちは、ゴールを目指して協力し合うこと、チームワークやコミュニケーション能力を身につける必要があることなど肌で感じることができた大会であったと思います。

大会前には、在日ベトナム人の子どもたちをサッカースクールにも招待し、スクールでもサッカーを通じた交流の機会を設けました。大会当日もベトナムフェスと題して、群馬県ベトナム人協会さんの御協力のもと当日はベトナム料理のキッチンカーも出店。GCC ザスパーク内 1 階カフェテリアでは、ベトナムコーヒーの販売をしました。

大会期間中は、サッカー交流以外にも SHB ダナン FC の子どもたちは、日本の文化を体験するため、株式会社カインズ様主催によるワークショップを秋間梅林(安中市)にて開催させていただきました。大会初日に行われたレセプションでは、国内チームの選手たちが積極的に SHB ダナン FC の選手たちと英語やジャスチャーを踏まえて必死にコミュニケーションをとろうとする姿がとても印象的でした。

今回の大会は、サッカー大会としてはもちろん、中長期的にザスパ群馬をきっかけとした地域や国際的な社会課題解決に向けて、自治体様やステークホルダーの皆様と共に創するきっかけのイベントとして捉えた大会でもありました。今後、このような機会を継続して実施できるよう、持続可能な事業スキームを創っていきたい。

## ■活動写真





## 浦和レッズ

## 【基本情報】

■クラブ名	浦和レッズ
■活動タイトル	U-18 ドイツ遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ネッテタール/ドイツ、フランクフルト/ドイツ
■協力先	浦和レッズ前監督ゲルト氏、アイントラハト・フランクフルト(提携先)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18 U-17
●対象者詳細	スタッフ 5 名、選手 20 名
■活動期間	2024 年 3 月 11 日(月)～2024 年 3 月 19 日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- チーム内競争を促す強化遠征。海外チームとの対戦による経験値の積み上げ。体感から自分たちの立ち位置を知る
- (通用する部分、通用しない部分)異文化交流での経験から気づきを得て人間力向上を目指す

## ■活動概要

- 遠征の目的:本遠征は、国際経験を積み、チーム、個人の強化を目的とする。アイントラハト・フランクフルトをはじめ海外の強豪クラブとの対戦を通じて、世界を知り、現状を把握する
- 遠征期間:2024 年 3 月 11 日～3 月 19 日(9 日間)
- 遠征先:ドイツ(ネッテタール、フランクフルト)
- 参加メンバー:U-18 選手 10 名、U-17 選手 10 名、監督・コーチ陣 4 名、スタッフ 1 名
- 活動内容・トレーニング・トレーニングマッチ:K ASEUPEN(ベルギー)、FC ヴィクトリア・ブルゼニ(ドイツ)、アイントラハト・フランクフルト(ドイツ)、施設見学、観光:アイントラハト・フランクフルトのアカデミー施設、トップチームの施設を視察。フランクフルト市内観光

## ■実施報告・成果

## ● 浦和レッズユースコーチ 城定信次

プレシーズンの中期に行ったドイツ遠征、チーム・個の強化を最大の目的とした中でさまざまな経験値を上げることが求められた遠征でした。プレシーズンでのコンディションの調整からさらに海外生活でのタフさを経験、時差での睡眠不足、食文化の違い、集団生活など生活に関するすべてをサッカー環境に適応する力が必要とされた中でそれが工夫して改善していく様が見られました。

また試合に関してもナイターでの 2 連戦を行い、移動もマイクロバスでの長時間移動なども経験、ベルギーのユースチーム、ドイツの 5 部リーグトップチームなどさまざまな違いのあるチームと対戦し、普段とは違う環境下

と相手の変化を感じるゲームができました。またアイントラハト・フランクフルトとの試合は相手の強度、個のスキルに違いを感じるゲーム内容となり、改めて世界との差を感じる選手も多くいましたが、その中でもパフォーマンスを発揮できる選手が目につきました。

チーム戦術については攻守においてトライすることができ、シーズンに向けての構築ができました。このドイツ遠征を通して、長谷部誠選手(アイントラハト・フランクフルト所属)をはじめ、ゲルト・エンゲルスさん(元監督)・ギド・ブッバルトさん(元選手・監督)など多くのレッズファミリーが協力をしていただき他クラブでは経験できない交流もあり、選手がより世界を目指す、良い指針となりました。浦和レッズのつながりと多くの協力を肌で感じ、この遠征を終えたとこに感謝いたします。

### ● 浦和レッズユースキャプテン 阿部慎太郎

今回のドイツ遠征を経験して世界との差や自分の立ち位置が明確になりました。特にアイントラハト・フランクフルト戦は相手のCBとの比較をすると多くの違いがあり、攻守においての相手のほうが上回っていた。止める・蹴るの技術、ボールの運ぶ判断、一人の守備範囲など自分がまだまだ足りない部分が多いと感じました。世界で活躍するトッププレーヤーになるためにこの差を埋めるべく日々のトレーニングから取り組んでいかないといけないと改めて感じるとともに、多くの支えや協力があってドイツ遠征が行われた事に感謝します、この遠征を経験してさらに大きく自分が成長する義務と責任があるのでこれからも応援される存在として頑張りたいです。

### ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	浦和レッズ
■活動タイトル	U-16 オランダ・フェイエノールト留学 2024
■活動種別	海外活動(選手・指導者個人・小グループ)
■実施場所(都市／国)	ロッテルダム/オランダ
■協力先	フェイエノールト・ロッテルダム
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-16
●対象者詳細	田中義峯(U-16)、吉田真信(U-16)、吉田健太(指導者)
■活動期間	2024年12月9日(月)～2024年12月22日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- “個”的成長を促す～人間力と技術力の向上、そして異文化を知る～
- 世界でも育成に評定のあるクラブで現状の強みと課題を明確にして言語化できるようにする(帰国後のプレゼンを選手が行う)
- 言語・文化の違う国で自炊生活を試みて人間力の成長を促す
- トップチームで活躍できる選手の排出
- クラブ/選手理念を実体化できるようにする

## ■活動概要

- 留学の目的:世界トップレベルのクラブのトレーニングに参加し、世界との差や自分の現状、課題を把握する
- 遠征期間:2024年12月9日(月)～2024年12月22日(日)
- 遠征先:ロッテルダム/オランダ
- 参加メンバー:田中義峯(U-16)、吉田真信(U-16)、吉田健太(指導者)
- 活動内容:フェイエノールトアカデミーに練習参加、UEFA ユースリーグ・UEFA チャンピオンズリーグ観戦、施設視察、コーチ陣やADとの意見交換、トレーニングに対するフィードバック、アパートでの共同生活、観光(ブリュッセル日帰り観光)

## ■実施報告・成果

世界トップクラブのトレーニングに参加し、サッカ一面で日本との違いや、通用する部分を知り、自分たちの現状を把握することができた。異なる環境に一人で飛び込み、難しいことは理解できるが、コミュニケーション面での積極性や適応力など、これからプロサッカー選手を目指していく上での課題も見つけることができた。環境面では、施設やピッチなどのハード面と食事や学習サポートなどのソフト面の両面で圧倒的な差を痛感し、我々も早急に取り組んでいかなければなることが多くあると感じた。

また、アパートでの共同生活を通して、自炊や洗い物、洗濯や掃除など身の回りのことを自分たちで行わなければならなかつたため、周りへの感謝を感じたり、人としての成長を感じたりすることができた。加えて、現地の郷土料理を食べたり、観光を通じて異文化に触れることができた。パートナークラブである、フェイエノールトとさまざまな意見交換をすることができ、良好な関係性を築く一助ともなった。

帰国後には、選手たち自身がチームメイトやクラブスタッフに向けてプレゼンをし、自分たちが感じたことを言語化する能力や人前で話をする力を身につけることができた。

この留学を行うにあたり、協力していただいたJリーグ、受け入れをしていただいたフェイエノールトの方々に深く感謝を示すとともに、この経験を今後に生かしていくよう、取り組んでいきたい。

## ■活動写真





柏レイソル

## 【基本情報】

■クラブ名	柏レイソル
■活動タイトル	柏レイソル U-14 サウジアラビア遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ジェッダ / サウジアラビア
■協力先	MAHD ACADEMY
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年1月11日(木)～2024年1月20日(土)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- IDP の取り組みの一環とした技術面、フィジカル面、戦術面、コミュニケーション面等の成長機会の創出
- 国際経験の機会創出

## ■活動概要

- 国際大会出場: MAHD Football International Cup
- 文化活動、ゲストスピーカーによる講演、ディスカッション等

## ■実施報告・成果

異国のサッカーに触れ違いを肌で感じ、現状の力を知ることができた事、感受性豊かな年代で異文化を体験できたことは大変有意義であった。この経験を個人の成長につなげていきたい。

対戦相手と比較し、『技術面、フィジカル面、戦術面、コミュニケーション能力』すべてにおいてレベルアップが必要と感じた。

Jリーグ/クラブのサポートがあり、3年ぶりに海外遠征を実施できたことに感謝します。現地でしか体感できないことが多くあり、あらためて選手の成長に海外遠征は必須だと感じています。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	柏レイソル
■活動タイトル	柏レイソル U-12 スペイン/ポルトガル遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	アロウザ/スペイン
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-12
●対象者詳細	
■活動期間	2024年5月13日(月)～2024年5月21日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- IDP の取り組みの一環とした技術面, フィジカル面, 戦術面, コミュニケーション面等の成長機会の創出
- 国際経験の機会創出
- 『勝利』『体感』『人間形成』

## ■活動概要

- 国際大会出場: AROUSA FUTBOL 7
- 文化活動、試合観戦、チームビルディングプログラム等

## ■実施報告・成果

まず初めに、今回の海外遠征に際し、ご支援ご協力をいただき心より感謝いたします。

今遠征は前記のように『勝利』『体感』『人間形成』の3つを大きな目的として掲げて実施しました。遠征を通して選手たちが目的を意識し、ピッチ内では勇敢にピッチ外では柔軟に行動したことで、たくましく成長して帰国する姿を見ることができました。

遠征期間中の全10試合において、勝利のために勇敢にプレーすることを求める、その中で成功体験とそれでも困難な体験を味わえたことで、積み上げていることへの自信ともっとやらなければならないという意欲をどちらも獲得できたように感じます。

その中で、世界トップレベルのクラブとの差に注視すると身体的な差はもちろん、4局面におけるプレーのシムレスさが印象に残りました。すべての振る舞いが次のプレーにつながっており、何か起きてから動くことが少なく、丁寧な中で”はやさ”を感じました。差を縮め追い越していくためには、ゲーム理解、状況認知、その中の最適な選択、それを実現するスキル、すべてにおいてレベルアップが必要であり、そのための基準を選手と共有することができました。

また、言語の違い、食文化の違い、生活習慣の違いなど日本とは異なる文化を体感したことは、感受性豊かな育成年代の選手たちの人生観に大きな刺激を与えることができたと感じます。滞在先では4つのクラブ(RCセルタ・デ・ビゴ、マンチェスター・シティ、ベンフィカ、FCノアシェラン)と同じホテルだったため、休息時間にはリフティングをしたりゲームをしたりするなど、異なるバックグラウンドを持つ選手たちと積極的にコミュニケーション

ヨンを取る姿が見られました。これらの体験は選手たちの視野を広げ、グローバルな視点を持つきっかけとなつたと思います。

飛行機トラブルや慣れない環境での生活の中で困難も多くありましたが、それらを仲間と乗り越えた9日間はチームとしての結束力も強まりました。

総じて、今遠征は私たちにとって非常に有意義な経験となりました。帰国してから数日が経ちトレーニングに励んでいますが、選手たちの視座が高まり、良いモチベーションで取り組んでいます。一過性のものにせず、今回の貴重な経験をさらなる飛躍につなげられるよう精進していきたいと思います。最後に、この遠征を支えてくださったすべての方々に改めて感謝いたします。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	柏レイソル
■活動タイトル	アカデミードイツ(フォルトナ・デュッセルドルフ/SC パーダーボルン 07)留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	デュッセルドルフ, パーダーボルン/ドイツ
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	
●対象者詳細	スタッフ: 藤田優人、堀江健太、選手: ノグチピント天飛、澤井烈士
■活動期間	2024年8月4日(日)~2024年8月18日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

「個の成長」①基準を高める ②人間形成 ③指導者としての資質向上

## ■活動概要

ドイツ フォルトナ・デュッセルドルフ / SC パーダーボルン 07 へ選手と指導者の短期留学、練習参加、指導者同士のディスカッション、他

## ■実施報告・成果

Jリーグ/クラブのサポートがあり、海外留学を実施できたことに感謝いたします。クラブとして初めての留学、選手/スタッフ共に大きな刺激を受け帰国した。ピッチ内外での学びを、選手/スタッフ/クラブの成長につなげたい。クラブとしては、受け入れ先との関係性を深め提携関係に発展すればと考える。

現在、来シーズンの留学/海外遠征を検討しておりますので、Jリーグからのご支援を引き続きお願いできれば幸いです。

- NLZ の背景と学校との Kooperation(提携)

契機: 2000年に開催されたオランダ・ベルギー共催 EURO で予選リーグに1試合も勝てずにグループリーグ敗退。

DFB が若手選手育成のために Stützpunkt(日本のトレセンのような物)の配備を進めるなど行動に移す。アカデミーの充実、整備のために DFB が認定制度(NLZ)を導入。認定を受けるには8項目の厳しい審査があり、学校との提携(Kooperation)などが含まれている。学校との提携の目的はサッカーに集中できる環境を整えることだけではなく、問題となっていた選手の 2nd キャリアの改善のために 0 キャリアサポートの充実を促進。

※0 キャリア:(プロ選手としての)キャリアが始まる前段階のことを探し、2nd キャリアを充実させるためにも人間教育や社会性、学習能力などが必要と考えた。

- ドイツ社会の実態とサッカーへの影響

- 電車の遅延、線路の変更(アナウンスがないことも)は当たり前

- 街中では窃盗、ぼったくり、薬物の売買が日常(マフィアの闘争)
- 貧富の差
- 自分の身は自分で守る。そのために常にアンテナを張る。危機感、危機察知能力が日常生活で鍛えられる

## ● ドイツの育成環境の実態とその影響

整った環境と整っていない環境。

施設の充実など整った環境(例:U17 以上は天然芝で練習、学校との提携、トレーニングゲームでも審判員の派遣)がある一方、指導者は副業が多い。練習メニューは DFB が推奨するメニューなどを参考にしている。特に学年が低ければ低いほど大きなクラブの NLZ でもその傾向にある。指導者の具体的なコーチングは少ない。うまく行くように選手自身が自分で考えるようになる→個性のある選手が育つ。

## ● 留学で感じたものをどう生かすか

日本人の特徴+ワールドスタンダードで身に付けておかないといけないもの。

フィジカル、ボールを持てる、守備能力、メンタリティ、90 分間関わり続ける etc.

- 選手が自ら考え行動する環境を作り出す
- 自立、責任
- 自分の考えを持ち、主張できる選手の育成
- 適応力
- ストレスへの耐性

## ● 選手コメント

留学で気付かされたのは、自分は海外の 2 部のユースチームでも通用せず、一番下手だったこと。イージーミスは集中力が欠けていたからだと思っていたが、単に技術不足ということがわかった。ピッチ外では、私生活で改善すべき事が多くあることに気付かされた。さまざまなことを気付かされたし、学ぶことができた。帰国後が大事なので、ここで体験したことをチームに還元し、自分自身とチーム全体が成長できるよう努めたい。

## ■活動写真





FC東京

## 【基本情報】

■クラブ名	FC東京
■活動タイトル	FC東京 U-18 ドイツ遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ドイツ
■協力先	1.FSV Mainz、Vfb Stuttgart、Darmstadt、Karlsruhe SC、
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18
●対象者詳細	U-18 選手
■活動期間	2024年3月22日(金)～2024年3月30日(土)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="#">【U-18】ドイツ遠征 1・2日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">【U-18】ドイツ遠征 3・4日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">【U-18】ドイツ遠征 5・6日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

本遠征で、選手・スタッフが自らを広く相対的に見る機会を獲得し、その後の自己理解や自立心を促進させる。ヨーロッパトップレベルのチーム、選手と対峙することで、技術・戦術・フィジカル・メンタルにおける差異を感じ、通用する部分、しない部分を抽出。それぞれの「基準」を見直し、帰国後の日々の取り組みに対する具体度を上げる。

## ■活動概要

期間:2024年3月22日(金)～3月30日(土)予定

滞在国/チーム:ドイツ フランクフル

宿泊先:Gasthaus Waldesruh Hotel

人数:選手 21名、スタッフ 4名

その他:ラリーガ観察、アカデミースタッフ交流、施設見学、文化交流予定

## ●試合結果

- 3/24 vs 1.FSV Mainz(マインツ) 2-1(2-0,0-1) 得点:鈴木楓、中野裕唯
- 3/26 vs Vfb Stuttgart(シュツットガルト) 0-6(0-2,0-4)
- 3/27 vs Darmstadt(ダルムシュタット) 0-5(0-3,0-2)
 

※ 当初予定されていたカイザースラウテルンとの対戦は相手チーム都合により中止
- 3/28 vs Karlsruhe SC(カールスルーエ) 0-3(0-2,0-1)
 

1勝 3敗 ※試合はいずれも 45 分ハーフ(90 分)

## ■実施報告・成果

### ●成果

- 日常と違う環境下でのストレスの体感と耐性の引き上げ  
→時差、長時間移動(現地でのバス移動含む)、対戦相手強度(U-19)
- 長期間(9日間)寝食を共にする中での選手、スタッフ間のコミュニケーションの充実  
→チーム、グループの共通理解へ

### ●課題

- 攻守両ゴール前の強度と精度  
→決め切る力・シュートブロック
- ビルドアップの精度と工夫  
→選手個々の技術、判断力向上とチーム、グループでの共通理解

### ●帰国後の取り組み

- ハイプレス  
→“針を振り切る”
- ゾーン3の守備  
→ゴールを守る。守備の考え方をゾーンによって変える。点ではなく面で守る
- ビルドアップの変化  
→選手の特徴に合わせたビルドアップに

### ● その他トピック

- 国際親善マッチ(ドイツ代表 vs オランダ代表)観戦  
→遠征5日目の3月26日にフランクフルトの Deutsche Bank Park で行われた国際親善マッチ【ドイツ代表 vs オランダ代表】を観戦。移動には相当な時間を費やしたが、席もゴール裏の最前列近くで世界トップクラスのプレーを間近で見ることができ、スタジアム内外の雰囲気を含め、選手たちにとっては日本では絶対に体験できない非常に貴重な経験となった

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	FC東京
■活動タイトル	FC東京 U-14 オランダ遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ロッテルダム、ルンテレン／オランダ
■協力先	スバルタ・ロッテルダム、フェイエノールト、他
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	U-14 むさし選手 18 名、スタッフ 4 名
■活動期間	2024 年 10 月 24 日(木)～2024 年 11 月 2 日(土)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 1・2 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 3 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 4 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 5 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 6 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 7 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a> <a href="#">[U-15 むさし]オランダ遠征 8 日目   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●チームとしての目的

- 世界の強豪チームの同年代の選手のプレーを体感させる
- 各選手に世界を基準とした現状の自分のレベルを感じさせる
- 世界基準を体感させることで日常の取り組みの意識を変える

## ●チームとしての目標

- 世界に FC 東京ファン・サポーターを増やす

## ■活動概要

期間： 2024 年 5 月 4 日(土)～5 月 12 日(日)

滞在国： オランダ (ロッテルダム、ルンテレン)

スケジュール： 5/4(土)出発→アムステルダム到着 トレーニング

5/5(日)トレーニングマッチ vs. . VV.Baroie U-15

5/6(月)トレーニングマッチ vs. . スバルタ・ロッテルダム

5/7(火)トレーニングマッチ vs. . フェイエノールト

5/8(水)大会地移動、トレーニング

5/9(木)大会

## ■実施報告・成果

### ●成果

- ヨーロッパにおける同年代のサッカー、強度を体感し、自分たちの現状を把握  
→日本では通用するプレーが世界では全く通用しない  
→同年代で取り組んでいるサッカースタイルの把握
- 長期間寝食を共にする中での選手、スタッフ間のコミュニケーションの充実  
→チーム、グループの共通理解へ
- ヨーロッパの文化を経験、体感  
→オランダのサッカー文化を経験

### ●課題

- 個人での突破、個人で奪う力
- 攻守両ゴール前の強度と精度 →決め切る力・シュートブロック
- 試合に対してのメンタル面 →最後の試合でようやく戦う姿勢見える
- コミュニケーション能力
- リーダーの不在

### ●試合結果 ※試合はいずれも 20 分×2 本(40 分)

【練習試合】	5/5	vs. Wooter Academy U15	✗ 2-4
	5/6	vs. スバルタ・ロッテルダム	○ 4-3
	5/7	vs. フェイエノールト	✗ 5-8
【大会】	5/9	vs. マンチェスター シティ	✗ 1-5
		vs. アヤツクス	✗ 0-4
		vs. VV ルンテレン U-15	○ 3-1
【下位リーグ】	5/10	vs. AZ	✗ 0-2
		vs. VV ルンテレン U-15	○ 4-1
		vs. グラスゴーレンジャーズ	○ 2-1

### ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	FC東京
■活動タイトル	FC東京 U-17 選手・指導者海外個人留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	バスク州 ギプスコア県 サン・セバスティアン /スペイン
■協力先	レアル・ソシエダ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-17
●対象者詳細	選手:佐々木将英、尾谷ディヴィアンチネド スタッフ:西川誠太、中野遼太郎
■活動期間	2024年12月12日(木)～2024年12月26日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	レアル・ソシエダ U-19への短期留学のご報告   ニュース   FC 東京オフィシャルホームページ

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

本留学で、選手・スタッフが自らを広く相対的に見る機会を獲得し、その後の自己理解や自立心を促進させる。ヨーロッパトップレベルのチームに入つての取り組みにより、技術・戦術・フィジカル・メンタルにおける差異を体感し、通用する部分、通用しない部分を抽出。それぞれの「基準」を見直し、帰国後の日々の取り組みに対する具体度を上げる。

## ■活動概要

期間:2024年12月12日(木)～12月26日(木)

滞在国/チーム:スペインバスク州 ギプスコア県 サン・セバスティアン/レアル・ソシエダ

練習場:[https://en.m.wikipedia.org/wiki/Zubieta\\_Facilities](https://en.m.wikipedia.org/wiki/Zubieta_Facilities)

宿泊先:レアル・ソシエダ提携宿舎、および周辺ホテル(スタッフ)

人数:選手 2名、スタッフ 2名

その他:ラ リーガ視察、アカデミースタッフ交流、施設見学、文化交流予定

## ■実施報告・成果

チーム単位の海外遠征ではなく、個人単位の留学にすることで全く違う種類の経験・学びがあった。

→コミュニケーション力（人間力）の必要性を、実体験を通して痛感することができる

→語学の必要性を、実体験を通して痛感することができる

→個人としての実力を自分のことを全く知らない集団に対して証明する必要がある

→異なるサッカー感・文化に短期間で適応する能力を身につける

→休みの時間も孤独と向き合う中で、迷い道なく葛藤の日々を暮らすことができる

選手にとっては壁をいくつも突きつけられた12日間となった。特に序盤は「与えられたものを消化している」態度・行動が多かったので、こちらから刺激を与えた後は、できるだけ彼ら自身が行動を変えられるように最小限の手助けを心がけ、彼らの変化を辛抱強く待った。仮に帯同スタッフが主導となってアドバイスや激を入れ続けければ、期間中のパフォーマンス自体は上昇したかもしれないが、きっと「困ったけど大人が解決してくれた」という経験を増やすだけだっただろう。そうした短期の成果よりも、長期的な自立を促した。自分で決断して、自分で行動して、自分で勝ち取る。彼らが技術的に劣ることがないぶん、「よくいる上手い選手」から「どこに出しても戦える選手」に変わることが今後の一一番の課題だと感じる。

今シーズンのU-18でも「自分ごとにすること」が一つのテーマだったが、やはり彼らには「言われたことをやる、言われていないことはやらない」という習慣が染みついていることを再確認した。こうした環境下で、個人個人で晒されると、余計に主体性の欠如が浮き彫りになる。その意味でもこうした個人留学は大きな価値があると確信したし、指導者としての今後の課題もより具体的にできた。

## ■活動写真





## 東京ヴェルディ

## 【基本情報】

■クラブ名	東京ヴェルディ
■活動タイトル	東京ヴェルディ U-14 スコットランド遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	エдинバラ／スコットランド
■協力先	ハイバーニアンFC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年7月30日(火)～2024年8月8日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	X(東京ヴェルディ(TOKYO VERDY)公式)で発信

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

海外遠征を行うことにより、日常と異なる環境、対戦相手との試合を経験させたい。国内では経験できないスピードやテクニックを体感し多くの刺激を得る中で、自分の現状を把握し、今後の取り組みに生かしてほしいと考えている。また、異文化に触れることで見聞を広げてほしい。

遠征先の選択については、現在、クラブ間で提携についての話を進めている関係でハイバーニアンFCとの交流を決めた。スタートとして、U14の選手とスタッフが先方に伺い、交流を深めたいと考えている。

## ■活動概要

- 事前学習
- ハイバーニアンFCとの合同トレーニング
- 3チームによる1dayトーナメント
- ハイバーニアンFC・セントミレンとの試合
- ハイバーニアンFCスタッフとの交流
- 市内観光
- 朝食作り

## ■実施報告・成果

### ●目的①海外での経験を積み、サッカーの成長・人間力の成長を促す

海外での生活(衣食住)、海外文化・言葉、海外チームとの対戦、海外チームの環境にたくさん触れ合うことができた。今後の彼らの成長に少なからずプラスになることが確信できた。

言葉の問題、食事の問題に直面して、必要性・順応性を感じていた。

サッカーのレベルに関しては、考える余地を残した。

### ●目的②ハイバーニアン FCとの交流(提携に向けて)

ヴェルディの良さ(技術・判断・アジャリティ)に対して、非常に高い評価をしていただき、提携に向けてはプラスになった。スタッフの交流・フロント MTG を通して、非常に良いコミュニケーションが取れた。

(結果としては先方のクラブ事情で提携の話はなくなってしまった)

ある選手の振り返り(以下文章参照)から意識の変化を感じることができた。

スコットランド遠征で「海外の選手を圧倒しないとプロにはなれない」と実感することができた。日本に戻ってきてスコットランド遠征前と後でサッカーへの取り組む姿勢や意識が変わった気がする。継続していきたい。目の色を変えて練習や試合に取り組まないと、目の前の目標であるユース昇格もできず、人生最大の目標であるプロサッカー選手になれないと思う。遠征前は余力を残してプレーしていたが、遠征後から一つ一つのプレーを全力でやろうと意識を変えることができた。

周りの目を気にせず、自分の世界でやろうと思うことができた。初めてサッカー漬けの生活をした。見え方、感じ方、取り組みが変わり、自分を見つめ直す遠征となった。

## ■活動写真





FC町田ゼルビア

## 【基本情報】

■クラブ名	FC町田ゼルビア
■活動タイトル	FC町田ゼルビア U-17 リヨン遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	リヨン／フランス
■協力先	オリンピック・リヨン
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-17
●対象者詳細	
■活動期間	2024年8月12日(月)～2024年8月23日(金)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

「町田を世界へ」というクラブビジョンにのっとり、アカデミー選手が海外遠征を通して、国際経験を積むことと、普段対戦できない相手との対戦で成長速度を早めるきっかけを作る

## ■活動概要

- オリンピック・リヨン含む4チームとの対戦 ※結果5チームと対戦
- リヨン旧市街地など観光

## ■実施報告・成果

この遠征では、「移動」「異文化に触れる機会」「プレー環境」「外国人との交流」など、日本では得難い経験ができました。一方で、「食事」や「対戦相手のレベル」については改善の余地があると感じました。

## ●パフォーマンスと試合結果

長時間の移動後、短い準備期間での試合においても選手たちは良いパフォーマンスを発揮しました。他の試合でもスコアと内容の両面で良好な結果を収めることができました。ヨーロッパがプレシーズン中であったことを差し引いても、選手たちは「うまさ」「賢さ」「タフさ」でチーム全体として相手を上回っていました。ただし、フランスのチームはチーム戦術面の整備が不足している場合が多くたものの、個人での解決力を重視している点が印象的でした。このため、将来的に選手個々の比較ではフランスの選手がより生き残る可能性を感じました。我々の選手育成においても、チームとしての戦術理解の深化は重要ですが、それ以上に選手個々が課題を自ら解決できる力を育む必要性を改めて認識しました。

また、大差での勝利は、選手に対して過度な自信や勘違いを生むリスクがあり、また第三者からは遠征の意義が問われる可能性もあるため、対戦相手の選定は今後の課題です。さらに、対戦相手のレベルや競技環境の違いから、選手やチームとしての経験値を深める機会が想定以上に得られなかつたことも課題として挙げられます。

## ●食事に関する課題

特に朝食に課題がありました。文化の違いから、日本の選手にとって量・質ともに十分とは言えない内容で、パフォーマンス維持に支障が出る可能性がありました。アカデミーの遠征では贅沢は必要ありませんが、選手がピッチ上で普段のパフォーマンスを発揮するためには、異文化の中でも普段に近い環境を整えることが重要です。この点については次回遠征時に改善を図りたいと考えます。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	FC町田ゼルビア
■活動タイトル	FC町田ゼルビア U-13、U-12 リヨン個人留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	リヨン／フランス
■協力先	オリンピック・リヨン
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13 U-12
●対象者詳細	中田琉生、齋藤大雅
■活動期間	2024年11月30日(土)～2024年12月12日(木)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- ・ サッカーの競技力を向上させるため
- ・ フランスの文化や言語に触れながら、異なる地、異なる仲間、異なるプレー環境で、自分を表現するため

## ■活動概要

トレーニングおよび練習試合

文化体験と生活環境

## ■実施報告・成果

ピッチ内(コーチからの指示や選手間のコミュニケーション)、トレーニング方法、チームオーガナイズ、寮生活、食事など、すべてが普段とは異なる環境の中で、サッカー選手を目指すための完璧な環境を体験できた。このような経験は、チームとしての活動とは全く別物であり、個人にとって非常に貴重な機会となる。

このプログラムは、パートナーシップを結ぶ上で最も重要なものだと言える。また、プロサッカー選手を目指す上で、根本的な部分を再認識する絶好の機会でもあった。

さらに、メンタルテストや映像を活用した個人フィードバックなど、より個人にフォーカスしたプログラムを実施することができた。

## ■活動写真





## 川崎フロンターレ

## 【基本情報】

■クラブ名	川崎フロンターレ
■活動タイトル	ビジャレアル探求の旅 in 2024
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	ビジャレアル/スペイン
■協力先	ビジャレアル CF(佐伯夕利子さん、オーナーのフェルナンド・ロッチ氏他) バレンシア Basket Club、スポーツ CITY、現地セラミック会社、 一般社団法人アプロプロジェクト、他
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	U-15 等々力監督 矢島 卓郎
■活動期間	2024年4月23日(火)～2024年5月1日(水)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 「問うて、感じて、考察する」というテーマの研修から、指導者としての能力のみならず、スポーツを経営する人材育成につなげる
- 「スポーツの無形の価値を経営する」というのはどういうことかを学ぶクラブの哲学、地域や産業との関わり、アカデミーの人材育成などあらゆる角度から、プロサッカーチームがあることの意義や価値を学び、チーム・選手・社会に還元したいと考え参加

## ■活動概要

- ビジャレアル CF のオーナー「フェルナンド・ロッチ氏」が経営するセラミック会社視察
- パブリックアート見学
- スタジアム視察
- アカデミー組織の育成方針講習
- バレンシア Basketball Club(同オーナーが経営するプロバスケットクラブ)視察
- スポーツ CITY(ビジャレアル CF トレーニング施設)視察
- 育成力テgorieの公式戦・選手寮の視察
- TOP チームのホームゲーム視察(ビジャレアル CF vs ラージョ・バジェカーノ戦)
- セラミック会社の工場(障害者雇用)視察
- バルセロナでの試合視察(FC バルセロナ vs バレンシア CF 戦)
- 研修中は毎晩参加者でリフレッシュ研修  
※研修前の Zoom 研修会実施

## ■実施報告・成果

### ●研修を終えて感じたこと

研修を企画してくれたビジャレアル CF の佐伯さんの細かい気配りが素晴らしい、充実した研修となった。ただ行って、「見て、話を聞く」だけでなく事前の勉強会で、前後関係の情報を入れた上で視察を行えたこと(研修中も次の日視察する内容につながる講義を You Tube で展開していただいた)、視察をする順番や内容がすごく考え込まれていたこと、毎晩参加者でディスカッションできたこと、そして佐伯さんがすべての行程に帯同して下さり、直接いろいろな話しができたこと、などただ練習や施設を見学して行くだけでは得ることができない『見て、聞いて、感じて、問われて、考える』経験をさせていただいた。

その中で特に感じたのが『どの視点・視座から、どこまで見て仕事をするのか』を常に考えることが大事だということ。そして、考え方や哲学をいかに組織で共有していくか、実際の行動に移していくか、が現実的には大きな課題になると思った。

ビジャレアル CF ではフェルナンド・ロッチ会長の、地域の産業の発展やチームの施設、アカデミーの人材環境作りを重視する考えがスタッフ一人一人に浸透していて、地域の人たちもそういうチームだからこそ、より好きになり応援してくれる好循環があるように思えた。

ただ、ミッション・ビジョン・バリューというのを掲げるだけでなく『どのスタッフもチームを語ることができる』くらいまで方向性が合致しているので、上っ面だけでなく本気度を感じるのだと思う。

サッカーの世界だけでなくビジネスというものを考えた時、今年・来年の目に見える利益だけでなく、遠い未来の見えない財産のために投資する事はすごく難しい。特にオーナーではない経営者の場合は特にそうだろう。ビジャレアル CF の場合は、オーナーが『作りたい未来像・こうなって欲しいという世界観』に向かってぶれていらないし、それに共感している人たちがそこに向かって尽力している。

自分も1コーチではあるが、自分のチームだけでなく日本サッカー界、日本の教育制度や社会など今まで考えなかつた所まで範囲を広げ、そして時間軸もより遠くまでイメージし、日々の仕事に取り組み、周りを良い方向に変えていくようにしていきたい。

### ●チーム/アカデミーへの報告

アカデミーの環境や育成方針を重点的に報告 \*助成金、大変助かりました。感謝申し上げます。矢島卓郎

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	川崎フロンターレ
■活動タイトル	「第6回ベトナム日本国際ユースカップU-13」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ビンズン省／ベトナム
■協力先	在ベトナム日本国大使館、ビンズン省人民委員会、ビンズン省文化スポーツ局、ベトナム日本商工会議所、ホーチミン日本商工会議所、ダナン日本商工会議所、ベトナムサッカー協会、(公財)日本サッカー協会、ビンズンサッカー協会、(公社)日本プロサッカーリーグ エースコックベトナム他、本事業に賛同する日越企業・団体(ベカメック IDC、ベカメックスビンズン FC、東急グループ、ブレインググループ)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	U-13 等々力選手 19名、スタッフ4名
■活動期間	2024年12月10日(火)～2024年12月16日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 青少年の健全育成
- 国際交流・人材育成
- 多様な価値観・相互理解
- 日越サッカー事業の発展
- 海外研修を通じての、アカデミー選手・指導者個別育成、国際経験を通じたプレー・指導力・人間力の資質能力向上

## ■活動概要

- 国際大会を通じての、選手の個別能力向上
- ベトナム国内およびその他チーム選手等との国際交流
- 日越文化交流
- 施設訪問による社会貢献事業

## ■実施報告・成果

海外チームとの試合を通じて、選手・スタッフ個々が現状の自分達の力を確認でき、今後の課題・新たな目標につなげられる活動ができました。特に、自分達よりも身体能力の高い相手に対して、またグラウンドコンディションが悪い状況下でも発揮できる技術・戦術、苦しい展開の試合でも、最後まで戦い抜ける強く粘り強いメンタリティーを身に付けることの必要性を、選手たちは日々に現地で話していました。

また、異国の人たちとの交流・異国の食事等も含めた異文化交流を通して、自國の活動内では味わえない新たな刺激を受け、今後の人間性向上にも生かせるものであったと感じています。

実際のところ、遠征後の選手個々には、活動に対する意識・取り組みに少しづつ変化が見られ、食事やトレーニング等、自身の体作りへの意識の高まりや、技術向上へのトレーニングの質が向上しています。

課題としては、クラブサイドからは、レフェリー・グラウンドの質の問題、アカデミーとしては、U-13 等々力のみならず、U-13 生田も含めた2チーム参加を希望していましたが、運営・予算等の関係で、1チームのみの参加となってしまったことが挙げられます。

選手・指導者育成のためには、非常に成果が期待できる取り組みであると感じていますので、活動継続ができるようにクラブ全体で、運営面も含め改善していきたいと考えています。

\*この活動に際して、Jリーグアカデミー助成金を認めていただき、大変感謝申し上げます。

クラブ・アカデミーとして、選手・指導者育成する面で、非常に助かりました。

本年度も、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## ■活動写真





横浜F・マリノス

## 【基本情報】

■クラブ名	横浜F・マリノス
■活動タイトル	横浜F・マリノス U-11 マンチェスター遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	マンチェスター／イングランド
■協力先	マンチェスター・シティ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-11 以下
●対象者詳細	
■活動期間	2024年5月6日(月)～2024年5月14日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

Jリーグ、そして世界で活躍する選手を輩出するために、アカデミー選手に卓越した環境を提供する

- トップレベルアカデミーと対戦(体感)して、今後の成長に！
- 感性を磨く、育む
- 連携継続、強化

## ■活動概要

「2024 International City Cup」への参加およびマンチェスター・シティトレーニング見学、育成担当者とのミーティング・ヒアリングなど

【2024 International City Cupについて】参考 <https://www.tournify.uk/live/citycup2024/schedule>

- 大会出場クラブ 8 チーム

バーンズリーFC(イングランド)、チェルシー(イングランド)、フェイエノールト(オランダ)、ユベントス(イタリア)、KRC ヘンク(ベルギー)、マンチェスター・シティ(イングランド)、RSC アンデルレヒト(ベルギー)、横浜F・マリノス

- 大会方式 (合計 10 試合)

総当たり戦の予選リーグを行い、順位をもとに組み合わせを決定した 8 チームによるトーナメント戦を行う

## ■実施報告・成果

## ●成果

1. 成果前線からのプレッシング効果: フットボール発祥の地でヨーロッパのビッグクラブと対戦し、特に前線からのプレッシングによって相手を困らせることができた点は大きな成果です。ボールを奪う意識と予測、連動が効果的に機能した。

2. 国際的な交流と社交性: オフザピッチでは、社交的な選手たちが他チームの選手やスタッフと積極的に交流。これにより、異文化間のコミュニケーション能力が向上した。

**3.対戦したチームの質:**マンチェスター・シティや切尔西のようなトップクラスのチームとの対戦を通じて、高いレベルの競技に触れ、選手たちの意識が高まりました。KRC ヘンクやバーンズリーFC といったチームとの拮抗したゲームからは、競争力のある試合を展開する経験が得られた。

**4.スタッフの学び:**ミーティングでは、各スタッフがマンチェスター・シティの専門家と深い話をし、多くの学びを得ることができた。これが今後の指導法に生かされることが期待される。

### ●課題

**1.攻撃面の技術と戦術:**オンザピッチでのプレーでは技術と個人戦術が劣っており、意図的な攻撃、特にビルドアップからのシステムティックな攻撃展開ができなかった。カウンターアタックに頼った場面が多く見られた。

**2.キックの精度とパスの問題:**ボールの扱いに苦労し、特にキックの精度に大きな差が出ました。プレッシャーを受けた際のパス処理も不安定で、中途半端なクリアが目立った。

**3.プレーエリアについて:**守備時のカバー意識と攻撃時のサポート意識が強すぎるあまり、チーム全体がコンパクトになりすぎ、ロングパスを利用されたり、適切に幅を取ったりすることができなかった場面が多かった。

### ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	横浜F・マリノス
■活動タイトル	横浜F・マリノス U-14 韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	仁川／韓国
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年10月24日(木)～2024年10月27日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- Jリーグ、そして世界で活躍する選手を輩出するために、アカデミー選手に卓越した環境を提供する
- アジア隣国の強豪クラブとの連戦を経験して、タフに成長を！
  - 主体的な行動ができるように！
  - U-16 日本代表アジア予選へのシミュレート

## ■活動概要

- トレーニングマッチ 4試合

1日目 vs. 仁川ユナイテッド

2日目 vs. ソウルイーランドFC、vs. FCソウル

3日目 vs. 仁川プロビジョン中学校（試合終了後に韓国移民歴史博物館を見学）

## ■実施報告・成果

## ●成果

## 1. 前線からの守備の運動性評価:

ボールを中心としたポジション取りや、味方の動きに連動した守備の質は高く、対戦した韓国の監督からも「韓国ではなかなか見られないレベル」と高い評価を受けた。これは幼少期からの守備習慣の成果であり、継続的なトレーニングの賜物である。

## 2. 外的環境への適応力の向上評価:

異なる環境において、自分たちの力を最大限に發揮するための適応力の重要性を体感した。特に、長距離移動や異なるボール・ピッチの状況、現地の食事、そして合同チームでの活動において、柔軟に対応する経験を積むことができた。

## ●課題

### 1.個の力不足:

チーム全体としての連動性は高いものの、「個」で圧倒的な違いを生み出す選手が不足している。試合の流れを単独で変えるような突出したプレーが少なく、個々の選手の技術やフィジカルの向上が求められる。今後は、IDP をさらに活用し、選手個々の強みや課題を明確にしながら、選手を強化していきます。これにより、各選手のポテンシャルを最大限に引き出し、チーム全体の競争力を高めることを目指す。

### 2.リスタートの改善:

リスタート時のパワーバランスを考慮した選択が不足しており、特にスローインの成功率が低い傾向が見られた。現状、1st チョイスが後方へのパスとなってしまう場面が多く、攻撃的な選択肢が乏しいため、セットプレーの改善が必要。

### 3.危機感度の低さ

ピッチ内外での「危機」を正しく認識する感度が低い点が課題。特に、相手の急な攻撃や予期せぬシチュエーションに対しての反応が鈍く、対応が後手に回ることがあった。今後は、試合中の状況判断力やピッチ外でのリスクマネジメント力を向上させるトレーニングが必要。

## ■活動写真





横浜FC

## 【基本情報】

■クラブ名	横浜FC
■活動タイトル	横浜FC U-14 ポルトガル遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	カスカイス/ポルトガル
■協力先	UD オリヴェイレンセ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年3月24日(日)～2024年4月4日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.yokohamafc.com/2024/03/22/academy_oliveirense/">https://www.yokohamafc.com/2024/03/22/academy_oliveirense/</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 選手強化(・日常ではない環境での適応・個々の課題抽出・グループ、チーム戦術理解など)
- MCO(マルチクラブオーナーシップ)であるUD オリヴェイレンセ訪問により、アカデミー選手のパスウェイの視覚化

## ■活動概要

国際大会(IZER CUP)の参加および対外試合の実施、リスボン観光、資本提携チーム UD オリヴェイレンセ訪問。

## ■実施報告・成果

## ●成果

## ・競技面

日本の同学年よりもフィジカル能力が高く、強度や間合いの広さ等、普段経験できない基準を感じ取ることができた。また、局面での個人で打開する力、ファウルをしてでも止める賢さなど、試合全体のみならず、局面での勝負の拘りの違いを感じ取ることができた。日本とは違う環境の中でサッカーをする適応力、相手の特徴を観てサッカーする等、サッカー選手として必要なスキルを身につけるきっかけになった。

本遠征では、U14 選手たちが思い描くプレーの発揮時間は決して多くなかった。ただ、逆を言えば、現状からより高めていかなければならないことを体験できたことは素晴らしい経験となった。

## ・生活面

大雨での移動、食事会場への移動、海外での食事、遅い時間の試合による睡眠時間の変化など、普段とは違う環境で過ごすことができ、タフな経験を積むことができた。同時に日本で当たり前にしていること、されていくことに対して、それは当たり前ではないことや感謝するということを改めて知ることができた。また、当時 UD オリヴェイレンセ所属の三浦知良選手と永田選手(ユース卒)のお話をキラキラした目で見る姿は印象的だった。

観光では外国人とのコミュニケーション、団体行動、海外の街並み等に触れることで、伝える力やマナー、異文化についての学習を深めることができ、人間力の向上を図ることができた。

### ●選手コメント

永田選手が大切なことは感謝の気持ちを忘れないことと言っていました。

どこに行っても感謝の気持ちは大切だと私もよくわかったので私も感謝の気持ちを忘れないでサッカーをしたいです。

全体を通しての振り返りは結果を残せなかつたことが一番悔しいです。しかし、人間性においてはすごく成長したと思います。この遠征でご飯の大切さや感謝の気持ち。エンブレムを背負っての戦い、みんなが責任を持って戦うなど、以前よりも一人ひとりが成長したなど自信を持って言えるポルトガル遠征でした。この経験を生かして日本でも、もっともっと成長、活躍をして横浜FCを強くしていきたいです。

### ■活動写真





## Y. S. C. C. 横浜

## 【基本情報】

■クラブ名	Y. S. C. C. 横浜
■活動タイトル	マルベーリヤFC(スペイン)へ選手および指導者の短期留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	マルベーリヤ/スペイン
■協力先	マルベーリヤFC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18 (指導者は「アカデミーダイレクター補佐/U-15監督」)
●対象者詳細	選手①:藤澤健人、選手②:堀山湊、指導者:中島彰宏
■活動期間	2024年8月6日(火)~2024年8月15日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.yscc1986.net/info/17595/">https://www.yscc1986.net/info/17595/</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

「アカデミー選手育成、経験、またクラブ育成プランの構築」

当クラブ育成戦略の一つとして、選手の国際経験を創り出す。

## ■活動概要

マルベーリヤFC(スペイン)のU-19カテゴリーへの練習および練習試合などの活動へ参加。

## ■実施報告・成果

2人にとって選手としても人間としても良い経験になったと感じています。プレー面では細かな技術は通用するも、ゲームに活きた技術までいかず、フィジカルの乏しさを個々が痛感してくれたと思う。また言語が通じない環境で最初は、水分補給すら円滑にできなかったところが最終日にはジェスチャーや単語レベルのスペイン語で積極的にコミュニケーションを取っていて、帰国後は今までよりも周りの選手に声をかけてリーダーシップを発揮し始めているのは、今回の留学が良いきっかけになったと思うので、今後も継続して留学させていきたい。

## ●藤澤健人

マルベーリヤFCの練習に参加して、サッカーの楽しさと奥深さを改めて感じました。そして、日本でのサッカーとの大きな違いを3つ、発見しました。一つ目は、トレーニングの質です。1時間半弱という短い時間でしたが、脳と体の疲労度が、日本での2時間の練習と比べて明らかに高かったです。ポゼッションやロンドは、グリッドが狭く、全選手のプレスの強度が高いため、考える時間が少ししかありませんでした。そのため、慣れるまではパスを通すのも難しかったです。また、練習と練習の間が短いので、すぐに頭を切り替えなければなりませんでした。2つ目は、一人ひとりの選手のサッカーの理解度です。初対面の人たちの中に入ったのにも関わらず、プレーしているときの居心地がすごく良くて驚きました。例えば、自分がボールを持った時、ドリブルコプレーを開けながらパスコースを作ってくれたり、パスを出したい場所にいいタイミングで走り込んでくれました。また、パスを自

分が受けるときは、走り込むスペースに欲しい方の足につけてくれるので、次のプレーがしやすかったです。このようなことを全選手が当たり前のようにできるのが、スペインサッカーの魅力だと感じました。

3つ目は、国民性です。日本では体験等の新参者が来た時に、あまり厚かましくぐいぐい来られると、引いてしまう人が多いのですが、スペインでは、新参者がぐいぐいと近づいていかなければ、何も始まりません。こちらから、ぐいぐいと近づいていくと、気軽に挨拶したり、コミュニケーションをとってくれます。プレー中においても、日本では体験の選手が練習に参加する時、声をださなくてもいいところにさえいればパスをもらえますが、スペインでは呼ばなければ絶対に出してもらえません。プレー自分が仕掛けてチャンスを作ったり、実力が認められるまでには、ほとんどパスが来ませんでした。結構シビアな世界でした。

このように、たくさんの違いがありましたしが、自分はどれもポジティブに捉えています。日本でのサッカーもいいところがたくさんありますが、短時間に、レベルの高い選手たちと質の高いトレーニングを経験できたこと、また遠慮なく、自分の性格もオープンにし、サッカーでも認められるプレーをすれば、国境を越えてすぐに溶け込むことも分かったので、今後ともこの経験を通して、グローバルな視野で、日本にいる人たちとも付き合い、また自分が体験したことをチームメイトたちとも共有したいと考えています。

### ●堀山湊

今回、マルベーリャFCの練習に参加させていただいて、率直に感じたのは、日本と比べて練習一つ一つにかかる集中力の違いです。ただのアップにも関わらず、一つにプレーにこだわりを持って考えてやっていてとても驚きました。また、鳥籠やボールポゼッションでは、守備の声掛けは途切れることなく、全員が積極的に声を出していました。決まった人がチームを仕切っていくのではなく、全員で上を目指していくことにも感心しました。そして何より驚いたのは、一つ一つのトレーニングで、頭で考えることをやめると置いていかれると言うことです。どうすれば良いのか、二つ三つ先のことを考えないと上手くいきませんでした。このことを怠らずやっているので、成長スピードが早いのだと感じました。

この経験を生かして、YS横浜ユースに持ち帰り練習に励んでいますが、なかなか上手くいきません。ただ、少しづつですが、近づけているなど感じます。これからも毎日考えて、練習に取り組んでいきたいです。

### ●中島彰宏(U-15監督/アカデミーダイレクター補佐)

参加選手たちにとって、言語や文化の壁がある場所でプレーができた今回の経験は、今後のサッカー選手としても一人の人間としても大きな成長のきっかけとなったと思います。今回の経験をチームに伝え、チーム、選手全体が成長するよう今後も努めていきます。

### ■活動写真





湘南ベルマーレ

## 【基本情報】

■クラブ名	湘南ベルマーレ
■活動タイトル	「コパベルマーレ U-11 パイロットインターナショナルトーナメント」開催
■活動種別	国際大会主催
■実施場所(都市／国)	馬入ふれあい公園サッカー場 人工芝・天然芝
■協力先	<p>◆海外チーム SE パルメイラス(ブラジル)、ASIOP FA(インドネシア)、エフ・シー・ケー(韓国)、ノンブア・ピッチャヤ FC(タイ)、北京遠晟 FC(中国)、ナショナル・フットボール・ディベロップメント・プログラム U11(マレーシア)</p> <p>◆主催 株式会社湘南ベルマーレ、NPO 法人湘南ベルマーレスポーツクラブ、一般社団法人神奈川県サッカー協会</p> <p>◆特別協賛 株式会社パパイロットコーポレーション</p> <p>◆協賛 TK COMPANY 株式会社、荒井商事株式会社、株式会社フジタ、クラフトマン機工株式会社、株式会社湘南マツダ、鈴廣かまぼこ株式会社、FiTrain24、平塚信用金庫、日本シグマックス株式会社(ZAMST)、株式会社ウインズポート(PENALTY)、株式会社サン・ライフホールディング</p> <p>◆協力 株式会社ファンルーツ</p>
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-11 以下
●対象者詳細	<p>◇湘南ベルマーレホームタウントレセンチーム(10チーム) 厚木トレセン、伊勢原トレセン、小田原トレセン、鎌倉トレセン、寒川トレセン 茅ヶ崎トレセン、中郡トレセン、秦野トレセン、平塚トレセン、藤沢トレセン</p> <p>◇国内招待トレセンチーム(2チーム) 海老名トレセン、相模原トレセン</p> <p>◇国内招待Jリーグアカデミーチーム(2チーム) 浦和レッドダイヤモンズジュニア、鹿島アントラーズつくばジュニア</p> <p>◇国内招待チーム(3チーム) COPA 街クラブ選抜、JFA-TC KANAGAWA U-11、三菱養和 SC 巣鴨ジュニア</p> <p>◇海外招待チーム(6チーム) SE パルメイラス(ブラジル)、ASIOP FA(インドネシア)、エフ・シー・ケー(韓国)、ノンブア・ピッチャヤ FC(タイ)、北京遠晟 FC(中国)、ナショナル・フットボール・ディベロップメント・プログラム U11(マレーシア)</p> <p>◇湘南ベルマーレ(1チーム) 湘南ベルマーレ強化特待クラス</p>
■活動期間	2024年6月22日(土)～2024年6月23日(日)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.bellmare.co.jp/343636">https://www.bellmare.co.jp/343636</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

本大会は 2000 年より開催していた「湘南ベルマーレホームタウンカップ」を前身としており 2016 年より「COPA BELLMARE」として装い新たに国際大会として開催しています。湘南地域の子どもたちが、サッカーを通じて国

際交流を行う機会をつくり、また J クラブや海外チームと対戦することで、少年・少女のサッカー技術の向上と健全な心身の発育を図ることを目的とします。

## ■活動概要

2024 年 6 月 22 日(土)&23 日(日)の 2 日間に渡って、U-11 年代の国内外全 24 チームが参加する「2024 COPA BELLMARE U-11 PILOT INTERNATIONAL TOURNAMENT」を馬入ふれあい公園サッカー場(天然芝・人工芝)で開催いたしました。本年は海外から、ブラジルの強豪である SE パルメイラスの他、アジアのクラブなど計 6 チームを招聘。国内からは湘南ベルマーレホームタウン各エリアのトレセンチームや国内の招待クラブ、Jリーグクラブチームなどが参加し、それぞれのチームが普段対戦することのできない海外チームと試合をする貴重な経験となりました。

## ■実施報告・成果

本年は、SE パルメイラスの優勝で大会を締め括りました。大会参加チームの選手はもちろん、指導者、観戦した方々が、世界基準のプレーを体感することができました。湘南地域の子どもたちの成長に貢献できた大会となりました。大会に参加してくれた海外チームは、日本食にチャレンジしたり、鎌倉に観光し日本の文化に触れたり、Jリーグの試合観戦をして、日本を満喫して帰国しました。

湘南ベルマーレ強化特待チームは、初戦から SE パルメイラスと試合を行い、インテンシティの高い相手に自分たちの練習成果を発揮していました。結果こそ思うようになりませんでしたが、日頃の活動の目標ができました。大会運営も大きなトラブルもなく、アカデミースタッフを中心に準備から片付けまで行い、企画・運営力の向上にもつながりました。次年度も湘南地域のサッカーに貢献できるよう準備していきます。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	湘南ベルマーレ
■活動タイトル	湘南ベルマーレ U-18 選手ウルブス短期留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	ウルヴァーハンプトン/イングランド
■協力先	ウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ FC 遠藤航(リヴァプール FC)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18
●対象者詳細	平塚次郎(AD/U18 監督)、崎野悠真(高2)、杉浦誠黎(高2)、中村龍(高2)
■活動期間	2024年8月16日(金)～2024年8月27日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

本件は、トップチーム昇格を目指すユース選手の中で、特にクラブとして強化していきたい選手を提携先であるウルブスに留学させ、選手の成長を促すことを目的としました。またアカデミーダイレクターが現地に訪れ、関係性の構築を進めていきたいという目的で実施しました。

## ■活動概要

本件は、提携先であるウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ FC のクラブハウス訪問をはじめ、練習視察や練習参加を体感し、トップチーム昇格を目指す上で必要な成長を促すプログラムです。またプレミアリーグを観戦したり、アカデミーOB である遠藤航選手との面会やプレゼン研修を実施しました。

## ■実施報告・成果

平塚アカデミーダイレクターが提携先であるウルヴァーハンプトン・ワンダラーズ FC にアカデミー責任者として挨拶し、関係を築けたことが大きな収穫でした。参加した選手たちは、同年代の選手たちの意識の違いやフィジカルの違いを感じることができ、遠藤航選手と面会でさまざまな話を聞けたことなど世界基準を体感できたことが大きな刺激となりました。一方で日本人の良さや武器も理解できたことは収穫でした。参加した選手たちは帰国後、トップチームのトレーニングに参加し、世代別代表に選考されるなど、間違いなく貴重な経験を経て、日々の取り組みが変わった印象でした。次年度以降も継続的に実施する価値がある活動となりました。

## ■活動写真





## ヴァンフォーレ甲府

## 【基本情報】

■クラブ名	ヴァンフォーレ甲府
■活動タイトル	ヴァンフォーレ甲府 U-18 エリート選手海外(オランダ)留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	オランダ王国
■協力先	Roda Kerkrade
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18 U-17
●対象者詳細	中村 順(HOC) 保坂 知希(U-18)、太田 創大(U-17)、雨宮 汎来(U-17)
■活動期間	2024年3月21日(木)～2024年3月31日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

サッカー先進国で日本とは異なる環境に身を置き、現地での生活やプレースタイルを体感する事で、新たな学びを通じて人として、又サッカー選手として更なる成長を促す。また、現地選手と共にプレーする中で現時点での自身のサッカー選手としてのプレーレベルを測る。

## ■活動概要

- 視察内容(練習視察 Roda U-16、U-18、U-21)
  - 技術+戦術練習(パス、ポゼンション、ゲーム形式)
  - 対人(1対1～)
  - 試合形式(7対7+2GK 等)
  - フィジカルフィットネス(持久系)
- 練習試合視察
  - Roda Kerkrade U-18対大阪高校選抜
  - 日本高校選抜対 1.FCケルンU-18・公式戦視察
  - Roda Kerkrade vs NAC Breda (Eeste divisie)
  - NEC Nijmegen vs PSV (Eredivisie)
- インタビュー
  - サーヴァイス氏( Roda Kerkrade スポーツダイレクター)
  - 高野氏(シントロイデンVVU-21 監督)
  - 犬塚健太氏(FC フォーレンダム理学療法士)
- 視察(日本高校選抜 練習試合)

## ■実施報告・成果

10日間という短い期間ではあったが、練習や試合、および高校選抜の試合を視察する中で感じたことは、V甲府の3選手もこの環境の中でも十分、プレーすることができるということ。技術力や判断力は劣ってはいなく、また、精神面でも積極的にコミュニケーションを測れば、言葉の違いを超えて良い人間関係が築け、信頼してボールが回ってくるということが分かった。しかしながら、オランダ人もU-16以降の秀でてくる身体的、そしてフィジカル的特徴がどういうものがあり、また彼らのテクニックが我々の選手のそれとは異なり、自国のサッカースタイルの影響を受けた独自のものであるということであった中、如何に対応するのか？という課題が見えてきた。オランダはかつて、パスを1、2タッチで小気味よくつなぐ「ダッチ・フトボール」と形容されたプレースタイルもボール奪取から直線的に素早くシンプルに相手ゴールを目指すということも、彼らの技術的、そしてフィジカル的特徴を生かすところから導き出された時代の「トレンド」や「スタイル」、また「流れ」があるのだと感じた。

日本人として、今回視察した中で見受けられたことをそのまま取り入れたとしても、持っている素養の部分で異なるために決して有効だとは思わない。攻守に適切な距離を保ちながらお互いが連携連動できるオーガナイズの中で試合を進める。攻撃においては連携しながら意図的にBOX近く(自陣から80m)まではボールを運び、BOX近くからその特徴である高い技術力でのコンビネーションや俊敏性を生かしてのソロでの仕掛け。また守備では11人が連動し危険なスペースをカバーしながら(ゾーン・ディフェンス)相手選手をマークする(マンツーマン・ディフェンス)守り方を90分間集中して続ける必要があると思う。そのためにも守備の対人力が高く、そして攻撃でも正確なビルドアップができるセンターバックが不可欠であり、BOX近く(内)で違いを作れるサイドアタッカーやストライカーが必要とされるであろうし、守備では全選手がそれぞれのポジションでのタスクを90分間徹底できる選手が求められているのだと実感した。

今回、普段、オランダ人がどのような生活をしているのか？を経験してもらうために、彼ら3名にはオフザピッチで選手だけで外食をさせ、スーパー・マーケットでは必要な物の買い物をさせたが、全く気後れすることなく、問題なく行動していた。その態度がピッチ上にも表れて信頼されたため、U-21チームの練習にも招待され参加することができた。最後に、このような貴重な経験ができる機会を提供してくれたクラブ、およびヴァンライズでアカデミーを支援していただいている方々に心より感謝申し上げます。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。(HOC:中村)

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ヴァンフォーレ甲府
■活動タイトル	ヴァンフォーレ甲府 U-14 タイ遠征 「U-14 アセアンドリームフットボールトーナメント」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	タイ/バンコク
■協力先	森下仁丹株式会社
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	松橋 優(U-14 担当)、保坂 一成(U-13 コーチ)、雲居 和城(U-10 コーチ)、U-14 選手(18名)
■活動期間	2024年7月20日(土)～2024年7月28日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 9年間の一貫指導(U-12、15、18)を基本に、プロ選手の育成を目的に活動していることから、この年代において海外遠征を経験し、世界基準を体験することにより、世界を認識することが可能になること
- 海外でプレーする経験(移動、気候、環境、食物)することにより、強い精神力の養成が図られること
- 異文化交流することにより、今後、国際感覚を養うための一助とすること

## ■活動概要

- Jintan U-14 ASEAN DREAM 2024 国際大会
- 寺院などの見学を行いタイの文化に触れる

## ■実施報告・成果

Jintan U-14 ASEAN DREAM 2024 国際大会(試合時間 35分ハーフ)

16チーム中 13位で終了

## 【日程】

- 1日目:日本からタイに移動
- 2日目:午前試合会場にてトレーニング
- 3日目:グループリーグ1試合目 vs Chainat hornbill 1-1
- 4日目:グループリーグ2試合目 vs Police Tero 0-1,  
TM vs Phraemaemary 30分1本(雷雨のため、1本で終了) 1-1
- 5日目:グループリーグ3試合目 vs TOYOTA junior 3-5
- 6日目:タイの街を観光、お寺巡り、ショッピングモールにて買い物
- 7日目:順位トーナメント vs Lamphun warriors 7-0、午後 TM vs Debsirin 30分1本 1-3
- 8日目:最終試合 PT prochuop FC. 3-2

## ● 成果

タイのチームは守備のオーガナイズが良くなく、多くのチャンスを作る事はできた。だが、自分たちの攻撃がシュートで終われない時や自分たちのミスから相手に奪われた時に相手のカウンターが迫力も勢いもありピンチになるシーンや失点になるシーンが多かった。そこから攻撃時でのやり切る事の大変さ、奪われた後のボールを蹴らせないための素早い切り替え、蹴られた時の戻るスピード、リスクマネジメントを怠らないという事が経験できた。守備の部分ではチームとしてどこからプレッシャー行くかの再確認。中を固めて外で奪うためのコーチングが試合を通して全員で喋れるようになってきた。

タイのチームにはチームに3人ぐらいフィジカルがありスピードがある選手がいる相手に対しての守備の対応。個人でどうボールを奪うか、チームでどこに追い込み守るかは課題となつた。

## ● フェスティバル評価

タイでは雨季の時期で高い確率で雨が降り日本よりも過ごしやすい環境だった。雨が原因でグラウンドがグチャグチャでボールも走らない状況だったが、自分たちのサッカーができなかつことに対してすごく前向きにトライさせてもらいました。普段と違ってボールが走らないからどう工夫したほうがいいのか、どのようなパスをすればいいか。その一つ一つのプレーに子どもたちがしっかり考えてプレーしたのは良い刺激になつたのではないかと思います。サッカー外の所では、タイの食事や文化に触れたり、選手たちだけで買い物をさせたりして素晴らしい経験ができたと思う。また、異国のサッカーを経験させてもらい選手、私含めて指導者も有意義な遠征となりました。

(U-14 担当:松橋)

## ■活動写真





松本山雅FC

## 【基本情報】

■クラブ名	松本山雅 FC
■活動タイトル	「U-17 RAZUSO インターナショナルカップ」開催
■活動種別	国際大会主催
■実施場所(都市／国)	長野県松本市
■協力先	Geylang International FC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-17
●対象者詳細	Geylang International FC U-17(シンガポール)、松商学園高等学校、松本第一高等学校、松本山雅 FC U-17
■活動期間	2024年11月15日(金)～2024年11月25日(月)
■公表情報(クラブのHP等)	開催のお知らせ <a href="https://www.yamaga-fc.com/archives/463374">https://www.yamaga-fc.com/archives/463374</a> 開催報告 <a href="https://www.yamaga-fc.com/archives/466058">https://www.yamaga-fc.com/archives/466058</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

松本山雅 FC ユースアカデミーの選手と長野県内の選手たちが、海外で活躍する選手ならびに国際社会で活躍する人材になるための育成促進の機会を創出することを目的として実施。

## ■活動概要

パートナークラブの Geylang International FC(シンガポール、以下 GIFC)U-17 を招聘し、選手の競技力向上と国際交流を目的とした国際大会「U-17 RAZUSO インターナショナルカップ」を開催。

また、Jリーグ、松本山雅 FC への興味を持つもらうため、松本山雅 FC のホームゲーム観戦やトップチームのトレーニング視察を実施。その他、指導者の国際経験のために GIFC の選手に向けたトレーニングを実施。

## ■実施報告・成果

地域において海外クラブとの対戦・交流の機会が乏しかったため、本事業を通じて関係各所からも好評の声をいただいた。大会に参加していただいたチームだけでなく、大会別日にトレーニングマッチを実施したチーム関係者からも同様の声をいただけた。ピッチ外においても、積極的にコミュニケーションを図る姿が多く見られ、選手としてだけなく人としての成長につながる経験の場を創ることができた。海外クラブ選手たちの多くが「パスポートを捨ててもここに残りたい」と話してくれたのが印象的。早い年代から海外のチームと交流する事で、海外を感じ、日本のみならず海外に活躍の場を求める良いきっかけとなった。サッカーの試合を通じた交流が主な交流活動だったが、真剣に試合をすることで見えてくる仲間や相手に対するリスペクトの精神も養われることにつながった。試合を重ねていけば更に深い交流ができたように感じた。

懇親会では、選手たちの日常よりも積極性が見られ、コミュニケーションを積極的にとっていた。GIFCとの交流を通じて、ほんのちょっとしたタイミングで自分を出すきっかけや、気づきにつながる良い機会となった。さまざまな協力があって成り立った大会のため、今後もこの様な機会を創出するために、行政や長野県サッカー協会、学校関係、また地域と手を取り合い、連携を深めながら今後も大会を継続していきたい。

## ■活動写真





## アルビレックス新潟

## 【基本情報】

■クラブ名	アルビレックス新潟
■活動タイトル	「U14 ASEAN Dream Football Championship 2024」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	バンコク/タイ
■協力先	KAMEDA (THAILAND) CO., LTD.
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳	アルビレックス新潟 U14 に所属する中学 2 年生 20 名とスタッフ 3 名
■活動期間	2024 年 7 月 20 日(土)～2024 年 7 月 28 日(日)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://www.albirex.co.jp/academy/news/66364/">https://www.albirex.co.jp/academy/news/66364/</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

U-14 年代で、海外での生活や対戦を経験し、個人とチームの成長を加速させること。

また日本人としての誇りや矜持を認識すること。

## ■活動概要

タイ国内チーム 11、日本チーム 5、計 16 チームによる国際大会への参加。

ぬかるんだ天然芝ピッチや速くて強いプレー強度、また 30 度を超える気温の中、6 試合を戦った。

ピッチ外でも、試合の合間に、国際的な文化遺産を見学や、各自で食事を取る時間を設けるなど、言語、コミュニケーション、文化、ルールなど、文化の違いの中での自立を実際に体験した。

また現地の米菓工場を見学させていただき交流を深めた。

## ■実施報告・成果

## ●技術面について

タフな環境でいつも通りプレーし、正確に技術を発揮することの難しさを痛感した。ショートパスやワンタッチの技術は発揮できる場面が多かったが、ロングキック、クロス、シュートの質は大きな差を感じた。1vs1 の仕掛けや球際の強度で圧倒され攻守ともに個人のさらなるレベルアップが必要だと感じた。

## ●戦術面について

ビルトアップ： 丁寧にボールをつなぎ、サイドを起点に攻撃する場面をあまり作ることができなかつた。

相手のプレッシャーやグラウンド状況に応じたプレー選択が必要。

ゴール前の守備： 簡単にクロスやシュートを許してしまい、ゴールを守る執着心や冷静に対応する力が必要である。

## ●食事・生活について

8泊9日というこの年代では長期の遠征となり、食事や睡眠、ホテルでの過ごし方など試合でいいパフォーマンスを発揮するための取り組みについて個人の意識を高める必要があると感じた。

国内の遠征でも食事に問題を抱えている選手が多い中、慣れないタイでの食事であったが、前向きに食べようと、意識が変わってきたように感じた。

## ●観光について

オフ日があり、1日観光の時間が設けられ、リフレッシュするとともに文化の違いを体感する貴重な時間となった。

自分たちの力で食事の注文や買い物をすることで自然とコミュニケーション能力が養われていくように感じた。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	アルビレックス新潟
■活動タイトル	CPD イベント Part2 第 50 回モーリスレベロトーナメント グループステージ観察、欧州クラブ/団体への訪問/観察
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	マルセイユ・エクサンプロバンス/フランス
■協力先	オリンピック・マルセイユ、FFF エリートアカデミー
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-19 U-15
●対象者詳細	梅山修
■活動期間	2024 年6月3日(月)～2024 年6月12日(水)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

育成年代における、世界のエリートレベルと、育成環境や取り組みについて学ぶこと。

## ■活動概要

- オリンピック・マルセイユ、Camps 育成センター
  - FFF エリートアカデミー
  - 世界的なクラブとフランスサッカー協会のエリート選手の育成環境をそれぞれ観察し、具体的な取り組みと実際の環境を学ぶとともに、パスウェイの構築法を学ぶ。
  - モーリスレベロ国際大会
- 観察し、世界のエリートユース選手のレベルや最新の戦術、スピード感や強度を学ぶ

## ■実施報告・成果

### ● ユース年代の選手に求める要素

OM、FFF それぞれ、「人間性・学業・プレー」の順が育成では特に重要である、と同じことを強調していたのが印象的である。

### ● エリート選手のパスウェイ

能力にあった環境をクラブとして計画的かつ柔軟に提供することで確かな成長を促進していた。

特に上位カテゴリーでのプレー環境を提供することで、本人の成長と選手としての市場価値を高めていくという、戦略的なパスの築き方を学んだ。

自クラブでも「選手の市場価値を”戦略的に”高める」という意識は、より強く持つ必要があると感じた。

### ● モーリスレベロ国際大会

戦術的には433が多かったが、ビルドアップ時にアンカーの選手のポジショニングが、2CBの真ん中やCBSB間など違いが観られた。また守備では前線から奪いに行くとき、ミドルで構えるときなどのメリハリははっきりしていた。個人では(走る/プレー)スピードや球際の強度など、強い特徴を持った選手が際立っていた。

人間性と学業とプレー、エリートユースに求められる要素は自クラブとも変わらないことを確認した。また、ストレッチと統合によって個人にあった環境を提供していくことも取り組みとしては大きな違いはないと感じた。

クラブ、選手、指導者が「何のために選手を育成するのか」目的をあらためて明確にし、また共有し、クラブの持続的発展のために育成がいかに重要かを再認識するとともに、クラブとして組織的、かつ意図的に「選手の市場価値を高めていく」という視点とアクションはより強く意識していく必要があると感じた。

## ■活動写真





## カターレ富山

## 【基本情報】

■クラブ名	カターレ富山
■活動タイトル	2024 カターレ富山 U-13 ベトナム遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ハノイ市/ベトナム
■協力先	3A THUMBS UP VIETNAM CO., LTD、PVF Academy
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	U-13 選手 20 名、スタッフ 2 名
■活動期間	2024 年 12 月 4 日(水)～2024 年 12 月 10 日(火)
■公表情報(クラブの HP 等)	クラブ公式サイト

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●教育

- (1) 成長著しい東南アジアサッカーでの戦いを経験し、世界への扉を開ける。
- (2) 海外遠征でしか味わえない日本と異なる環境(気候風土や文化、慣習、食事など)への耐性を身につける。
- (3) ベトナムの歴史や社会、文化に触れ、豊かな感性を養う。

## ●富山県の認知拡大

県民クラブとして富山県の重要関係国ベトナムでのサッカー大会に参加し、メディアや SNS を通じて活動内容を情報発信。

## ■活動概要

- (1) ABeam Asia Challenge Cup in Vietnam への参加 [3 位/5 チーム中 2 勝 2 敗]
- (2) ベトナム民族衣装のアオザイを着用してハノイの市街地散策
- (3) 国際交流パーティーへの参加
- (4) 現地に進出する県内企業(北陸銀行、YKK)への訪問
- (5) 現地邦人(小1～6年生)へのサッカー教室

## ■実施報告・成果

### ●ON THE PITCH

今回招待を受けた大会の運営は PVF アカデミーの素晴らしい環境(ピッチ、ホテル、食堂)で行われた。大会序盤は、ベトナム選手の早い寄せ、強い球際を真っ向から受け、ボールを保持した時には選択肢がない状態でプレーし、ボールをロストする場面が多かった。しかし大会が進むにつれて早さと強さにも慣れて、対応できる場面が増えた。短期間でも大きく成長する選手たちの様子とともに国際試合では普段対戦する相手と違うスタイル、特徴に対応するスピードが求められることを体感することができた。

### ●OFF THE PITCH

大会期間中のパーティーでの参加選手同志の交流では、言葉が分からずとも身振り手振りで心を通わせ、富山そして日本を代表するチームに相応しい立ち振る舞いで大会関係者や参加チームの皆様と友好を深めた。

遠征期間中に、本遠征のユニフォームスポンサーである北陸銀行と YKK に大会報告を兼ねて訪問しました。北陸銀行は現地駐在員事務所の山田所長から講話をいただき、富山県内企業がベトナムに進出する目的や海外勤務で必要な心得を学び、国際感覚の必要性を学んだ。YKK ベトナム社のハナム工場はオートーション化された最新の設備が整っており、サステナビリティへの取り組みも含め、その規模や技術力に驚き、貴重な学びの場となった。

また現地法人の子どもたち(小1~6年生)を対象にしたサッカー教室を実施し、アカデミー選手もコーチ役で参加。教える側からの視点でサッカーを学ぶと共に、丁寧に指導するためのコミュニケーションスキルの大切さを学ぶことができた。

## ■活動写真





## ツエーゲン金沢

## 【基本情報】

■クラブ名	ツエーゲン金沢
■活動タイトル	ツエーゲン金沢 U-12 韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	梁山／韓国
■協力先	Hong SungHo(コーディネーター)、梁山サッカー協会
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-12 U-11 以下
●対象者詳細	
■活動期間	2024年7月29日(月)～2024年8月5日(月)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://youtu.be/78nG34Y7o-k?si=G7GgL8o7VcL1HeI0">https://youtu.be/78nG34Y7o-k?si=G7GgL8o7VcL1HeI0</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 『世界』を知る！感じる！勝負する！闘う！何が通用して何が通用しないか体験・体感での学び！
- 環境、気候、異文化の中で対応し適応能力を身につける！
- 異国の人とコミュニケーションを図り、人ととのつながりを楽しむ！

## ■活動概要

- 韓国チームとの国際親善試合(U-12:11試合 U-11:11試合)
- 国際市場・梁山南部市場 観光

## ■実施報告・成果

本遠征では、空港までの移動、チェックイン、出国手続き、など、できる限り指導者が先導するのではなく、選手がチケットや標識を見ながらスタッフを先導し、韓国まで辿り着きました。金海国際空港では換金も選自身で行い、初めての海外ですが、身振り手振りのジェスチャーや簡単な英語でもコミュニケーションがとれることを体感できました。また、ホテルスタッフや、毎回の食事をした食堂スタッフ、コンビニ店員、対戦相手の選手・スタッフとも、多くの選手が韓国語で挨拶をし、積極的に異国の「人」とコミュニケーションを図りました。まずは言葉の通じない『人』とも言葉だけでなく、『ジェスチャー』や『表情』、『心』でもコミュニケーションがとれることを体験できたことは選手の将来の世界を広げるきっかけになると思います。

ピッチ内では、私達も経験がありますが、国外に出ると心が開放される感覚があります。石川県内ではいつも『Jクラブのツエーゲン金沢の選手』としてみられ、プレッシャーにさらされますが、多くの選手が、そんなプレッシャーから開放され、自分自身に挑み、『ミスを恐れずチャレンジする姿勢』を表現してくれたと思います。

『積極的に奪いにいく』、『自分がプレーするために受ける』、『ボールを持ったら自分がゴールを目指すためにプレーする』、『奪われた瞬間、自分が奪い返しにいく』。

それも頭を休めることなく、1試合を通じて、プレーし続けることができていたように思います。また、経験は人を成長させると思いますが、この遠征後、選手たちはプレーだけでなく、トレーニングに対しての取り組みや、スタッフとの会話等、「人」としての成長を感じました。

## ■活動写真



**【基本情報】**

<b>■クラブ名</b>	ツエーゲン金沢
<b>■活動タイトル</b>	「ツエーゲンカップ U-13」開催
<b>■活動種別</b>	国際大会主催
<b>■実施場所(都市／国)</b>	金沢
<b>■協力先</b>	東門城倶楽部(台湾)
<b>■対象者</b>	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	
<b>■活動期間</b>	2024年7月30日(火)～2024年8月1日(木)

**【活動報告詳細】****■活動目的**

U-13年代でさまざまな地域からチームを招待し、さまざまなタイプのチームと試合をすることで、選手強化と指導者間での意見交換などでそれぞれの成長を促す。国際大会にすることで、言葉の通じない選手とのコミュニケーションや異文化交流にて、人間としての成長を促す。

**■活動概要**

- 大会前の1週間、台湾チームの選手3名と指導者を受け入れ、練習、練習試合に参加
- 大会方式で、県内4チーム、県外10チーム、台湾から1チームを招待し、15チームを3つのリーグに分けて2日間で予選リーグを実施。3日目に順位決定トーナメントを実施し、最終順位を決定。新スタジアムでの親善試合
- BBQによる選手、指導者間の交流

**■実施報告・成果**

大会の日程的に真夏の時期のため、選手の安全を第一に考えて、試合時間、クーリングブレーク、氷の準備など慎重に運営をした。その結果大きな怪我や病気もなく大会を終えることができた。大きなトラブルなく運営できたことは良かった。全国各地からさまざまなタイプのチームが集まり、チームとしても個人としても、スタッフ同士の交流を通して、選手、スタッフともに非常におおきな経験となった。また、石川県のチームも4チーム加えて、地域貢献と、U-18につながる強化をできたことは良かった。

13回目を迎える中で、今回始めての海外チームを呼んでの大会となった。大会前には、東門城の選手3名をチームで受け入れて1週間トレーニングやトレーニングマッチを行った。スタッフも一緒に帯同し、アカデミーのマネジメントや指導についてディスカッションするなど、選手やスタッフにとって良い刺激となった。

大会では、東門城の選手たちは、技術的には低いが、身体能力の高い選手も多く、アグレッシブに戦うシーンが多く見られ、東門城のスタッフも大会に参加できることを非常に喜んでくれていた。今後はスカウト面やパートナーシップも含めて関係性を作っていく。また、大会終了後にもBBQやスタジアムでの親善試合など選手間の交流もできたことは選手たちにとって非常に良い経験となった。選手にとって海外に出ていくことや、海外の選手を受け入れること、海外の選手と接することに抵抗や弊害をなくしてもらえればと思う。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ツエーゲン金沢
■活動タイトル	「第 2 回ツエーゲン金沢 J League U-11」開催
■活動種別	国際大会主催
■実施場所(都市／国)	金沢／日本
■協力先	東門城倶楽部(台湾)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-11 以下
●対象者詳細	
■活動期間	2024 年 8 月 16 日(金)～2024 年 8 月 18 日(日)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://ameblo.jp/zweigenschool/entry-12864139430.html">https://ameblo.jp/zweigenschool/entry-12864139430.html</a> <a href="https://ameblo.jp/zweigenschool/entry-12864140344.html">https://ameblo.jp/zweigenschool/entry-12864140344.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- Jリーグクラブと海外クラブが参加し、サッカーを通じて異文化交流を深める
- 大会を通じ、各選手の能力およびチーム力強化を図る

## ■活動概要

- 初日は希望チームによる交流戦
- 2、3 日目は全チームによるリーグ戦
- 参加チームによるスタッフ懇親会
- 東門城倶楽部(台湾)との意見交換会

## ■実施報告・成果

- ・ さまざまな地域のＪクラブと交流ができたこと。また、東門城倶楽部（台湾）との国際交流ができたこと
- ・ 全チームのレベルが拮抗しており、質の高い試合ができたこと
- ・ 懇親会を実施し、国内外さまざまなチームの状況を共有できたこと
- ・ 装飾、優勝チームへのトロフィー、優秀選手賞で大会の雰囲気を作り、全チームのモチベーションを保てたこと
- ・ 全チームにドリンクを提供し、熱中症対策ができたこと

スクール選抜である、ツエーゲン金沢 U-12 スーパーの選手たちにとっては北信越という地域柄、日常でこれだけ強度の高い試合はなかなかできない。またそれぞれのチームに戻り、今大会で学んだことを発揮し石川県のレベルアップにつなげて欲しい。

ジュニアチームのツエーゲン金沢 U-12 ジュニアにとっても、遠征で他地域に行くだけでなく、大会ホストとして運営にも携われたことは人間形成にもつながった。

また、海外チーム、ジュニアチーム、スクール選抜チームといったさまざまな形のチームが集まることで、他の大会との差別ができた。遠くからくるチームにあっても普段とは違う刺激を提供することができたと感じる。

## ■活動写真





清水エスパルス

## 【基本情報】

■クラブ名	清水エスパルス
■活動タイトル	2024 清水エスパルス U-14 海外遠征 「Glico チャレンジツアー」
■活動種別	海外遠征(チーム単位) 国際大会主催
■実施場所(都市／国)	バルセロナ／スペイン
■協力先	特別協賛: Glico グループ ／ 協力: BalonQ Sports and Formation
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	清水エスパルスジュニアユース U-14 全選手 18 名 清水エスパルスジュニアユース三島 U-14 梅野湖大 清水エスパルス スタッフ 7 名(育成部、教育事業部、営業部)
■活動期間	2024 年 8 月 25 日(日)～2024 年 9 月 3 日(火)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://www.s-pulse.co.jp/news/detail/53617">https://www.s-pulse.co.jp/news/detail/53617</a> <a href="https://www.youtube.com/watch?v=O_U8W1jhf1o&amp;t=13s">https://www.youtube.com/watch?v=O_U8W1jhf1o&amp;t=13s</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

本ツアーは Glico グループと清水エスパルスが、『将来日本を代表し、世界で活躍する選手の輩出』を目指し、2014 年から実施しております。期間中、現地にてエスパルス主催の『Glico CUP 2024』を開催し、強豪クラブとタイトルを賭けた真剣勝負での試合経験を重ねることで選手の強化育成を図ります。また異文化交流や現地での多様な経験を通じてグローバルな人材育成を目指しています。

## ■活動概要

- 遠征参加者 清水エスパルス U-14 選手、スタッフ合計 26 名
- 遠征期間 2024 年 8 月 25 日(日)～9 月 3 日(火)【Glico CUP 8 月 30 日～9 月 1 日】
- 遠征先 スペイン バルセロナ
- Glico CUP 開催 スペイン強豪チームを中心に4カ国からの 10 チームが参加する大会を開催
- 試合映像配信 現地メディアと連携し、YouTube での映像配信の実施
- 遠征コーディネーター balonQ Sports & Formation
- 宿泊先 Residencia Agora BCN
- 遠征壮行会 8 月 12 日Jリーグホームゲームで Glico Challenge Tour 壮行会を実施

## ■実施報告・成果

Glico CUP は今年で 8 回目を迎えました。本大会には、FC バルセロナ、レアル・マドリード、RCD エスパニョールといったスペインを代表する強豪クラブや、提携クラブである RCD マジョルカ、カタルーニャ州の予選を勝ち抜いたクラブが参加しました。今年はさらに、ベルギーのゲンクやサウジアラビア代表の 2 クラブも加わり、合計 10 チームが出場。国際色豊かな大会となりました。

皆様のご支援のおかげで、本遠征は非常に充実したものとなり、選手たちにとって「将来日本を代表し、世界で活躍する選手を目指す」という目的に向けた貴重な挑戦の場となりました。競技面や環境面など、さまざまな課題に挑む中で、選手たちは順応する力を養うことができたと考えています。特にこの年代の選手たちは、新型コロナウイルスの影響で海外経験がほとんどない中、多くの選手が初めての海外遠征でした。最初は戸惑いがあったものの、日を追うごとにたくましさを増していく様子が印象的でした。

一方で、大会結果は厳しいものでした。予選リーグは1分3敗で最下位の5位に終わり、トーナメント1回戦のサウジアラビア代表戦ではPK戦の末に今大会初勝利を挙げました。しかし、準々決勝で再び対戦したアル・マドリードには0-3で敗れ、世界のトップクラブとの実力差を痛感させられました。特に感じた違いとして、①プロポーションを含めたアスリート能力②サッカー理解度③コミュニケーションスキル④環境・文化(観衆)の4点です。Glico CUPでのスペインを代表するクラブとのタイトルを賭けたコンペティションや異文化交流・体験は、選手やスタッフに多くの気づきを与えるました。同年代の海外選手と対戦したことでの、選手たちは帰国後、コミュニケーションの重要性を強く感じ、トレーニングや試合への取り組み方に対する意識が向上しているように思われます。今後は、この意識を日常の習慣として根付かせていくように支援していきたいと考えています。また、清水エスパルスアカデミーとして「エスパルスアカデミーらしさ」を確立し、発展させていくことを目指します。

## ■活動写真





## ジュビロ磐田

## 【基本情報】

■クラブ名	ジュビロ磐田
■活動タイトル	ジュビロ磐田 U-13 タイ遠征 「Chang U-13 INTERNATIONAL INVITATION 2024」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	バンコク/タイ
■協力先	Assumption United
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	
■活動期間	2024年7月30日(火)～2024年8月5日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

国際大会を通し、U-13 選手個人の成長およびチーム強化の場とする  
 ジュビロ磐田アカデミーの価値を上げる  
 スタッフのスキルアップ

## ■活動概要

## ●大会名

Chang U-13 INTERNATIONAL INVITATION 2024

## ●大会形式

予選リーグ 5 試合、順位決定戦 1 試合

## ●参加チーム

Assumption United(タイ)、Muangthong United(タイ)、Jingda FC(中国)、Dongtan United(韓国)、京都サンガ F.C.(日本)、ジュビロ磐田(日本)

## ■実施報告・成果

2023年U-12磐田国際大会へ招待したAssumption UnitedのメインスポンサーであるChang主催の国際大会に参加をした。前年のU-12磐田国際大会で優勝したAssumption Unitedとの決勝戦は完全アウェイを経験できた。個々の能力の高さや組織的なフットボールでゲームを支配される展開が続いたが、PK戦を制することができた。オフザピッチでは食事面、環境面で大きな違いを感じた選手たちであったが、大会期間で徐々に対応することができた。

帰国後、東海リーグU-13を見ていて、選手の試合に対する心理社会面が大きく変わりました。粘り強さ、試合の流れを読む力が大会を通して大きく成長したと感じます。

### ●予選リーグ

- ①Dongtan United [2-0]
- ②Jingda FC [4-0]
- ③Muangthong United [1-1]
- ④京都サンガF.C. [3-1]
- ⑤Assumption United [1-0 ]

### ●決勝戦

- Assumption United [1-1, PK4-3]

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ジュビロ磐田
■活動タイトル	ジュビロ磐田 U-14 韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	釜山・蔚山/韓国
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年12月22日(日)～2024年12月25日(水)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 国際大会を通じ、U-14 選手個人の成長およびチーム強化の場とする
- ジュビロ磐田アカデミーの価値を上げる
- スタッフのスキルアップ

## ■活動概要

- 試合形式

トレーニングマッチ×4 試合

- 対戦チーム

蔚山現代 U-15、ハクソン中学 U-14、プギヨン高校 U-15、釜山アイパーク U-14

## ■実施報告・成果

新シーズンを迎える直前の12月に韓国遠征を行った。大会参加を模索したが、韓国はまだ学校がありトレーニングマッチ形式で4試合することになった。コーディネイトをお願いしたJAPAN KOREA NETWORKの内藤さんは韓国に精通している方で、対戦相手のレベルは非常に高かった。

特に印象に残ったのは蔚山現代U-15との試合であった。我々より一学年上かつ2024年韓国全国大会で3冠したチームが本気で臨んでくれた。身体の大きさやスピードで大きな違いがあったが、試合時間が進むにつれ対応もできるようになった。試合は負けたものの、韓国遠征の初戦で蔚山現代U-15と試合できたことで残りの3試合も対等以上に戦うことができた。時差がないとはいえ、3泊4日のスケジュールは移動も含めタイトであった。しかし選手たちは食事面含めしっかり自己管理できていた。

新シーズンへ向けての強化としては最高の環境であったので来年以降も継続的に行いたい。

### ● トレーニングマッチ結果

- 蔚山現代 U-15 [0-2]
- ハクソン中学校 U-14 [2-2]
- プギョン高校 U-15 [4-0]
- 釜山アイパーク U-14 [1-2]

## ■活動写真





藤枝MYFC

## 【基本情報】

■クラブ名	藤枝MYFC
■活動タイトル	藤枝MYFCU-18 韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ソウル市、ヤンジュ市／韓国
■協力先	ソウルサッカー協会、京畿道サッカー協会、ヤンジュ市、藤枝市、城南メンテナンス、株式会社ヤマシタ、株式会社朋電舎、株式会社コヤマ・ミライエ、株式会社桜エステート、名鉄観光サービス株式会社
■対象者	藤枝MYFC U-18
●対象チーム・主な年代	U-17 U-16
●対象者詳細	選手 22 名(フィールドプレーヤー20 名、GK 2 名) コーチ 5 名(U-18 監督、コーチ、GK コーチ、アドバイザー、ダイレクター)
■活動期間	2024 年12月21日(土)～2024 年12月24日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 選手、チームの強化
- 海外の選手と試合をして、海外で活躍するための基準を知る
- 外国の環境、人、文化に触れ、人間的成长と意識や価値観の再構築を促す
- クラブに所属する誇り、愛着、責任を持つ

## ■活動概要

- 12月 22 日(日)練習試合@ソウル ヒョンチャンスタジアム  
【午前】 vs. 光云人工知能高校 45 分×2 【午後】 vs. ソウル中央高校 45 分×2  
【夕方】 ソウル市内散策
- 12月 23 日(月)練習試合@ヤンジュ ゴドック球場  
【午前】 (ヤンジュ市長来訪) vs. ヤンジュ・ソル 45 分×2 【午後】 vs. グァンドン FC 45 分×2
- 12月 24 日(火)  
【午前】 ソウル市内散策 【午後】 仁川国際空港出発 【夕方】 富士山国際空港到着

## ■実施報告・成果

今回の遠征はクラブへ多くのメリットをもたらしました。

## ●企画・準備

- フロント(協賛、広告)や事務方(費用)と、クラブ一体となり取組み、行政も交えた活動の成功は、クラブとして経験と自信を得ることができました。

- 参加者の経済的な負担を抑え、内容は充実していたので、保護者からの信頼を得ました。

### ●実行

- 外国の環境、人、文化に触れ、人間的成长、意識や価値観の再構築を促す
- クラブへの誇り、愛着、責任を持つ →機内で紫の移動着を見た他の乗客から、声掛けしていただいた。(認知度向上)
- 食事、宿舎の質が良く、コンディション維持ができ、期間中体重を落とす選手が少なかった。

### ●考察

競技面の充実を考え、時期・対戦相手・行先を再検討する。

### ●展開

- 助成金を活用し、U15にも海外を経験させ、さらなる強化と向上心、対応力を養う
- 市場拡大で新たなビジネスチャンスの創出(人の往来、行政・他クラブとの協力関係等)

### ●まとめ

育成年代のうちに海外を経験させることは、失敗や苦労さえも精神的な成長に多大な影響を与えます。私自身も「トップチームへの昇格」が選手育成のゴールではなく、その先の「海外で戦える選手」という基準が明確になり、そこに向けての組織・環境づくりに取組んでまいります。

また、クラブとしてもJ2でも天皇杯の結果次第ではACL2に醜状可能なことや、サッカーを通じた行政間および企業間交流にも貢献できることから、アジアとの接点を創り増やすことが、選手・クラブ両方の成長につながると考えます。最後に、Jリーグの支援のおかげで、クラブとして初の海外活動の機会を得ることができました。厚く御礼申し上げます。(アカデミーダイレクター 姫野 洋明)

### ●選手感想 松永真嘉(2年)

韓国遠征をして、まず文化の違いに驚きました。例えば食事です。毎食キムチは出ており、お箸が銀というのにはびっくりしました。サッカーでは、体格、フィジカルの部分でまだ自分は負けていると感じました。この弱点を克服するためにこれから練習や自主練でさらに筋トレに力を入れたいと思います。また、この遠征で空中戦も自分の弱みだと気づいたので、空中戦の強い選手に聞いてみたり練習したりしていきたいと思います。試合後の交流はものすごく貴重なものであり、言葉があまりわからなかったがサッカーを通して少し韓国の選手と仲良くなれました。

### ■活動写真





## アスルクラロ沼津

## 【基本情報】

■クラブ名	アスル克拉ロ沼津
■活動タイトル	「TEIJIN U-17 New Generation Cup 2024 in Thailand」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	タイ バンコク
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-16
●対象者詳細	アスル克拉ロ U-18 所属の高校 1 年生
■活動期間	2024 年 8 月 5 日(月)～2024 年 8 月 10 日(土)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

海外での試合を通じて、選手、指導者が世界基準を体感することで、日常のトレーニングと試合の、インтенシティを含むクオリティを高め、自己の成長を促進する。

## ■活動概要

- 期間:2024 年 8 月 5 日～8 月 10 日:5 泊 6 日
- 場所:タイ バンコク Thonburi stadium
- 参加者:16 名(高校 1 年 13 名、スタッフ 3 名)

U17 New Generation CUP 2024 の参加(第 1 回大会:前年度が Pre 大会)

8 チーム 2 グループで各グループ総当たり 3 試合後、同順位で順位決定戦を行った

## ■実施報告・成果

大半の選手が海外遠征を初めて迎える中で体調不良者やコンディショニング不良の選手が出なかったことは良かった。ホテルや食事に関しては問題なく過ごすことができた。選手の中には食事が合わない選手もいたがそれもごく少数であった。

大会に参加する中で初日の対戦相手が変更になっていたことやキックオフ時間が変更になっていたことを知らされることがなく大会が進んでいたため、日本との違いを顕著に感じた。

また同じ会場で 1 日 4 試合を 4 日間行っている中で雨が降ることでグラウンドコンディションはあまり良くなかったがそのような中でもタフに試合を行えた。試合環境、選手の人数、気候などのさまざまな条件の中でこの大会を戦えたことで選手は良い経験をすることができ個人としてもチームとしてもより一層の成長につながり、チームとしても強化を図ることができた。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	アスルクラロ沼津
■活動タイトル	アスルクラロ沼津 U-15 国際交流&強化遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	韓国 ソウル
■協力先	Kリーグ、ソウルイーランドFC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15 U-14 U-13
●対象者詳細	アスルクラロ MISTU13～U15 選手
■活動期間	2024年12月20日(金)～2024年12月24日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

中学生年代で海外の選手との対戦や交流の経験を通じて、サッカーだけに限らずグローバルな人材への成長を促すこと。

## ■活動概要

## ●遠征先

韓国 ソウル 南楊州

## ●日程

12月20日：移動

12月21日～23日：試合&観光

12月24日：移動

## ■実施報告・成果

今回の遠征中、試合の中で「自分がどうしたいか」の主体性がはっきりと見えづらかったことが一番感じた部分でした。まずは自分自身が自信を持って決断したプレーをすることが一番大事だと思っています。上手くいったプレー、上手くいかなかつたプレーはその後分かることです。試合では日に日に選手一人ひとりの主体性を持ったプレーが随所に見えました。ですが、もっともつと自己主張し合って欲しいと思います。ピッチ上でのプレーで「自分がどうしたいか」は人それぞれある。チーム内であろうが意見が割れることもある。ですが、チームが向かっている方向は「試合に勝ちたい！」ことにましてはいないです。衝突を恐れて自分を抑える選手ではなく、自己主張できる選手。そこから次は仲間の「したいこと」を汲み取ってあげる「聞く力」も必要だということ。ソウルイーランド FC の選手と一緒に食事をした際には選手同士、翻訳機能やカタコトの英語や日本語を混ぜながらも積極的にコミュニケーションをとっていた姿がありました。とても微笑ましいのと同時に子どもたちのコミュニケーションスキルの高さに感心させられた場面でもありました。人はポジティブな感情で起こす行動は記憶に残りやすいという実証結果もあります。ピッチ内でのプレーにはどうしてもネガティブな自分が出てきてしまい、100%の自信を持てなくなってしまいがちです。「自分がどうしたいか」のプレーには自信が大事です。今回の韓国遠征では上手くいかないプレーのままで終わった選手は一人もいません。どの選手も日に日にプレーの成長が見て分かるほどの必ず上手くいったプレーやチャレンジがありました。自信と過信は紙一重ではありますが、今回の遠征を機にネガティブな自分に負けず何事にもポジティブに取り組める選手へと成長してくれることに期待しております。

選手にとってピッチ内外で起こったことは、おそらく日本でも同じようなことも多々あったかもしれません、日本を出て韓国に来て肌で感じたことは日本に居る時よりも鮮明にくっきりと心に刻まれた経験になったはずです。選手がもう少し大きくなった時、今回の海外遠征の貴重さやありがたみをものすごく理解してくれると思います。

## ■活動写真





## 名古屋グランパス

## 【基本情報】

■クラブ名	名古屋グランパス
■活動タイトル	名古屋グランパス U-16 スペイン遠征 「Ramiro Carregal Soccer Cup」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	マドリード・ガリシア
■協力先	株式会社ノバジカ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-16 U-15
●対象者詳細	名古屋グランパスアカデミーU-16、U-15 選手 18 名
■活動期間	2024年3月24日(日)～2024年4月2日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://hagoya-grampus.jp/news/youth/2024/0418post-2297.php">https://hagoya-grampus.jp/news/youth/2024/0418post-2297.php</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 「世界で通用し、日本を代表する選手の育成」で海外での試合経験で世界を知り現状を把握する
- 「トップチームで活躍する選手の育成」を目指し、海外のサッカー観を体感することで選手の大きな成長につなげる。
- 異国文化に触れることで、知見や知恵の幅を広げ、人間形成および教育の一環とする。

## ■活動概要

名古屋グランパスアカデミーでは、2024年3月24日～4月2日にかけて、U-16・U-15選手18名とスタッフ4名でスペイン遠征を実施。マドリードとガリシア(カンバーダス)を訪問し、「Ramiro Carregal Soccer Cup」に参加した。

本大会はスペイン・ポルトガルのクラブを中心とした24チームが出場し、5クラブと対戦。また、ローカルクラブとのトレーニングマッチを2試合実施した。さらに、国際親善試合「スペイン vs. ブラジル」の観察を行い、世界トップレベルの試合を体感した。選手たちは実戦経験を積み、異文化に触れる貴重な機会となった。

## ■実施報告・成果

遠征は、スペインのマドリードとガリシア地方のカンバーダスを訪問し、現地のチームとのトレーニングマッチや「Ramiro Carregal Soccer Cup」への参加を中心に行われた。

## ●トレーニングマッチ

vs. AD Torrejon ○6-4 vs. Club Polid.Parla Escuela-Fair Play ○5-0

これらの試合を通じて、選手たちはスペインの同世代チームとの対戦を経験し、球際の強さや技術の高さを感じた。特に、背後やライン間を巧みに使う相手のプレーに対し、当初は戸惑いも見られたが、徐々に適応し、自分たちのペースを取り戻す場面もあった。

## ●「Ramiro Carregal Soccer Cup」

### 1次リーグ

- vs. Lealtad de Villaviciosa ○3-1
- vs. Betis CF Pegaso 戦○2-0
- vs. Celta de Vigo 戦:勝利○1-0

### 2次リーグ

- vs. URAL ESPANOL CF △2-2
- vs. Getafe CF 結果△1-1

1次リーグを3戦全勝したものの、2次リーグでは2引き分けで決勝進出はならなかつた。対戦を通じて、プレッシャーの強さや攻守の切り替えの速さなど、さらなる課題を得る結果となつた。

## ●国際親善試合の観戦

3月26日の夜には、マドリードで開催されたスペイン対ブラジルの国際親善試合をスタジアムで観戦。選手たちは代表選手の個々の技術やチーム戦術の高さを実感し、大きな刺激を受けた。

## ●遠征後の振り返り

技術的なところ、フィジカル面、球際での判断など、想像していた以上に通用したところは多くあつた。一方で、勝っている状況での賢さ、力が拮抗した状況で失点をしないことワンチャンスをものにすることなど、スペインや他の国のチームから学ぶべきこともあつた。

個人で通用したこと、通用しなかつたことがはつきりし、自らの現状の認識が明確にできたことは非常によい経験となつた。

## ●アカデミーサブダイレクターのコメント

トップに直結するU-18年代の海外経験は非常に重要だと感じた。トップに上がるまでの最終年代のタイミングとして、自身の心構え、"今"を見つめ直すいい機会になる。この経験を経て、本気になる、覚悟を決めるということを実践してもらいたい。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	名古屋グランパス
■活動タイトル	AS ローマ U-18 への短期留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	ローマ／イタリア
■協力先	AS ローマ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-17 U-16 ※U18 監督、育成普及部副部長
●対象者詳細	U-17 大西利都、U-16 恒吉良真 U18 監督:三木隆司 8/17~24、育成普及部副部長:吉池淳 8/28~9/3
■活動期間	2024 年 8 月 17 日(土)~2024 年 9 月 3 日(火)
■公表情報(クラブの HP 等)	<a href="https://nagoya-grampus.jp/news/youth/2024/0910asu-18.php">https://nagoya-grampus.jp/news/youth/2024/0910asu-18.php</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- イタリアのサッカー、文化を肌で感じる(選手寮での生活や外国選手との関わり)
- 言葉が通じづらい環境でのコミュニケーション能力の向上
- グローバルな考え方の獲得

## ■活動概要

名古屋グランパス U-18 所属の大西利都選手と恒吉良真選手は、2024 年 8 月 17 日から 9 月 2 日までの約 2 週間、イタリアの名門クラブ AS ローマ U-18 チームへの短期留学を行った。この留学は、2022 年 11 月に締結された AS ローマとの戦略的パートナーシップの一環として実施され、選手たちの主体性向上を目的とした“武者修行”として位置づけられた。現地では、通訳のサポートを最小限に抑え、AS ローマ U-18 の選手たちと同じ環境で練習やトレーニングマッチ、寮生活を共にした。

## ■実施報告・成果

現地到着後、両選手は AS ローマのクラブハウス「トリゴリア」の充実した施設に驚いたものの、練習が始まるとすぐにプレーに集中した。イタリアの同年代の選手たちと切磋琢磨する中で、自身の長所に自信を深めると同時に、新たな課題も見つけることができた。特に、言葉の壁がある中で、ジェスチャーや表情、さらにはスマートフォンを活用してコミュニケーションを取り、チームメイトとの親交を深めた。

日々の生活では、選手寮に宿泊し、朝食後はバスで「トリゴリア」練習場へ移動。午前中に約 2 時間の練習を行い、専属シェフが作るパスタなどの食事を摂った後、寮に戻るというサイクルだった。

週末には、セリエ A 公式戦の AS ローマ対エンポリ戦をスタディオ・オリンピコで観戦し、6 万 7 千人の熱狂的なファン・サポーターが生み出す雰囲気や、高いインテンシティの試合を肌で感じ、大きな刺激を受けた。また、AS ローマ女子チームの試合も観戦し、試合後には熊谷紗希選手、南萌華選手と対話する機会を得て、プロフェッショナルとしての姿勢や考え方につれることができた。

トレーニングマッチでは、大西選手はFWとしてスピードを生かした裏への抜け出し、恒吉選手はMFとして狭いスペースでの技術を発揮し、一定の評価を得た。一方で、シュートの正確性、ボールへの執着心、守備の強度など、各自の課題も明確になり、有意義な2週間を過ごすことができた。帰国後、両選手はグランパスU-18に合流し、ローマでの経験をチーム内で共有している。この経験を個人の成長につなげるだけでなく、チームメイトにも好影響を与えることが期待されている。

### ●大西選手

「今回の武者修行を通して、チームを勝たせる強い意志を持つ選手の重要性を実感しました。練習中でも遠慮なく意見をぶつけ合う姿勢がローマの選手と比べて足りないと痛感しました。一方で、ピッチ外では笑顔での挨拶が人としての印象を大きく左右することを改めて感じました。この経験を糧にし、多くの人が注目される存在になりたいと思います。」

### ●恒吉選手

「ローマの選手はゴールへの意識やシュート技術、ワンタッチで崩すプレーが上手く、短時間で吸収しようと意識して取り組みました。練習試合で多くゴールを決め、成長を実感できました。また、自分の強みであるゴール前のアイデアやドリブルも通用し、自信になりました。この経験を忘れず、日本でもチームに還元し、「成長した」と思われるよう頑張ります！」

両選手は国際的な視野を広げ、自身の課題と向き合う貴重な経験を得た。今後の活躍が大いに期待される。

### ■活動写真





FC岐阜

## 【基本情報】

■クラブ名	FC岐阜
■活動タイトル	FC岐阜アカデミー海外遠征 U-15、U-18
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ソウル近郊/韓国
■協力先	名鉄協商株式会社 辻精機株式会社 川崎重工業株式会社 岐阜羽島 バスタクシー株式会社 株式会社ツカサ化工 以上アカデミー海外遠征パートナー
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14 U-17
●対象者詳細	①中学2年生(U-14)チーム ②U-18チーム内で、公式戦出場機会の少ない選手を対象としたメンバー(Bチーム)
■活動期間	①2024年8月4日(日)～8月8日(木) ②2024年7月21日(日)～7月26日(金)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.fc-gifu.com/news_academy/134779.html">https://www.fc-gifu.com/news_academy/134779.html</a> <a href="https://www.fc-gifu.com/news_academy/135532.html">https://www.fc-gifu.com/news_academy/135532.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●育成

育成年代でグローバル基準に触れる機会の創出

## ●体感

国内で経験できないタフなゲーム感覚を直接体感し、子どもたちの技術向上や勝負へのこだわりを追求し、たくましさを養う

## ●環境作り

「指導者」育成の機会とし、企画立案を含めた海外遠征経験を通じてスタッフの能力向上を図る

## ●人づくり

国際経験、異国の文化、人種や歴史の違いを経験し、子どもたちの感覚や行動、目標設定に刺激を与える  
自己表現の苦手なFC岐阜アカデミー選手たちの殻を破る大きなきっかけとしたい

## ●街づくり

(スポンサー獲得により)再現性のある取り組みを構築し、子どもたちを育成して地域社会に貢献する

## ●夢づくり

アカデミーの子どもたちに対して、新しい発見の機会を目指す

## ■活動概要

U-14(中学2年生)とU-18(公式戦出場機会の少ないBチームメンバー)それぞれで実施。

異国チームとの対戦の場を中心に、街や観光地を巡り異国の文化に触れて選手たちの知識や感覚の成長を期待した。また、事前学習でも異国の文化や歴史、言葉などについて学ぶ。

(大会ではない)トレーニングマッチ形式のゲームを組み、試合時間や本数などを柔軟することで、全選手に目的に沿った機会を創出できるようなスケジュールを計画した。

ピッチ外ではグループ行動による自由行動の実施など、選手たちの自立促進につながる活動を実施した。

企画準備面では、営業グループと連携して「アカデミー海外支援パートナー」を募った。この活動へのスポンサー獲得で選手参加費の軽減を目指すにとどまらず、スポンサー様側にとっては、社員の研修の場としてこの機会を活用していただいた。(川崎重工様より2名が視察参加)

## ■実施報告・成果

### ●U-14 関 瑞貴コーチ

韓国で試合相手となったチームは、まさに期待通りのチームでした。心身共に非常に強く、勝ちに対する強い気持ちを持っていました。そんな相手との試合を重ねる中で、次第に選手たちから戦う気持ちが芽生えてくるのを感じました。選手たちはこの韓国遠征で『サッカーにかける思い』『フィジカルの違い』を学んだと思います。改めてベーシックなテクニック(止める、蹴る、サポート)の大切さも感じました。

### ●U-14 選手

- ◆ 韓国の選手は体格の差や球際の強さ身体能力の高さに驚きました。それに負けないように自分も体幹などトレーニングを重ねて強くならないでいけないと強く思いました。
- ◆ 南大門市場では言語が違う中でのコミュニケーションを工夫して伝えることができました。なかなか伝わらない時もあり、伝えるということの大切さを知ることができました。
- ◆ サッカーでは韓国の荒さに触れたり韓国語が通じなくて審判員に聞けなかつたりと韓国の難しさや言語の大切さを学べました。
- ◆ 韓国は身体能力が高くヘディングがつよいと感じた。足も早く一発で裏抜けするのは難しいと思った。韓国の経験を日本に帰っても生かしたい。
- ◆ 文化の部分でまず驚いたことはお風呂がなく、シャワーだけであることがとても驚きました。日本では夏はあまり湯船に浸からないけど疲れを取るために浸かることもあるので、それができないので、もし韓国で暮らすとなった時に苦労する部分だなと考えました。

### ●U-18 西村崇コーチ

ピッチ外に関して、韓国到着後のバス移動で、早速普段の活動ではできているあいさつですら、韓国語でとなると普段通りできている選手は少なかった。スタッフからの働きかけにより、すぐさま韓国語によるコミュニケーションを取ろうとする選手の変化を多く見られた事は素晴らしいメンタリティを感じた。その後は遠征を通して韓国の環境に自分たちから能動的に行動していく姿も見ることができた。慣れない環境への適応にチャレンジした今遠征での経験は、必ず選手たち個々の成長に影響を与えてくれると感じた。

### ●U-18 選手

- ◆ 韓国語が分からないので、相手の選手やコーチの考え方や感情を読み取ることが日本よりも難しく、普段よりも視野を広げて試合全体をみてプレーすること、全体の流れを読むことの重要さを学んだ。
- ◆ 今回の韓国の高校やクラブと試合をする中で現地の高校生の礼儀正しさが素晴らしいなと思いました。試合前には僕たちに丁寧にあいさつをしたり、握手をする際には一人一人に感謝の言葉を述べたり、僕が怪我をした際にはベンチにいた子達が「大丈夫？」と声をかけてくれたりと、とても感動しました。僕もコミュニケーション力を見習いたいなと思いました。

## ■活動写真





## 京都サンガ F.C.

## 【基本情報】

■クラブ名	京都サンガ F.C.
■活動タイトル	京都サンガ F.C.U-13 タイ遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	タイ／バンコク
■協力先	アサンプションユナイテッド、Chang
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	U-13 チーム総勢 23 名(選手 19 名、指導者 4 名)
■活動期間	2024 年 7 月 30 日(火)～8 月 5 日(月)
■公表情報(クラブの HP 等)	X のみ利用、HP への掲載なし

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

1. アジアの強豪チームとの対戦を通じ U-13 世代の選手育成とチーム強化の場とする
2. 「京都から世界へ」の育成目標達成のための選手・スタッフの海外でのコミュニケーション、生活など経験の場とする
3. 京都サンガ F.C.アカデミーの海外経験定例化の契機とする

## ■活動概要

1. 期間 2024 年 7 月 30 日(火)～8 月 5 日(月)
2. 場所 競技場 タイ アサンプションカレッジ トンブリー  
宿泊 Hotels and Tourists Professional Centre
3. 対戦相手 ※6 チーム参加  
アサンプション(タイ)、ムアントン(タイ)、DONGTAN UTD(韓国)、  
JINGDA FC(中国)、ジュビロ磐田(日本)、京都サンガ F.C.(日本)

## ■実施報告・成果

## ●全体

初の海外トーナメントの勝負のかかった試合でさまざまな経験ができた。

アサンプションの選手たちのフィジカル能力の高さ、日本では味わえない足の出方など、違いを感じられた。

特に、球際の強さが必要なことを痛感した。

サッカー理解の向上、どんなピッチにも影響を受けない技術・戦術、苦しい時の頑張りと工夫の必要性を感じた。

また、「準備」の大切さも理解できたと思う。

食事、休養、どんな準備が必要なのか、どんな環境でもできるのか問われた。自分たちが緩くなると上手くいかない。逆に食事、睡眠を通して走れる量が上がったことも実感できた。

### ●選手の感想

- トイレの紙がない。水で流すという文化の違い。
- 食事が辛い、酸っぱい、甘いという日本との味の違い。
- 風呂がなく、シャワーのみで過ごすこと。
- 屋台が多い。など
- 日本が恵まれた環境だと感じた。

### ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	京都サンガ F.C.
■活動タイトル	京都サンガ F.C.U-21AFC ボーンマス短期個別留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	イギリス ボーンマス
■協力先	AFC ボーンマス
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-17、U-19
●対象者詳細	選手: 尹星俊、酒井滉生、安齊悠人、飯田陸斗 指導者: 石田英之、スタッフ: 李将山、北村大輔
■活動期間	2024年12月10日(火)～2024年12月22日(日)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.sanga-fc.jp/news/detail/19448">https://www.sanga-fc.jp/news/detail/19448</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

世界基準をクラブ内に構築するための選手や指導者の国際経験の機会創出  
提携クラブ AFC ボーンマスとの交流事業の継続

## ■活動概要

U-21 チームへのトレーニング参加  
U-18 チームへのトレーニング参加  
トップチーム公式リーグ戦観戦  
公式リーグ戦観戦  
AFC ボーンマススタッフによる歓迎会実施

## ■活動写真





ガンバ大阪

## 【基本情報】

■クラブ名	ガンバ大阪
■活動タイトル	ガンバ大阪 U-14 タイ遠征 「JINTAN U14 ASEAN Dream Football Tournament 2024」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	タイ/バンコク
■協力先	メインスポンサー:森下仁丹株式会社
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年7月20日(土)～2024年7月28日(日)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://x.com/GAMBA_OFFICIAL/status/1817490100550566308">https://x.com/GAMBA_OFFICIAL/status/1817490100550566308</a> <a href="https://www.gamba-osaka.net/academy/news/no/16970/category/17/year/2024/month/07/">https://www.gamba-osaka.net/academy/news/no/16970/category/17/year/2024/month/07/</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- (1) 国際大会を通じた経験
- (2) サッカーを通じた国際交流とグローバル人材の育成
- (3) 文化に触れる(食事・環境・言語)

## ■活動概要

- 7/20(土) 出発  
 7/21(日) トレーニング  
 7/22(月) 予選① vs. Kanthararom 4-1,  
 7/23(火) 予選② vs. ヴェルディ小山 10-1,  
 7/24(水) 予選③ vs. ポートFC 2-0  
 7/25(木) 休息日バンコク市内観光,  
 7/26(金) 準決勝 vs. Assumption United 2-1,  
 7/27(土) 決勝 vs. TOYOTA JUNIOR 3-0 優勝  
 7/28(日) 帰国

## ■実施報告・成果

JINTAN U14 ASEAN Dream Football Tournament 2024

●結果:優勝 〔個人表彰:MVP(藤井)、得点王(助川 6 得点)〕

●成果:

5 戰を全勝で終われたこと。

日本では経験できない環境を体験できた。(食事、気候、試合時間の変更 etc.)

個の重要性を確認できしたこと(1 対 1 の攻守)

悪いピッチコンディションの中でどう適応していくか?技術、判断の重要性を感じられた(予測を含めたプレー)

●課題:

- 攻守一体化(予測を効かせ、意図的にポジションを取ること。次のプレーへの準備、実行ができるようになること)
- 1 対 1 で攻守ともに勝つこと(突破、守備の対応)
- 状況に応じたプレーの選択・技術(ボールが転がらない、水たまり etc.)
- クロス対応(1 失点)
- セットプレーの守備(2 失点)
- ゲームコントロール

## ■活動写真





## セレッソ大阪

## 【基本情報】

■クラブ名	セレッソ大阪
■活動タイトル	セレッソ大阪 U-13 選抜 スペイン遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	スペイン/マドリード、アルネド
■協力先	ノバジカ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	
■活動期間	2024年9月2日(月)～2024年9月10日(火) 第28回 U-13 アルネドーナメント 9月6日(金)～9月8日(日)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.cerezo-sportsclub.com/news/?id=113459">https://www.cerezo-sportsclub.com/news/?id=113459</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●ON THE PITCH

- 世界基準を肌で感じて自分の基準を高める

## ●OFF THE PITCH

- 異国の文化や歴史に触れ、世界を自分に取り入れる。環境の変化にも柔軟に対応する適応力を身に付ける

## ■活動概要

## ●ON THE PITCH

- スペイン現地にてトレーニングや練習試合(vs レアル・マドリード)などを行い、第28回 U-13 アルネドーナメントに出場

## ●OFF THE PITCH

- 遠征前から事前課題(スペインについて調べる)に取り組み、遠征初日のホテルにて発表
- 大会の前日に、開催地アルネドにて大会主催者の方によるアルネドの先住民が住んでいた洞窟などを周るツアーを実施
- 遠征最終日に、レアル・マドリードの本拠地を見学して世界一のクラブの歴史を学ぶ

## ■実施報告・成果

今回のスペイン遠征に臨むにあたり、過去8回参加しているアルネドトーナメントでの最高成績『3位を超える』という目標を選手に掲げて、日本国内で入念なミーティングやトレーニング(戦術攻撃:相手背後へのプレー、3つの優位性を持ったプレー、守備:前線からの守備、1-4-3-3に対しての守り方、セットプレー、PKなど)、練習試合(vsセレッソ大阪西U-15)を行いました。それと並行して、OFFの部分での学びが少しでも自発的に行えるように選手に事前課題(スペインについて調べまとめる)を与えるなどの準備をして、今回の遠征に臨みました。

スペイン現地では、マドリード市内でトレーニングを2回と練習試合(vs レアルマドリード 3-1〇)、アルネド市内でトレーニングを1回行い本大会に臨みました。本大会においては、予選リーグでセルタ(3-0〇)、ビジャレアル CF(0-1●)、アスレティック・ビルバオ(4-1〇)の3チームと対戦。25分1本という変則的なレギュレーションに加えて、前日までの雨で天然芝に足が埋まってしまうようなぬかるんだピッチでの試合でしたが、2勝1敗で予選を1位通過。準々決勝 vs レアル・サラゴサ(3-0)、準決勝 vs アトレチコ・マドリード(0-0 PK5-4)、決勝 vs FC バルセロナ(2-1)という成績で、クラブ史上初めて優勝することができました。総得点の9割が前線からの守備からショートカウンターという形で得点を奪うことができ、尚且つ流れの中の失点が一つだけだったという部分に関しても準備してきた事を選手が恵まず表現できたことが最大の成果だと感じています。

完全アウェイの中、対戦していないチームの選手や会場の観客がセレッソ大阪を応援してくれていました。通訳を通して、観客から「選手・スタッフの立ち振る舞いやチームのプレースタイルが好きになった」との声をたくさんいただけた事も、選手のパーソナリティが会場の心も動かしたのだと感心しました。

大会MVPとベストイレブンの計2名が選出されましたが、優勝チームからは少ない印象でチームの纏まりで掴み取った実感と、まだまだ個人で圧倒するような力が足りないと選手自身が両面感じることができた素晴らしい遠征となりました。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	セレッソ大阪
■活動タイトル	ブラジル個人留学(レッドブル・ブラガンチーノ、サンパウロFC 練習参加)
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	サンパウロ州/ブラジル
■協力先	レッドブル・ブラガンチーノ、サンパウロFC、ヤンマー
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	選手:岡崎葵 スタッフ:小林大輔(西 U-15 監督)、湯山諒平(アカデミートレーナーリーダー)
■活動期間	2024年11月8日(金)～2024年12月4日(水)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://x.com/cerezo_academy/status/1856616875498844277">https://x.com/cerezo_academy/status/1856616875498844277</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

17歳でセレッソ大阪とプロ契約し、その後世界で活躍する選手に育成するため、本留学を企画している。

## ■活動概要

約1か月間、ブラジルのトップレベルにある2チームの下部組織へ練習参加した。

前半約2週間は、レッドブル・ブラガンチーノに帯同。ブラガンチーノでは選手寮に宿泊し、宿舎では通訳もなしで生活した。後半は、サンパウロFCへ約1週間帯同。世代別代表が多く所属するチームでトレーニングした。このサッカーのスタイルが大きく異なる2つのチームへ参加し、変化を持ち帰ることに挑戦した。

## ■実施報告・成果

レッドブル・ブラガンチーノでは、初日からピッチ外で積極的にコミュニケーションをとりにいき、周囲と溶け込んだかのように見えた。しかしピッチ内では身体能力が高い選手を中心にフィジカル要素の高いトレーニングが多く、適応するのに大きく苦労した。本人としては留学ではなく、契約を勝ち取りにいくというつもりで臨んでいたが、特に自分の意図した通りにボールが来ないときやミスをした直後、とてもナーバスになり、頭のコントロールが上手くいかなかつた。

しかしそれに気づけた3日目からは大きくプレーが変化した。一つはミスや意図通りにボールが来ないことを前提としてメンタリティの準備ができ、アクションをし続けられたこと。プレー中のコミュニケーションを自分からジェスチャーを強く取りにいけたことで大きく変化し、ボールを受ける回数が圧倒的に増えた。

技術面ではチームのスタイルに適応するためにスプリントを繰り返すこと、ボールを受けた際は、体の抵抗(腕を使う)をするか、体が触れられる前にプレーをやりきれるかが課題として見やすかつた。

サンパウロFCでは、ブラガンチーノでの反省を踏まえて、本人自らより選手とコミュニケーションを取るために、ブラジル人が呼びやすいニックネームに呼び方を変えてもらうところからスタートした。チームのスタイルがテクニックを大切にしていることや、自チームでのスタイルと少し似ていることがありプレーしやすく、2日目のゲーム形式で2ゴールを決め、チームメイトに認めてもらえた。

受け入れてくれた選手たちの素養も高く、積極的に日本人である我々にコミュニケーションを取りにきてくれたことも大きかった。サンパウロFCではサッカ一面での課題として周囲との関係性を構築するポジショニングが新たに課題としてあがったが1週間でも大きな変化があった。

本人のコメントでは、今回のブラジル個人留学では適応する難しさと、現時点での自分の実力が測れたことを挙げていたが、帯同したスタッフは本人の適応力の高さや、環境が変わったことによる成長に驚かされた。

ブラガンチーノの2週間では、ほぼスタッフが介入せずに生活し、多少のトラブル(体調面や周囲との人間関係)を自分で解決したことは15歳の少年にとってとても大きかったと考えられる。今回の経験は非常に有意義であり大変貴重なものとなった。

## ■活動写真





## 奈良クラブ

## 【基本情報】

■クラブ名	奈良クラブ
■活動タイトル	奈良クラブ U-18 フランス遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	フランス/ブレディニヨール・シュル・メール、パリ 大会名: TOURNOI INTERNATIONAL U17
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18
●対象者詳細	
■活動期間	2024年5月14日(火)～2024年5月23日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	【ユース】フランスFR遠征総括 2024/5/14-23   奈良クラブ

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

私たち奈良クラブアカデミーは世界で通用する選手の育成をアカデミーのビジョンとして活動しています。国内の強豪チームと試合を行うことによって選手たちは成長できていると感じていましたが、トップレベルを目指した成長を図るために海外遠征を実施することでより個人が成長し、チームの強化につながるのではないかと考えました。サッカー選手として海外のビッグクラブのレベルを肌で感じること、また人としても異国の地で環境や文化の違いを知り、多様性に触れることで、さまざまな価値観が育まれることを期待し今回の海外遠征を実施いたしました。

## ■活動概要

## 【大会概要】

大会名: TOURNOI INTERNATIONAL U17  
 開催地: フランス/ブレティニヨール・シュル・メール  
 日程 : 5月18日(土)～5月20日(月)  
 カテゴリー: U-17 オーバーエイジ可  
 参加チーム: パリ・サンジェルマン/トゥールーズ FC etc

## 【スケジュール】

5/14(火)	関西空港出発	5/19(日)	大会 2 日目
5/15(水)	パリ到着→観光	5/20(月)	大会 3 日目
5/16(木)	トレーニング&大会準備	5/21(火)	パリへ移動→フリータイム
5/17(金)	ナントへ移動→トレーニング	5/22(水)	フランス出発
5/18(土)	大会初日	5/23(木)	関西空港到着

## ■実施報告・成果

アカデミー初となる海外遠征を実施し、ピッチやピッチ外で、普段経験できなことを経験できたことは選手たちの成長の糧や自信になったと感じています。

大会はグループリーグを1勝1敗1分で2位。2位トーナメントでは準決勝と決勝を勝ち、全体で5位という成績をおさめました。

パリ・サンジェルマンとの試合ではボールを保持し相手ゴールに迫ることが多く見られました。ただ、個人の高い能力に対応できず0-1の敗戦となりました。選手たちにとっては普段からトレーニングで積み上げていることをビッグクラブに対して通用したことは自信になったと思います。

帰国後のトレーニングや公式戦の試合では個人のプレーの強度が増し、チームとしての基準がとてもあがりました。その成果が夏のクラブユース選手権の地域予選でセレッソ大阪を破り、全国クラブユース選手権に出場という結果として残りました。

奈良県リーグも優勝という結果を残しましたが、関西プリンスリーグ2部昇格戦では敗退しましたが、海外遠征を経験し個やチームとしてもたくましく成長したと実感しています。

また、人として異国の文化、多様性に触れたことは彼らの今後の人生でとても貴重な経験になったことでしょう。もしかしたら、その経験が人生において一番重要なかもしれません。

今回はユース対象に海外遠征を行いましたが、継続してアカデミーとして海外遠征を実施したいと思っております。

## ■活動写真





## ファジアーノ岡山

## 【基本情報】

■クラブ名	ファジアーノ岡山
■活動タイトル	ファジアーノ岡山 U-18 韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	仁川／韓国
■協力先	株式会社 Linkplus
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18     U-17     U-16 当てはまらない場合はこちらに記載してください
●対象者詳細	
■活動期間	2024年8月14日(水)～8月18日(日)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- ・日常で対戦することのない海外のチームとの試合経験によって、チームおよび個人の競技力向上に寄与する
- ・異文化を経験することにより、個人の持つ価値観の幅を広げる

## ■活動概要

仁川を拠点に、期間中同年代3チームとのトレーニングマッチ、K1リーグ観戦、観光等の計画のもと遠征を実施。トレーニングマッチは地元Kリーグクラブ2チーム(水原FC、富川1995FC)と高校1チーム(仁川五高校)との対戦。K1リーグ観戦はFCソウル vs 済州ユナイテッドを観戦。観光は仁川市街地をグループで周り、その後ホテルにて、観光で感じた文化の違いなどをグループでディスカッションし、その後グループ毎にプレゼンテーションを行うワークショップを実施した。

## ■実施報告・成果

プレミアリーグ後期に向けて夏のショートキャンプの位置付けでも行った本遠征。暑熱が危惧される中、仁川は気温も岡山よりも涼しく、クオリティを求めることができた。また、移動時間も短く時差もないことと、リーグ後期日程再開に向けてコンディションの向上と戦術の浸透においても最適な遠征となり順調な強化の期間となった。

また、遠征期間中アテンドしていただいた方々のご配慮で何不自由のない遠征を実行できたことに非常に感謝している。

IDP の部分でもメンタル・社会性の部分で異文化に触れること、いつ、どこで、誰とでも自分(たち)らしく football することの大切さを実体験から感じる機会となった。

トレーニングマッチも同学年(Kリーグクラブ 2 チーム、高校 1 チーム)だったが、日本とスタイルが少し異なる中で拮抗したゲームにおいて、勝利のために一体感を持ってトライを続けることができた。

また、オフザピッチでも他国の習慣や食事にも触れたことや、歴史的建造物を見ることができたこと、市街地を散策する時間も設けることができ、価値観を広げる機会にもなった。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ファジアーノ岡山
■活動タイトル	ファジアーノ岡山 U-13 マレーシア遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	クアラルンプール／マレーシア
■協力先	マレーシアサッカー協会、マレーシア国立サッカー開発プログラム
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	
■活動期間	2024年11月13日(水)～2024年11月19日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 2024 Super Moch Cupに参加し、日常で対戦することのない海外のチームとの試合経験によって、チームおよび個人の競技力向上に寄与する
- 異文化に触れ、個々の持っている常識や価値観の幅を広げる

## ■活動概要

マレーシアにて毎年開催される大会「SUPERMOKH CUP 2024」への参加を中心とした遠征。5日間の大会期間の中、グループリーグ3試合、順位決定トーナメント2試合を実施。グループリーグでは地元マレーシアの2チーム(AMD、BUKIT JALIL)とタイのチーム(ブリーラム・ユナイテッド)と対戦。順位決定トーナメントでは中国のEVERGRANDE、再度マレーシアのBUKIT JALILと対戦し、8チーム中7位で大会を終えた。

また、遠征期間中は現地の観光や、選手教育プログラムの一環として、マレーシアについての知識を深めるグループワークおよびプレゼンテーションを行うワークショップを実施した。

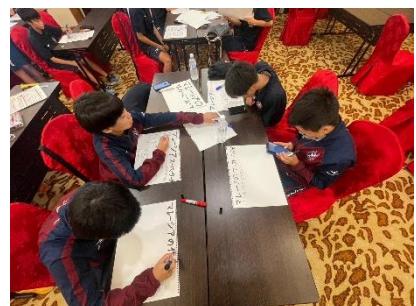
## ■実施報告・成果

フットボールでは、日常ではありません体感することのできない環境や対戦相手との試合を計5試合行う事で、闘う基準を高めることができた。また、大会を通して負けが重なる中、どうにか勝利を掴み取ろうとチームとして体感を持ってトライを続けることができたことは良かった。

また、多くの選手が海外へ行くことが初めてだった事もあり、オフザピッチでも多くのアクティビティを準備したことや、食事をはじめ、現地の文化にも触れることで充実した遠征にすることができたと実感している。

遠征期間中アテンドしていただいたAMDのハズリ氏を始め、多くの方のご配慮で何不自由なく遠征を実施できたことに感謝している。

## ■活動写真





## サンフレッチェ広島

## 【基本情報】

■クラブ名	サンフレッチェ広島
■活動タイトル	サンフレッチェ広島ユース 2024 1.FC ケルン選手・スタッフ個人留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	ケルン／ドイツ
■協力先	1.FC ケルン
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-16 選手 4 名 スタッフ 1 名(ユースコーチ)
●対象者詳細	選手:野口 蓮斗 太田 大翔 菊山 璃皇 森井 莉人 指導者:池田 康平
■活動期間	2024 年 3 月 9 日(土)～2024 年 3 月 18 日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

世界で活躍する選手になるための経験値獲得。海外チームに入っても自分の力を発揮することができるか？その中で何が通用して何が足りないかを明確にする(選手/指導者)。  
より一層世界で活躍することへのイメージや想いを強く抱く。また、トップリーグの観戦(ブンデスリーガ)や日本と異なる文化を経験し、持っている価値観を広げ、人間的成長につなげる。

## ■活動概要

- 3月9日(土) 移動
- 3月10日(日) 試合観戦(U-19 FC ケルン vs. U-19 ドルトムント) コンディショニング
- 3月11日(月) トレーニング ※ケルン周辺の 16～22 歳ぐらいを対象としたサッカースクール
- 3月12日(火) AM:個別トレーニング(ジム) PM:チームトレーニング(U-16)
- 3月13日(水) AM:トレーニング見学(トップ) PM:個別トレーニング(グラウンド)
- 3月14日(木) AM:個別トレーニング(グラウンド) PM:チームトレーニング(U-16)
- 3月15日(金) AM:トレーニング見学(トップ) PM:チームトレーニング (U-17)  
試合観戦(1.FC ケルン vs. ライプツィヒ)
- 3月16日(土) AM:チームトレーニング(U-17) PM:観光  
試合観戦(U-16 FC ケルン vs. U-17 JSG エアフトオイスキルヒエン)
- 3月17日(日)～18日(月) 移動

## ■実施報告・成果

サッカーにおいては、4 選手とも、自分の特徴を発揮することはできたと思う。しかし、全体を通して考えると回数は多くはない。1 回目のチームトレーニングは攻撃がテーマで「数的優位の状況や、立ち位置で位置的優位

を作った状態」でのトレーニングだった。チーム編成も4選手を同じチームにしてくれ、テクニックを生かしたコンビネーションプレーで多くのチャンスを演出し、ゲーム形式でも全勝だった。しかし2回目のチームトレーニングは「1vs.1」がテーマで数的同数でのトレーニングだった。そこでは個人で局面を開拓すること、プレーの連続性（パス＆ムーブ）、守備強度（ボールを奪いきる、ゴール前で相手に自由にプレーさせない）などうまくいかないことが多かった。このことからも、今回の個人留学で得た現段階での成果は「狭い局面でのボールテクニック」「味方と連動したコンビネーション」「味方とつながったポジション取り」が挙げられるのではと思う。課題は、「1vs.1で局面を開拓する力、相手が寄せてきても簡単にボールを奪われない」「ボールを奪いきる力」が挙げられる感じた。また、フィジカル的な要素の差とキックの精度・威力の差が大きくあったように感じた。キックにおいては、ショートパスや1タッチパスの技術は劣ることはなかったが、ミドル・ロングパス、シュートは精度、威力ともに差を感じた。サッカーのプレー面以外で、感じたことは「コミュニケーション、表現する力」の重要性。自分の思いを言葉にして伝えられる力をつけること。我々はそういう環境づくりをすることが大切と痛感した。またそのために「考えること、常に自分の行動に意図をもつこと」の大切を改めて感じた。外からトレーニングを観ていると言われたことをやろうと忠実にプレーすることはとてもできるなと思ったが、トレーニング後に話してみると「なんで？」「なんのために？」までは考えていないことがあった。そうなると継続したパフォーマンスにはつながないと思う。簡単なことではないが、知識を増やし、考える習慣をつけ、常に意図的に行動し、自分の考えを表現できるように選手と関わり合っていきたいと感じた。この年代でこのような、経験をすることができる選手たちはとても成長につながるきっかけを得ることができたと思う。また語学力（英語）の向上が少しでもあればより良い経験につながると感じた。

## ●選手コメント抜粋

世界のトップトップの選手や、雰囲気を経験できてより一層海外で活躍したいという気持ちが強まった。これまで代表活動でいろいろ経験をさせてもらい、意識を上げて日本で取り組んできたけど、今回の留学で世界に出て活躍するためにはまだまだ足りないと大きく感じられたから、さらに意識を上げてもっと成長していきたい。

## ■活動写真



**【基本情報】**

■クラブ名	サンフレッチェ広島
■活動タイトル	サンフレッチェ広島 F.C ジュニアユース U-13 ケルン遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	ケルン／ドイツ
■協力先	1.FC ケルン、タクソフィット FC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	
■活動期間	2024年8月月5日(月)～2024年8月月13日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://x.com/i/status/18月38月413054410969205">https://x.com/i/status/18月38月413054410969205</a>

**【活動報告詳細】****■活動目的**

サッカー面では、海外での遠征(試合観戦、試合)を通じて世界基準を経験すること、また日本と異なる選手・サッカーの違いを経験することで個人とチームの両面の成長を促す。

サッカー以外では、日本と異なる文化を経験し、持っている価値観を広げる。

日本ではできない非日常の体験をし、人として成長できる機会にする。

**■活動概要**

8月5日(月) ドイツへ移動。関西国際空港からフランクフルト経由～ケルン空港

8月6日(火) トレーニング @ホテル近郊人工芝

8月7日(水) トレーニングマッチ vs. 1.FC ケルン U-14(20分×3本)

8月8日(木) AM:トレーニング 1.FC ケルンと合同トレーニング →1.FC ケルンスタッフによる指導

PM:1.FC ケルン U-13 とサンフレッチェ広島でMIXチーム(4チームで、少年用コートで試合)

8月9日(金) トレーニング @ホテル近郊人工芝

8月10日(土) AM:1.FC ケルン スタジアム見学ツアー

PM:ケルン市内観光

8月11日(日) トレーニングマッチ vs. タクソフィット U-15 (30分×3本)

8月12日(月) 帰国

**■実施報告・成果**

U-13年代で異国のドイツで海外経験・海外の選手と交流できたことが選手にとって貴重な経験となった。

具体的には、食生活や言語の違いに対応・プロチーム練習見学・1.FC ケルン U-21 vs. デュッセルドルフ U-23 の公式戦を観戦できしたこと。熱狂的なサポーターを含めて大きな刺激を受けることができた。

成果としては、ドイツの同じ年代の選手と比べて、ボールを持った時のテクニック(相手をかわす、外す)は十分に通用した。特にゴール前(PA付近)は通用する。相手を横に交わしてシュートする、外してワンツーなどはほとんど相手の選手はついてこられず、そういうたプレーで得点や多くのチャンスを作ることができた。

また、ドイツの選手よりもキックという部分では長い距離も蹴ることができ、ドイツの選手よりもピッチを広く使い攻撃することができた。守備ではアグレッシブにボールを奪いに行き、連続してプレスをかけて良い奪い方からゴールへ迫ることは非常によかったです。チーム全体で組織としてプレーすることはよかったです。

また、ドイツの育成サッカーを知るという点では、どの年代も「GKを含めたビルドアップ」をしっかりとていた。チャンスがあれば背後を狙ってくるが、基本的には全員でボールを大切にしてプレーしていた。

また、ピッチ内では個人でより活躍する選手を育成していかないといけない。

1.FCケルンスタッフが言っていたが、「特別なものを一つ以上持つこと」がとても大切。

「スピード」「相手を突破する」「前にボールを出すキックの質・種類」「失わないテクニック」など1.FCケルンの選手は特徴を持っている選手が多くいた。個人の特徴を見て、スタッフもその選手にコーチングをしていた。(ドリブルが得意な選手にはパスよりもドリブルでのトライを促し、尊重していた)

守備では、「切り替え」がどのチームも早く、「1対1の球際」は強かったです。

体を止めないことはもちろんあるが、頭を休めている選手がほと

んど1.FCケルンの選手にはいなかった。逆にこちらは1回1回プレーが止める選手がいるので、常にボールがないとき・ある時にかかわらず「ボールに関わることをもっと日常から習慣にしていかないといけない。

## ●選手の声

海外の選手は体が大きいし、ボールを持った時のスピードが速い。

海外の選手は声の出し方、フリーの時の要求が凄かった。

1.FCケルンのコーチがしてくれた練習は頭を使うことが多かった。

フィジカル、プレースピードが違う。レベルが高いと感じた。



## ■活動写真





徳島ヴォルティス

## 【基本情報】

■クラブ名	徳島ヴォルティス
■活動タイトル	徳島ヴォルティス U-17 スペイン遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	サンセバスチャン/スペイン
■協力先	レアル・ソシエダ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-17
●対象者詳細	
■活動期間	2024年8月17日(土)～2024年8月29日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.vortis.jp/news/4984/">https://www.vortis.jp/news/4984/</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

世界基準をチーム、個人で体感し、世界での現在地を知るとともに、目標設定を再確認する。

また、異文化や、非日常体験を通して人としての価値観を広げる。

提携クラブ(レアル・ソシエダ)の日常を深く観ることでお互いをより理解し、良い関係性を継続させていく。

## ■活動概要

提携クラブ(レアル・ソシエダ)の協力のもと、宿泊先、対戦相手を設定してもらい、実現した11泊13日の活動。現地ではラ・リーガ開幕戦を観戦、スタジアムツアーや、レアル・ソシエダの本拠地(ZUBIETA)でのトレーニングなどを通じてソシエダでの日常を体感し、夢、目標をより具体的にイメージしていくことや、試合を通して漠然としていた世界(スペイン)のサッカーと本気で戦い、成果と課題を抽出し、日常の意識レベルをさらに上げていくこと。

また、過去徳島ヴォルティスに在籍していた選手の所属クラブ(スペイン4部)を訪問し、現地で教育プログラムを実施し、サッカーを通して人としての成長も促した。

## ■実施報告・成果

U-17は2試合のトレーニングマッチ、4チームのトーナメント大会の2試合、計4試合を実施。

試合は大会形式で行い、中でも2試合目は提携クラブのレアル・ソシエダとの対戦ということや、コンディションも上がってきたこともあり、選手たちはやる気に満ち溢れていた。攻守ともに主導権を握る時間が多く勝利することができた。決勝はこの遠征初戦のチームとの対戦になり、相手は前回負けているということもあって、トレーニングマッチの時よりも守備的な戦いを選択してきた。ボールは持っているものの急所を突くことができないまま時間が経過していくと、セットプレーから一瞬の隙を突かれ失点をしたが、ピッチの選手がポジションチェンジをするなど主体性を持ち、ゴールを奪う方法を模索した結果、同点に追いつきPK戦の上、優勝することができた。

4試合において、単純な技術という面では劣ってはいなかったが、その技術はいつ、どこで、誰が使うのということが課題であった。また、スペインのチームは戦術行動の幅が広く、1試合を通して同じ戦いをするチームではなく、状況や力関係を分析した上で適時システムを含め適応しようとしていた。

こちらもそのような状況にチームとして適応し続ける戦術的なプレーとともに、局面を開拓できる個人の育成(IDP)の重要さを改めて実感できた。

U-16は4試合のトレーニングマッチを実施。

U-17の対戦相手同様、どのチームも戦術的なプレーが見られ、自分たちのスタイルを保ちながらも勝利からの逆算でプレーを選ぶことに長けていた。指導者の戦術的行動の要求に対しても選手がしっかりと理解し、やりたいスタイルではないかもしれないが勝利のためにしっかりプレーしているようにみえた。

4試合ともにボールを保持するもののカウンター、縦に速い攻撃を受け、主導権を握ることや、スコアの優位性が取れないことが多く苦しい試合が続いていたが、遠征中に自分がメインの試合が4試合あったことで、4試合目は見事な逆転勝利をすることができた。適応するのに時間がかかることは課題ではあるが、遠征中に選手が変化し勝利できたことは大きな成果であった。

遠征前にレアル・ソシエダのスタッフとのコミュニケーションを密に取っていたので、滞在期間中に選手、スタッフともに充実したプログラムを実施できた。

最後に、Jリーグ、レアル・ソシエダ、保護者の多大なサポートのおかげで今遠征を実施できたことを心から感謝し、この経験を一過性にすることなく今後の活動につなげていかなければいけないと感じる。

## ■活動写真





愛媛FC

## 【基本情報】

■クラブ名	愛媛FC
■活動タイトル	愛媛FCヨーロッパクラブ訪問
■活動種別	その他
■実施場所(都市／国)	イングランド・ポルトガル・ドイツ
■協力先	ウェスト・ブロムウッド・アルビオン、ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオン FC、ブラックバーン・ローヴァーズ FC(イングランド)、FC ファマリカン(ポルトガル)、SC フライブルク(ドイツ)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-20 以上 U-17
●対象者詳細	青野大介・大門学
■活動期間	2024年2月6日(火)～2024年2月20日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://ehimefc.com/topics/topic35385.html">https://ehimefc.com/topics/topic35385.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- (1)アカデミー出身選手のパスウェイ構築のため、国外のさまざまなクラブとのつながりをつくる
- (2)アカデミー出身選手(行友翔哉)の期限付き移籍先クラブであるFC ファマリカン(ポルトガル)を訪問し、世界の同世代の選手との差異や本人の成長度合いを確認する。
- (3)パートナークラブであるSC フライブルク(ドイツ)との関係を強化し、スタッフおよび選手の育成環境を整える。また、ビジネスとしての関係を構築する。

## ■活動概要

## (1)活動観察

- フットボールのパフォーマンスレベルの把握(5 大リーグやその周辺国の中位部の 2nd チーム(U-21/U-23)やトップチーム)
- 活動環境の把握

## (2)関係者(クラブスタッフ・エージェント等)との意見交換

- 選手に求められる要素(日本人選手の強みや特徴)
- 選手のパスウェイ(どのようなルートでステップアップすることが最適なのか)
- 予算(獲得関連費用や選手年俸など)
- その国やクラブ戦略

## ■実施報告・成果

アカデミー選手のパスウェイを構築する上でのヨーロッパの状況を把握し、有望な若手選手をヨーロッパクラブに移籍させ ROI の獲得につなげていくようにしていきたい。

ヨーロッパの移籍市場では 25 歳以下の移籍が 70%以上を占めていた。クラブの ROI 戦略を立てる上でも若手選手のヨーロッパ移籍を実現できるようにしていきたい。

また、若手選手の育成の場として、アカデミーの構造の違いもあると感じた。イングランドは 21 歳まで、SC フライブルクでは 23 歳までがアカデミーとなっているが現在のJリーグクラブでは 18 歳までがアカデミーとなっている。19~23 歳までの若手選手の育成の場をどう創出していくか考えていく必要性を感じた。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	愛媛FC
■活動タイトル	U-19 フライブルク短期留学
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	フライブルク/ドイツ
■協力先	SC フライブルク U-19
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-19 U-17
●対象者詳細	島 佑成、大門学
■活動期間	2024年10月24日(木)～2024年11月2日(土)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://ehimefc.com/topics/topic40539.html">https://ehimefc.com/topics/topic40539.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

U-18 所属の島佑成を、パートナークラブである SC フライブルクに(ドイツ)U-19 に短期留学させることで海外選手との差を理解させ成長促進につなげる。

## ■活動概要

SC フライブルク U-19 トレーニングに参加

## ■実施報告・成果

## ●参加者からの報告

今回の短期留学で感じたことは、コミュニケーションが非常に大切だということです。

最初、ドイツ語は全く分かりませんでしたが現地の方と拙いドイツ語でコミュニケーションを皆さん笑顔になってください語学をもっと学びたいと思いました。英語が話せることは海外に行く上で、役立ちました。

プレー面では、パスやトラップなどのテクニック、1対1の対応やボールを奪う部分は通用していたと思います。フィジカルの部分では明確な改善点があり、30m走のタイムが4.2秒だったので4秒を切れるようにしたいです。また、フライブルクは環境先進都市としてペットボトルなどを回収する機械を作りそこに持っていくと0.25ユーロ(約40円程度)を貰えるなど、環境問題解決に積極的に取り組んでいて街の至る所にゴミ箱が設置してあることも印象的でした。

## ●アカデミーダイレクター総評

短期留学から帰ってきて、行く前と比べて表情が明るくなった印象がある。海外でプレーしたいという意向が強い彼が実際ドイツでプレーする事で自分の課題が明確になったことで表情にも出ているのではないかと思う。プレー面でもトレーニングや試合の中で、コミュニケーションやコーチングが増え、チームのリーダーとしてプレーしてくれるようになっている。また、U-17日本代表にも再選出されるなど成果としも出していることは良かったのではないかと思う。

1人で留学する事で、自分で判断して生活していくなど複数人数で留学する事では経験できない事も経験できたことは非常に良かったのではないかと思う。今回の経験を今後に生かしてもらい選手として1人の任間として成長していってもらいたい。10月には、フライブルクからアカデミーダイレクターとU-15テクニカルダイレクターに愛媛を訪問していただき、さまざまな交流ができたらと考えている。

今後は、エリート選手と指導者を年2～3回程度留学を行い、各年でU-15やU-17のチーム遠征を行えるように発展させていければと考えている。

## ■活動写真



**【基本情報】**

■クラブ名	愛媛FC
■活動タイトル	SC フライブルクアカデミーダイレクター/テクニカルディレクター招聘
■活動種別	その他
■実施場所(都市／国)	愛媛県・東京都Jリーグオフィス/日本
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	アカデミースタッフ
●対象者詳細	
■活動期間	2024年10月25日(金)～2024年11月2日(土)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://ehimefc.com/topics/topic35385.html">https://ehimefc.com/topics/topic35385.html</a>

**【活動報告詳細】****■活動目的**

- パートナークラブであるSC フライブルク(ドイツ)との関係を強化し、スタッフおよび選手の育成環境を整える。また、ビジネスとしての関係を構築する。

**■活動概要**

- SC フライブルクの育成ビジョン・ゲームコンセプト
- TDによる指導実践(U-15選手対象)
- 基盤となるアイデンティティと環境
- 育成コンセプト
- スカウティングと提携クラブ
- Jリーグオフィス訪問(増本さん・マーレさんとの意見交換会)

**■実施報告・成果**

予算規模こそ違えど、同じ「育成型クラブ」を目指していく上で共通している部分や参考になる点が多くあると感じた。ジュニアチームを持っていない中でどのようにタレントを育てていくのかが大事になってくると感じた。U-12世代から抱えている選手を高い確率で上のカテゴリーに上げていけるようなカリキュラムやコーチングシステムを参考にしながら現在あるクラブのコーチングカリキュラムをブラッシュアップしていくことで「育成型クラブ」としての存在意義を高めていきたい。

今回、7年ぶりにこのような講習会開催することができ非常に良かった。SC フライブルクは明確なコンセプトを持ち、コーチング・タレント・スカウティング・提携クラブ・選手育成のための取り組みと多義にわたり詳細なカリキュラムをもち、クラブの考えをスタッフが理解して各部署で選手の成長を大事にしていることがわかった。

育成型クラブとして発展していくために多くのアイデアを今回の講習会でもらうことができた。今回の講習で得たことを今後のクラブ発展に生かしていきたい。

## ■活動写真





FC今治

## 【基本情報】

■クラブ名	FC今治
■活動タイトル	FC今治 U-18 スペイン遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	マドリード/スペイン
■協力先	(海外クラブ)アトレティコ・マドリード (企業)株式会社日光商事／Eastern Pacific Shipping Pte. Ltd.
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18
●対象者詳細	
■活動期間	2024年3月12日(火)～2024年3月21日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.fcimabari.com/news/2024/006358.html">https://www.fcimabari.com/news/2024/006358.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●U-18 選手個人の成長

- ・スペイン同年代の選手と対戦し、日常では味わえない強度を体感する
- ・現地でトップリーグの試合観戦をすることにより、海外でのサッカー文化を体感する
- ・海外の文化に触れて、人としての考え方の幅を広げる

## ●コーチングスタッフの成長

- ・現地スタッフの指導をみるとことによって、指導者としての学びを得る

## ■活動概要

- アトレティコ・マドリードのコーチによるトレーニングセッション
- アトレティコ・マドリードアカデミーチームとのトレーニングマッチ
- アトレティコ・マドリード育成メソッド講義受講
- アトレティコ・マドリードのホームスタジアム見学
- アトレティコ・マドリード vs FC バルセロナの試合観戦
- マドリード市内ツアーア

## ■実施報告・成果

FC今治アカデミーとしては初の欧州遠征実施となりました。初めは緊張した面持ちの選手が多かったですが、違う環境で過ごすことや違う文化に触れることを通じて、日を追うごとにサッカーの面でも、人としての面でも成長をしてくれました。

選手のサッカー面の成長としては、大きく言うと2つあります。一つ目はタフに戦える選手が増えたことです。アトレティコ・マドリードのユースチームと2試合戦う中で、はじめは球際の強度や戦術的にも多様な相手に戸惑っていました。しかし徐々に慣れてくると、球際でも勝つ場面が増えてきて、さらに戦術面でも自分たちの良さを出せるようになりました。結果、2試合は勝利に結びつけることができました。二つ目は試合中のコミュニケーションの量が増えたことです。相手がピッチ上で数多くのコミュニケーションをとっている姿を見て、「自分たちもこのままではだめだ」という実感がもてたのか、試合を追うごとにコミュニケーションが増えていきました。

人としての成長という面では、数多くの選手が現地でコミュニケーションを取ることが増え、言葉がわからなくとも想いが通じる体験を通して、自分から発言することの大切さや自分の想いを強く持つことの大切さを学んでくれました。さらには現地のトップリーグの試合観戦を通じてスペインのサッカー文化に触れて、その歴史の長さや現地の人たちの生活にサッカーがどれほど欠かせないものかを目の当たりにして、大いなる刺激を受けていました。

選手はさまざまな刺激を受け、約10日間という短い間に大きな成長を遂げました。これが一過性のものはなく、継続して成長していくきっかけにできるかはコーチングスタッフ、ひいてはクラブの使命であると感じています。

最後になりますが、このような機会をつくることにサポートいただいた株式会社日光商事様、Eastern Pacific Shipping Pte. Ltd.様、株式会社Jリーグ様に御礼申し上げます。有難うございました。

## ■活動写真





## アビスパ福岡

## 【基本情報】

■クラブ名	アビスパ福岡
■活動タイトル	アビスパ福岡 U-16 タイ遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	バンコク/タイ
■協力先	ポートFC、Supermark、福岡県バンコク事務所
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-16 U-15
●対象者詳細	
■活動期間	2024年5月21日(火)～2024年5月27日(月)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.thailandtravel.or.jp/news/136159/">https://www.thailandtravel.or.jp/news/136159/</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

国際経験を通して他国の文化に触れ、さまざまな価値観を感じながら言語を学び、知識を深め、人間性を高めること、また、他国のサッカーに触れて、現在地を確認するとともにリスペクトの精神を養いアビスパ福岡の選手としてアジアでの見本となるべく、堂々とした立ち振舞いを意識し、行動と言葉に責任を持たせるような自己研鑽の場とする。

## ■活動概要

・大会参加 Supermark CUP

## ■実施報告・成果

アビスパ福岡は、タイ・ポートFCとパートナーシップを締結しており、アカデミーのタイ遠征は、今回で2度目となりました。オンザピッチでは蒸し暑くなれないピッチ環境でもタフに戦うことができ、オフザピッチでも現地の選手との交流や企業団体訪問を積極的に行い、タイの文化に触れる貴重な体験をすることができ、育成年代に必要な人格形成に大きな影響を与えてくれました。

継続的な交流から、新たな人材育成のノウハウを創出し、アジア戦略を視野に入れたビジネスモデルを構築する事が可能となります。アカデミーの価値向上とクラブのブランディングの両面を得ることができるよう進めていきたいと考えております。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	アビスパ福岡
■活動タイトル	Jリーグ人材育成継続学習 CPD イベント Part2
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	マルセイユ/フランス
■協力先	Jリーグ、オリンピック・マルセイユ、FFF アカデミー
■対象者	
●対象チーム・主な年代	
●対象者詳細	井上孝浩(アカデミーダイレクター)
■活動期間	2024年6月2日(日)～2024年6月12日(水)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●Jリーグ研修:

- ①戦術やプレースタイルのトレンドを知る
- ②代表選手の競技レベルを知る
- ③エリート選手に対する取り組みを知る
- ④国際的なネットワークや知見の構築

## ●クラブ訪問:

- ①ワールドクラスのエリートなクラブの育成環境を知る
- ②エリート選手に対する取り組みを知る
- ③継続してROI(投資利益)を生み出す事業施策を学ぶ
- ④国際的なネットワークや知見の構築

## ■活動概要

モーリスレベロトーナメント視察

マルセイユクラブ訪問

FFF エリートアカデミー訪問

## ■実施報告・成果

この度は、フランスのマルセイユ研修にて、オリンピック・マルセイユのクラブ訪問、FFF エリートアカデミー訪問、モーリスレベロトーナメント視察と、多くの気付きの機会をいただきまして、感謝しております。クラブ負担があり費用がかかることもあり、参加者が少なかったことが残念ですが、参加した J クラブスタッフのオープンマインドな姿勢により、良い研修になり良かったと思います。これをどのようなアクションにつなげていくかを考えていきたい。

## ■活動写真



**【基本情報】**

■クラブ名	アビスパ福岡
■活動タイトル	アビスパ福岡アカデミーCPD プログラム ゲスト招聘
■活動種別	その他
■実施場所(都市／国)	福岡フットボールセンター
■協力先	Jリーグ、テリー・ウェストリー氏
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18 U-17 U-16
●対象者詳細	アビスパ福岡アカデミースタッフ、選手 アビスパ福岡スクールスタッフ 地域指導者の皆様
■活動期間	2024年8月20日(火)～2024年8月21日(水)

**【活動報告詳細】****■活動目的**

アカデミーが通年計画的に実施している、スタッフを育成する CPD プログラムに、テリー・ウェストリー氏を招聘し、よりアカデミーからより良い選手を育成していくため、そして育成した選手がもたらす ROI(投資利益)によってクラブの大きな飛躍につなげていきたい。

**■活動概要**

テリー氏による講義とピッチ実践。

- JAQS のフィードバックとアドバイス
- ROI 獲得のための施策
- IDP トレーニングのピッチ実践
- スタッフの育成の情報共有
- 選手スカウトシステムの構築

**■実施報告・成果**

アカデミーマネジメントグループは、JHoC、JAM、JHoE の研修等である一定の共通理解が深まっているが、現場コーチングスタッフと共有し、アカデミースタッフ全体に浸透できた。

IDP 文化を中心とした個に特化した育成プログラムの内容をアップデートできた。

クラブ社長がセッションと懇親会に参加し、テリー氏と直接コミュニケーションを取り、育成を中心としたクラブ経営への理解を深めることができた。

地域指導者も参加し、クラブと街クラブをつなぐ機会となった。

今後、テリー氏より学んだ知識を生かし、クラブ経営、エリート選手の育成、ROI の獲得を目指していく。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	アビスパ福岡
■活動タイトル	U-17 ワールドカップ AFC 予選カタール視察、 アスパイア・アカデミークラブ訪問
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	カタール・ドーハ
■協力先	アスパイア・アカデミー、JFA
■対象者	
●対象チーム・主な年代	
●対象者詳細	井上孝浩(アカデミーダイレクター)
■活動期間	2024年10月23日(水)～2024年10月29日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

## ●大会視察:

- ①戦術やプレースタイルのトレンドを知る
- ②代表選手の競技レベルを知る
- ③自クラブの選手のエリートな環境創出
- ④国際的なネットワークや知見の構築

## ●クラブ訪問:

- ①ワールドクラスのエリートなクラブの育成環境を知る
- ②エリート選手に対する取り組みを知る
- ③継続してROI(投資利益)を生み出す事業施策を学ぶ
- ④国際的なネットワークや知見の構築

## ■活動概要

- 国際大会の視察
- アスパイア・アカデミー訪問、エリートアカデミーの視察

## ■実施報告・成果

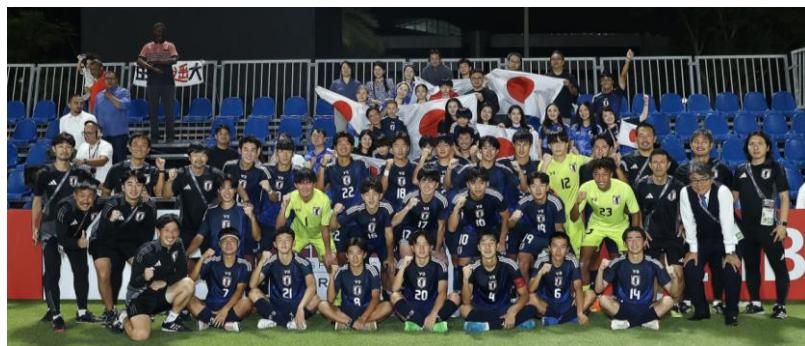
この度は、U-17 ワールドカップ AFC 予選カタール大会視察と、アスパイア・アカデミーを訪問しました。

日本代表チームと選手のクオリティーがアジアの中で高いことが確認できた。また、この基準を自チームの基準とし、代表レベルの選手をクラブ内で育成することを目指し、戦略を見直していく必要性を感じました。

また、アスパイア・アカデミーの育成ビジョンやフィロソフィーに触れ、今後の日本の育成文化を成熟させるために、日本基準ではなく世界基準の日本の育成フィロソフィーが必要です。日本人がヨーロッパで活躍し ROI を獲得する成功例を数多く出していくことが次のステップにつながると思います。

今後 10 年で、日本人選手やJリーグの価値が上がり、世界にインパクトを与えるだけではなく、世界をリードする立場に立つことができる描き、日本全体が同じ方向性で進んでいきたい。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	アビスパ福岡
■活動タイトル	アビスパ福岡 U-13 マレーシア遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	クアラルンプール/マレーシア
■協力先	
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-13
●対象者詳細	
■活動期間	2024年11月12日(火)～2024年11月19日(火)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

国際経験を通して他国の文化に触れ、さまざまな価値観を感じながら言語を学び、知識を深め、人間性を高めること、また、他国のサッカーに触れて、現在地を確認するとともにリスペクトの精神を養いアビスパ福岡の選手としてアジアでの見本となるべく、堂々とした立ち振舞いを意識し、行動と言葉に責任を持たせるような自己研鑽の場とする。

## ■活動概要

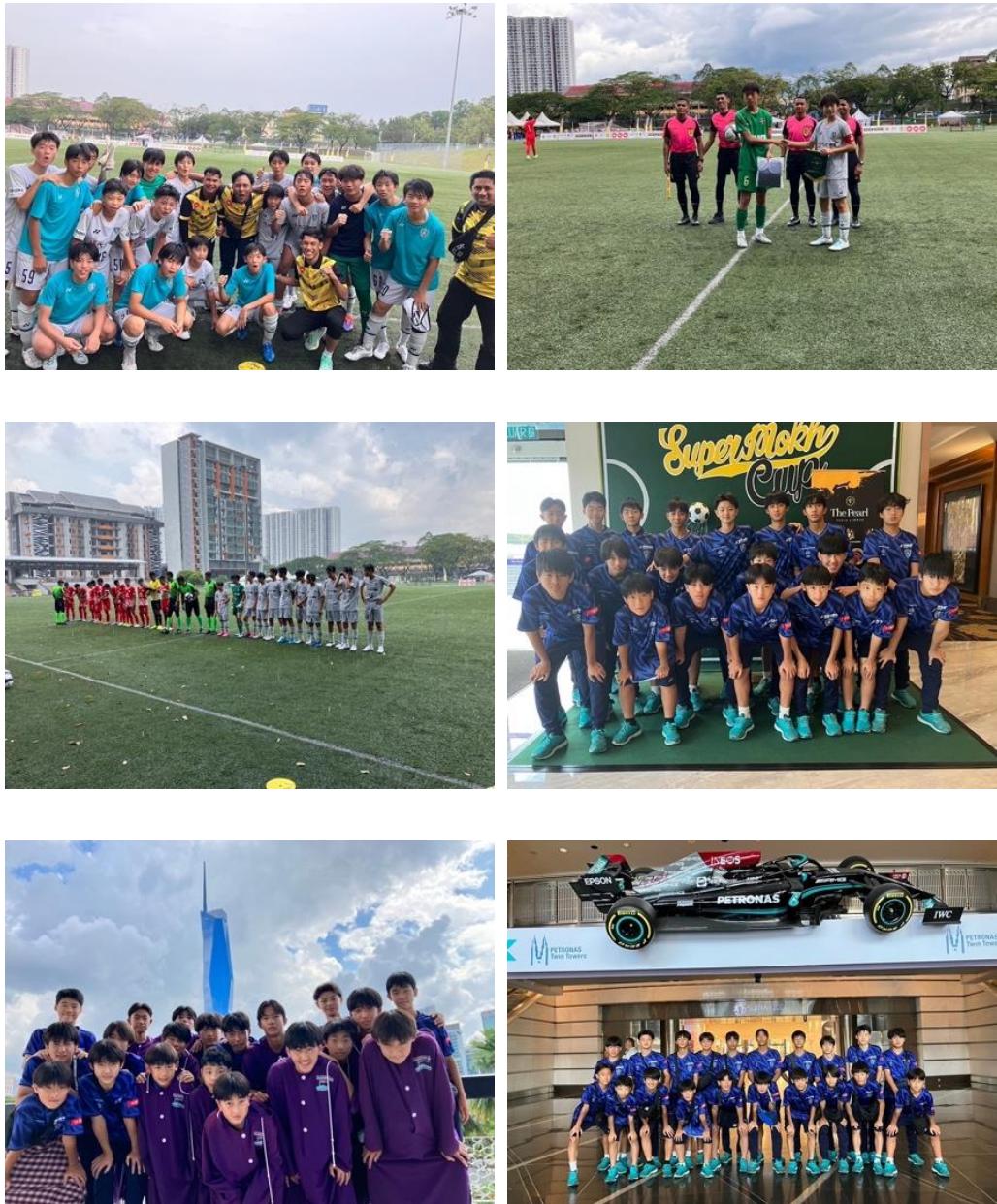
- 大会参加 8th SUPERMOKH CUP 2024

## ■実施報告・成果

アビスパ福岡 U-13 は、マレーシアに遠征し、初めての訪問先となりました。オンザピッチでは毎日のようにスコールに見舞われ、滑りやすいピッチ環境でもタフに戦うことができ、オフザピッチでも現地の選手との交流や観光を積極的に行い、マレーシアの文化に触れる貴重な体験をすることができ、育成年代に必要な人格形成に大きな影響を与えてくれました。

アビスパ福岡アカデミーでは、普段からオンライン英会話を実践している選手が多く、現地での買い物のときに、英語を使ってコミュニケーションを取ることができていました。日本での取り組みが海外の地で実践されていくことで選手の貴重な体験の機会となりました。

## ■活動写真





## 【基本情報】

■クラブ名	サガン鳥栖
■活動タイトル	サガン鳥栖 U-15 選抜 スペイン遠征 「サーフカップインターナショナル サロウ」参加
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	サロウ／スペイン
■協力先	いちご株式会社、SAGA スポーツピラミッド推進グループ、佐賀県スポーツコミュニケーションズ
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-14
●対象者詳細	
■活動期間	2024年11月27日(水)～2024年12月3日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://x.com/saganofficial17/status/1861651192981659669">https://x.com/saganofficial17/status/1861651192981659669</a> <a href="https://x.com/saganofficial17/status/1862321312963993694">https://x.com/saganofficial17/status/1862321312963993694</a> <a href="https://x.com/saganofficial17/status/1862668628140990897">https://x.com/saganofficial17/status/1862668628140990897</a> <a href="https://x.com/saganofficial17/status/1863036001545027666">https://x.com/saganofficial17/status/1863036001545027666</a>

## 【活動報告詳細】

### ■活動目的

海外遠征を経験することで、より選手たちにレベルの高い貴重な経験を与え、日本国内では決して体感できない経験を、サッカーという手段を利用して経験させることが一番の目的です。  
また、指導者についても国内外のさまざまな取り組みを肌で感じて指導者としてのスキルアップにつながることを期待します。

### ■活動概要

クラブとしてU-15年代は2019年にイタリア遠征以来の海外遠征となりました。  
実施に至ってはJリーグの活動助成金が大きなきっかけとなり、クラブの小柳社長の働きかけを中心に協賛企業、佐賀県の協力を受けて実施できました。  
渡航前に選手、保護者向けに事前説明会を行いました。  
大会としてはU-11～U-19までのカテゴリーが12面を使って開催し自チームの空いた時間も視察ができた環境が良かったと報告がありました。選手だけではなくスタッフも“知ることは今後の活動へ大きな刺激となつたと思います。

### ■実施報告・成果

#### ●成果

- 俊敏性。ゴール前での俊敏性(細かいパスワーク・ドリブルでの仕掛け)を生かして多くのゴールを決めることができた。
- 守備の連動とプレッシング。コンパクトな状況で連動したプレッシングをかけた際には、意図的にボールを奪うことができた。
- 運動量。日本人の良さである運動量で相手を上回ることができた。

- ボールを奪ってから素早い攻撃。意図的に奪った際には、守備から攻撃への切り替えが早くカウンターから多くのゴールを決めることができた。

## ●課題

- コンタクツキル、球際での強さ。ヨーロッパの選手と比べると身長の高さや太さで劣っていた。コンタクトで負けない体作りは追求して行かなければいけないと感じた。またただぶつかるだけでなく、体を当てるタイミングや、接触をなくしてポジショニングで優位性を持つことなど駆け引きでも勝てないと感じた。
- 状況に応じた対応力。スペインの選手たちは自分達で状況や流れに応じてポジションやプレーを選択できると感じた。ビルドアップがうまくいかない時は素早くポジションを変えたり、押し込まれる時間が長い時はシンプルな攻撃で耐えることに徹することが自分達でできていた。
- メンタリティー。自分を表現するメンタリティーはどの年代でも強かった。U-12、U-13 年代でも試合や局面で負けければ悔しさを表現する。勝った時やゴールのシーンでも大きく喜びを表現する選手が多くピッチ外でもそれらを感じた。サガン鳥栖の選手は、ゲーム中でも発信できない選手もいて自分を表現できない場面が多々あった。日常から自分をもっと表現させる状況を作ることが大切だと感じた。

## ●まとめ

最終順位は 5 位となった。今大会では、出場した世界の強豪クラブとの対戦を通じ、選手、スタッフ共に同年代の世界基準を肌で感じることができた。

また、スペインや各国のサッカー文化、価値観に触れることで新しい気づきを数多く得ることができた。食文化の違いやサッカー感の違いを感じた。しかし通用した部分もあり自信を持った選手も多くいた。

このような経験をさせていただいたクラブ、スポンサー様の皆様に感謝すると共にスペイン遠征で体感したこと を体現しユース昇格、トップチーム昇格につなげていきたい。

## ■活動写真





## V·ファーレン長崎

## 【基本情報】

■クラブ名	V·ファーレン長崎
■活動タイトル	「2024 V·VAREN NAGASAKI Fes U-15」参加
■活動種別	国内大会主催
■実施場所(都市／国)	長崎県島原市
■協力先	株式会社 ひまわりてれび、ミサワホーム九州株式会社 株式会社 長崎ケーブルテレビメディア、ホテルシーサイド島原 有限会社 杉谷本舗、長崎県、医療法人齊家会 長崎県スポーツコミッショナ、島原市、島原市教育委員会 島原市スポーツ協会、島原市スポーツキャンプ等誘致実行委員会 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ) 長崎県サッカー協会、島原市サッカー協会、V·ファーレン長崎後援会
■対象者	V·ファーレン長崎 U-15
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	U-15 選手 25 名、スタッフ 5 名
■活動期間	2024 年 2 月 10 日(土)～2024 年 2 月 12 日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

1. Jクラブアカデミー同士の対戦によるレベルの高い試合経験
2. 長崎発九州全体のレベルアップをはかり、長崎に集うことで各地域との交流の架け橋となる場の提供
3. 指導者間の交流、情報交換を今後の指導に反映させる
4. コミュニケーションを図り、人と人とのつながりを楽しむ

## ■活動概要

## ●会場

島原市営平成町多目的天然芝グラウンド 3 面 + 人工芝 2 面

## ●参加チーム

浦和レッズ、レノファ山口、ヴィッセル神戸伊丹、カターレ富山、サンフレッチェ広島くにびき アビスパ福岡、サガン鳥栖、サガン鳥栖唐津、大分トリニータ、ロアッソ熊本、FC 雲仙エスティオール、スネイル SC、キックス FC、ドリーム FC、長崎県 TC、V·ファーレン長崎（合計 16 チーム）

## ●大会方式

参加地域を考慮した 16 チームによる大会形式

試合時間：予選、順位トーナメント 50 分 / 審判員：大会運営側で準備

試合人数：11 対 11 / 競技エリア：天然芝・人工芝ピッチ(105m × 68m)

## ■実施報告・成果

### ●総評

- ◆ 試合運営、宿泊、移動、イベントなど今できることは実現することができたと思う。
- ◆ 来年は、各担当を中心に大会をみんなで作り上げていくことを考えていきたい。

### ●長崎の関係者(VVN+タウンクラブ+県協会+審判員)

- ◆ 大会の試合+トレーニングマッチでのバタバタ感はあったかもしれない。
- ◆ チーム移動の時間の余裕などあるといい。
- ◆ 選手交流会・スタッフ懇親会は、盛り上がり人とのつながりは感じられたと思う。
- ◆ 『おもてなし』でのうどん提供は非常に良かった。
- ◆ 保護者や観戦者が多かったので、食事の提供も考えていきたい。

### ●チーム

- ◆ この大会での経験をどう生かすかは選手次第。
- ◆ 大会が終わり少しの間はできるが 1か月くらい経つとまた楽な方に流れていくので
- ◆ 日頃のトレーニングからも常に 100%ができるようにチーム内の競争を煽っていきたい。

### ●主催として

- ◆ 長崎の地での大会開催に感謝していますが、もっと指導者や保護者、他の力テゴリーの選手など観られるような環境を設定することも課題にあがる。
- ◆ Jクラブ中心の規模では初めてだと思うが、全体的なレベルの向上やサッカーの本質をもっと感じられるような大会を目指したい！
- ◆ 育成年代での海外クラブ対戦の重要性を考え、グローバルな視野で育成できるようにアプローチしていきたい



## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	V・ファーレン長崎
■活動タイトル	V・ファーレン長崎 U-12 韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	大韓民国／慶尚南道(キョンサンナムド)、昌原市(チャンウォン)
■協力先	株式会社 IDBUS
■対象者	V・ファーレン長崎 U-12
●対象チーム・主な年代	U-12
●対象者詳細	U-12 選手 13 名、スタッフ 4 名
■活動期間	2024 年 3 月 29 日(金)～2024 年 4 月 1 日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 海外遠征を通じて食事・言葉・文化を学びグローバルな選手の育成
- 異なるフットボール文化を経験し、主体的にプレーできる選手の育成
- 日本の代表として海外の選手との試合を経験し、闘争精神の獲得

## ■活動概要

- U-12 選手 13 名、スタッフ 4 名(HOC、監督、コーチ、トレーナー)で博多港～釜山港片道 3 時間 40 分の移動をし、現地では大型バスで昌原フットボールセンターに移動。
- 対戦相手は釜山アイパーク U-13、海雲台 FC U-12、釜山アイパーク U-12、LHS Football Academy と 3 日間で 4 試合実施。
- 朝食、昼食はホテルのバイキング、夜飯は現地の韓国料理を体験し、空き時間には現地の観光地でショッピング実施。

## ■実施報告・成果

## ●成果

- フィジカル的な差がある中でも、考えながらプレーを選択できるように変化してきた(認知力強化)
- 試合や局面での勝負にこだわり、遠征を通して全力で出し切ることができるようになってきた(メンタル面強化)
- 地元の方にも積極的に話しかけ、コミュニケーションを取ることができるようになってきた(社会性の強化)

## ●課題

- パス・ドリブル・コントロールの基礎能力の向上
- 奪う守備の向上
- 試合によってのメンタルの波がある
- 環境変わっても変わらない食事量・タフさ

## ●今後に向けて

- ◆ 今回の遠征を通して学んだタフさ、事前準備の大切さを日常のトレーニングから実行していく
- ◆ 個人の目標達成のために食事の量や質を日常から変えていく
- ◆ トレーニングの中でも勝負にこだわり、強度の高い中での技術を発揮できるように求めていく

## ■活動写真





ロアッソ熊本

## 【基本情報】

■クラブ名	ロアッソ熊本
■活動タイトル	ロアッソ熊本アカデミーイングランド短期留学・研修
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	ロンドン / イギリス
■協力先	チェルシーFC, MADE(テリー氏)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-16
●対象者詳細	ロアッソ熊本ユース所属:神代慶人選手、元松蒼太選手 ロアッソ熊本ユース 岡本賢明監督、八木 大コーチ
■活動期間	2023年12月5日(日)~2024年1月18日(木)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://roasso-k.com/news/6850">https://roasso-k.com/news/6850</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

世界のビッグクラブであるチェルシーFC の歴史や環境を肌で感じ経験し、またイギリスの文化に触れ、選手スタッフの個々のスキル・レベルアップを図る。そして、感じ学んだことを、チーム、クラブに還元する。

## ■活動概要

チェルシーFC のアカデミー U-18、U-21 のトレーニング(ピッチトレーニング、ジムトレーニング、ミーティング)への参加に加え、チェルシートップチームの FA カップ、U-23 のリーグ戦を 2 試合観戦した。  
トレーニングのない日には、ロンドン市内の観光やスタジアムツアーへの参加などイギリスの文化にも触れることで価値観の向上につなげた。

## ■実施報告・成果

今回の研修では、参加した選手およびスタッフが本当の世界トップクラスの育成環境に身を置くことで多くの学びを得ることができた。特に印象的だったことが、ジムトレーニングの多さである。外国籍選手と日本人選手の体格差は生まれつきの違いもあるが、それ以上に普段のトレーニングの質と量の違いが要因として大きいのではないかと痛感した。我々もチェルシーのレベルまでとはいかなくとも限られた環境の中でより質と量を突き詰めていかなければならない。

ピッチトレーニングでは、普段から磨きをかけている技術の部分は、チェルシーの中でも十分に通用することがわかり、選手たちも自信につながったように感じる。特に神代は判断も含めてパフォーマンスは非常に良かつた。また、世界基準を改めて知ったことで選手の意識の変化も見られ、今後につながる成果となった。

トレーニングの内容は個の能力を伸ばすことに集中しており、チーム戦術のトレーニング等は少なく、スタッフ間の会話からも個人を伸ばす重要性に改めて気づかされた。

他にも、チェルシーFCとのつながりや、活動の状況を、SNSを通して発信することで、ロアツソ熊本のプロモーションにもつながった。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ロアツソ熊本
■活動タイトル	人材育成継続学習(CPD)イベント part2 海外大会 モーリスレベロトーナメントグループステージ視察
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	フランス・マルセイユ
■協力先	オリンピック・マルセイユ育成センター/CAMPUS FFF エリートアカデミー(エクサンプロヴァンス校)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-19 U-18 U-15
●対象者詳細	アカデミーサブダイレクター:原田 拓
■活動期間	2024年6月3日(月)～2024年6月10日(月)
■公表情報(クラブのHP等)	

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 世界(アンダー世代)の競技レベルの基準および選手(トッププレーヤー)の価値(ROI 金額)を知る。
- マルセイユの育成年代における取り組みおよびFFF エリートアカデミーの現状を知る。(スカウティングの構築方法含む)
- 金銭的価値がついた選手の戦略的売却方法(エージェント選定含む)

## ■活動概要

海外大会視察では、(モーリスレベロトーナメント)戦術やプレースタイルの最新情報を取得し、エリート選手の分析をし、国際的なネットワークを構築し、世界のエリートレベル現状を把握する。オリンピック・マルセイユの育成機関やFFF エリートアカデミーに訪問し、各機関での取り組みなどを共有していただいた。

## ■実施報告・成果

今回、人材育成継続学習(CPD)イベントに参加させていただき、目的であった、世界(U世代)の競技レベルの基準および選手(トッププレーヤー)の価値(ROI金額)を知る部分では、毎回研修実施後に振り返りのMTGを実施していただき、他の参加者の考えも聞くことができ、大変勉強になった。また、フランストップの育成機関(マルセイユ・FFFアカデミー)では、各機関のトップから講義を実施していただき、現状の成果や課題を聞くことができ、学びの多い研修となった。は、研修で学んだことを生かし、選手個々を成長させることは勿論だが、金銭的価値がついた選手の戦略的売却(ROI)獲得にも注力していきたい。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	ロアッソ熊本
■活動タイトル	ロアッソ熊本ユース韓国遠征
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	済州 / 韓国
■協力先	Kリーグ
■対象者	ユースチーム U-17
●対象チーム・主な年代	
●対象者詳細	
■活動期間	2024年10月20日(日)～2024年10月29日(火)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://roasso-k.com/news/7501">https://roasso-k.com/news/7501</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

クラブビジョンである「世界に羽ばたく選手の育成」を体現するため、海外チームとの試合や異文化交流を通して、サッカ一面、人間性の成長を促す。

## ■活動概要

Kリーグ主催の「K LEAGUE ASIAN YOUTH CHAMPIONSHIP in Jeju 2024」に参加。大会後、文化学習プログラムに参加し、現地の文化を学ぶ機会を設けた。

## ■実施報告・成果

本遠征では、大会(K LEAGUE ASIAN YOUTH CHAMPIONSHIP in Jeju 2024)に参加することでサッカ一面だけではなく、オフザピッチの生活面でもチーム全体で改善を図るという目的意識を持って臨んだ。また、チームとしてはもちろんだが、それ以上に個人の成長に焦点を当てるなどをテーマとしていたため、個人の振り返りシートを作成し、選手個人がオンザピッチとオフザピッチで目標を設定し、毎日スタッフと面談を行うことで日々の取り組み改善を促すことができた。

大会結果は準優勝で終わったが、さまざまな国のチームと対戦することで自分たちの課題や長所を確認できたことで今後の取り組みにつながることができた。

なお、1年生の小田詠人が大会得点王で表彰された。

## ■活動写真





## 大分トリニータ

## 【基本情報】

■クラブ名	大分トリニータ
■活動タイトル	大分トリニータ U-12 韓国交流遠征 FC CANNON 交流戦
■活動種別	海外遠征(チーム単位)
■実施場所(都市／国)	韓国/大邱
■協力先	FC CANNON
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-12
●対象者詳細	
■活動期間	2024年8月3日(土)～2024年8月7日(水)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

U-12 年代の選手の刺激を与えて人間形成、成長を促す。下記の目的を立て選手に意識させる。

- (1) 異文化(言葉・習慣・衣食住等)を体験し人間性の幅を広げる
- (2) 遠征中のストレスを乗り越えるメンタルを養う
- (3) 日本では感じられない韓国選手のサッカー観に触れ技術・体力の向上を目指す

## ■活動概要

2023 年に大分トリニータと韓国大邱にある FC CANNON が U-15/12 の育成・交流を目的に業務提携を行いました。国際交流を深めるために U-12 年代が交互に海外訪問をすることを計画しました。サッカーの試合を通じての交流、韓国チームの受け入れにおいてのホームステイを実施し選手同士の交流を深めた。FC 大邱のスタジアム見学、買い物を通じてお土産、品物の購入。その際にコミュニケーションを取るための言葉の交流をしたり、支払においてお金の計算をしたりしました。

## ■実施報告・成果

韓国遠征においてU12選手28名に対してスタッフ3名での対応となり若干の不安もありましたが無事に行程を実施できたことは良かったと思います。飛行機から新幹線(KTX)に乗り継いでの大邱までの移動により、大きな荷物をもっての旅となり小さなトラブルもありましたが全員で乗り切れたことは良い経験となりました。成果としては積極的にコミュニケーションを取ることから選手の自信と経験が生まれました。同世代の韓国選手の体の大きさ、フィジカルの強さを目の当たりにし食事に対する意識も今まで以上に向上しました。異国の中で生活を共にすることでチームにおいて一体感も生まれて頼もしさを感じました。

## ■活動写真



## 【基本情報】

■クラブ名	大分トリニータ
■活動タイトル	ベルギーSTVV 研修
■活動種別	海外活動(個人)
■実施場所(都市／国)	ベルギー/シントロイデン
■協力先	シントロイデン VV(STVV)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15
●対象者詳細	篠田一義(コーチ)・佐藤煌将・増永大生獅・高橋祐樹・弓場颯(選手4名)
■活動期間	2024年8月23日(金)～2024年9月2日(月)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- U-15年代の強化指定選手4名に海外研修をさせることによって、個人の成長を加速するために刺激を与える。
- 新しい考え方への「気づき」の機会とする。
- たくましい「個」の成長をさせる。

## ■活動概要

- STVV 研修にあたり STVV 高野剛 AD によるレクチャー
- STVV(U-16/18)トレーニング参加
- STVV U-16TM(vs. R.C.S.C シャルルロワ SC)参加
- ベルギーリーグ観戦
- シントロイデン VVU-23 開幕戦観戦
- シントロイデン VV 日本人選手と交流

## ■実施報告・成果

「結果を出せる選手」との講義を受けて、何かをアピールしようとする姿勢をもってサッカーに取り組めた。選手一人ひとり、目的をもって活動ができたと思う。

身振り手振りでコミュニケーションを取っていたが、やはり語学力、言葉をしゃべれるともっと良いプレーができると感じ、語学に興味を持った事は良い刺激だった。

自分に足りないことがわかり、取り組む姿勢に意欲が出てきた。(選手とのディスカッションにおいて)今回、U-18昇格組としてU-15から過去最多の4名の選手を派遣した。各ポジションを考慮し選出し、トップチームに昇格させるために早い段階で必要な刺激を与えるために毎年行っている。選手においては自分に足りない部分の発見、通用しそうな部分の自信が持てたのは今後の取り組みに期待が持てるものであった。

## ■活動写真





## テゲバジャーロ宮崎

## 【基本情報】

■クラブ名	テゲバジャーロ宮崎
■活動タイトル	「宮崎国際サッカーフェスティバル 2024」開催
■活動種別	国際大会主催
■実施場所(都市／国)	宮崎県
■協力先	参加海外クラブ:U-19 台湾代表(台湾)、光州 FC U-18 錦湖高等学校(韓国)
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-18
●対象者詳細	
■活動期間	2024年8月16日(金)～2024年8月19日(月)
■公表情報(クラブのHP等)	<a href="https://www.tegevajaro.com/news/event/98538.html">https://www.tegevajaro.com/news/event/98538.html</a>

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

国外、県外からサッカーチームを招き、国際交流や県内サッカーの競技力を向上させるとともに、大会を通じて地域振興と「スポーツランドみやざき」の情報発信および推進を図ることを目的とする。

## ■活動概要

テゲバジャーロ宮崎は、宮崎国際サッカーフェスティバル実行委員会、一般社団法人宮崎県サッカー協会と共に、海外 2 チームを含む計 8 チームが宮崎県に集まる「宮崎国際サッカーフェスティバル 2024」を主催した。

本大会は、宮崎県のサッカーのレベルアップを目指しながら、地域の活性化や国際交流を企図し、8/16(金)～8/19(月)の日程で開催した。

また、大会の中日にはテリー氏を招聘して、指導者向けの IDP のワークショップを開催した。

## ■実施報告・成果

県内で初めて国際親善大会を開催することができた。また、県や市と共に宮崎全体で開催体制を整えることができた。さらに、地域の指導者の方にもテリー氏の講習会を通して、IDPの考え方を知っていただけた。

アカデミーダイレクターによる総評：

今大会を通して自チームの育成・強化はもちろん、クラブ主催で国際大会を開催することで、県内でのクラブの価値を高めることにつながったのではないかと感じる。また、テリー氏の講習会を通じて、自クラブの取り組みについても地域の指導者に共有できたのは非常に有意義な時間になった。

## ■活動写真





FC琉球

## 【基本情報】

■クラブ名	FC琉球
■活動タイトル	エラス・ヴェローナ FC アカデミー指導者招聘
■活動種別	その他
■実施場所(都市／国)	日本
■協力先	エラス・ヴェローナ FC
■対象者	
●対象チーム・主な年代	U-15、U-12
●対象者詳細	U-15、U-12、指導者
■活動期間	2024年9月5日(木)～2024年9月7日(土)

## 【活動報告詳細】

## ■活動目的

- 世界に視野を広げるための活動の一環
- 選手が世界に視野を広げるきっかけをつくることや沖縄という地理的に不利な環境の中で指導者養成することを目的として活動した

## ■活動概要

- エラス・ヴェローナ FC のメソッドを活用したトレーニングの選手へのレクチャー(選手育成)
- 育成の考え方やメソッドから逆算したトレーニングの構築の講義(指導者養成)

## ■実施報告・成果

指導セッションではU-12とU-15を対象に指導実践をしてもらいました。最初は表情の堅かった選手たちですが、担当したアンドレアのポジティブな雰囲気や発問の仕方に工夫があり、子どもたちも主体的に動くようになり積極的にプレーするシーンが多くなりました。終了後、選手たちから「イタリアってどこだろう?」「セリア Aって強いの?」などの話題が聞こえてくる場面もあり、イタリア・ヴェローナの応援をするということから始まり、それがきっかけで世界に興味を持つ選手が増えてくれたと感じました。

コーチへのレクチャーでは選手への発問の工夫やオーガナイズで子どもたちが主体的に行動できる仕組みをつくるということを学ばせてもらいました。座学では基本的に頭を使うトレーニングが多いため、休憩などの合間に判断のいらないトレーニングを行うことでリフレッシュさせるなどの工夫をするという考えがありました。

また、ヴェローナの近辺では複数のクラブがあるため、小さな街のヴェローナでは選手スカウトに苦労していましたが、ヴェローナに対してのアイデンティティ(帰属意識)を持ってもらうことを根底に指導をするという考えっていました。

最終日では実際にアカデミースタッフがエラス・ヴェローナ FC のメソッドに沿って指導を行いました。最初は難しそうにしていた選手たちでしたが、最後には思っている以上に適応していく姿が見られました。また、指導者も試行錯誤しながら取り組んでいました。

全体を通して、多くの選手が世界に目を向ける機会ができました。また、文化の違いやコーチングフィロソフィーなど他クラブの考え方も参考になり有意義な活動でした。

## ■活動写真

